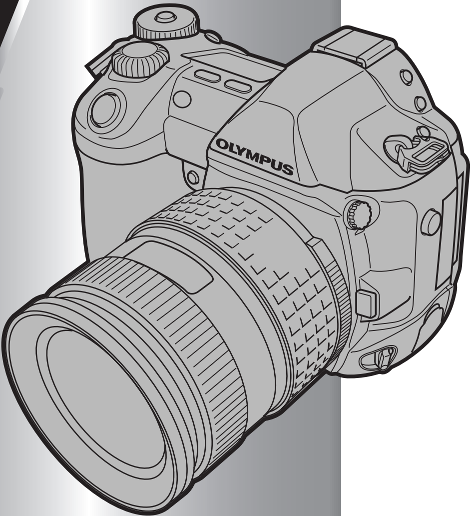
OLYMPUS

デジタルカメラ

E-1



取扱説明書

- このたびは、オリンパス製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは実際の製品とは異なる場合があります。

オリンパス デジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます

製品をご使用になる前に、カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- ●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- ●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- ●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- ●本製品の不適当な使用による、万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
Compact Flash (コンパクトフラッシュ)は米国SanDisk社の商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

取扱説明書の構成

目次

4 フォーカス ———— 51

5 露出 ———— 60

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みください。

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
  - ・誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - ・電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - ・目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - ・カメラの動作部でけがをする。
- **カメラで日光や強い光を見ない。**視力障害をきたすおそれがあります。
- **通電中のACアダプタや充電器、充電中の電池に長時間触れない。**充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタも長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
- **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。
- **専用のACアダプタや充電器、充電池以外は使用しない。**カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
- **充電器やACアダプタのコードを傷つけない。**充電器やACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
  以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
  - ・電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
  - ・充電器やACアダプタのコードに傷、断線、または電源プラグに接触不良があった場合。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- 電池は、専用の当社製リチウムイオン電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用·放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
- 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 警告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
- 所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- リチウムイオン電池の外装にキズや破損のあるものは使用しないでください。
- 液漏れ、変色、変形、その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合には、必ず充電してください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池は＋－端子がショートすると危険です。ショート防止のために、必ずキャップをしっかりとつけて保管・持ち運びください。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意することをおすすめします。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には＋－端子をテープで絶縁してから最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

使用条件についてのご注意

カメラ本体について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- カメラやレンズの電気接点には、手で触れないでください。腐食が生じて故障の原因になります。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの退色や焼きつき、シャッタ幕の破損などを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- レンズを外したときは、電気接点やレンズ面を傷つけないように、キャップを必ず取り付けてください。

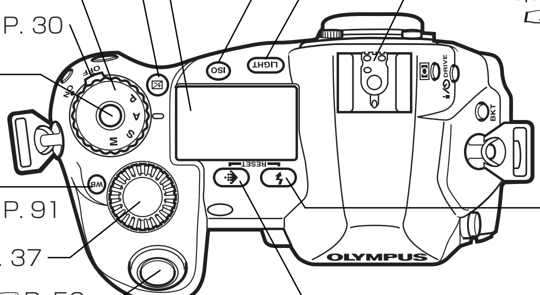
液晶モニタについて

本製品は背面の表示には、液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

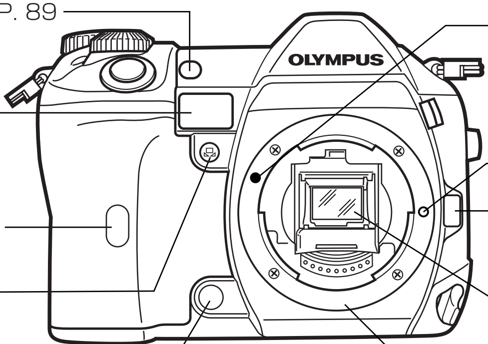
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

各部の名称

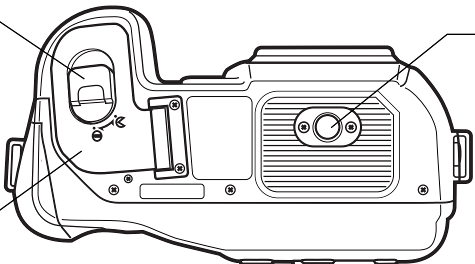
カメラ



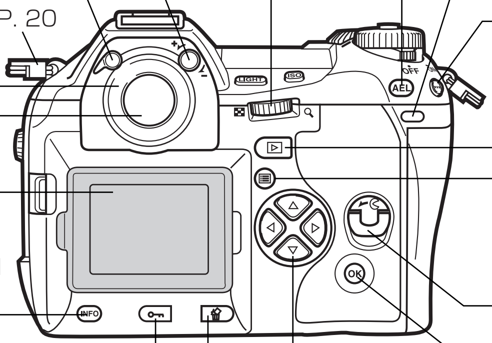
コントロールパネル ☞ P. 15
(露出補正)ボタン ☞ P. 69
モードダイヤル ☞ P. 60
パワースイッチ ☞ P. 30
モードダイヤルロック ☞ P. 60
WB(ホワイトバランス)ボタン ☞ P. 91
サブダイヤル ☞ P. 37
シャッターボタン ☞ P. 53
ISOボタン ☞ P. 87
LIGHT(ライト)ボタン ☞ P. 41
ホットシュー ☞ P. 103
(フラッシュモード)ボタン ☞ P. 107
(画質モード)ボタン ☞ P. 85

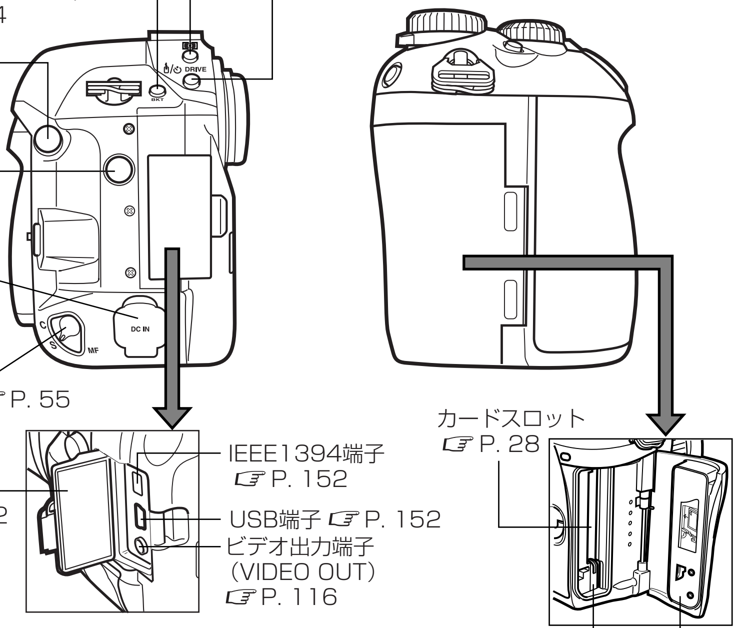


光源検出センサー ☞ P. 89
セルフタイマー／リモコンランプ／AFイルミネータ ☞ P. 59, 78～80
リモコン受信センサー ☞ P. 80
(ワンタッチWB)ボタン ☞ P. 93
プレビューボタン ☞ P. 69
レンズ合わせマーク ☞ P. 26
レンズロックピン
レンズ着脱ボタン ☞ P. 26
ミラー ☞ P. 175
マウント
(ボディキャップを外してからレンズを取り付けます。)

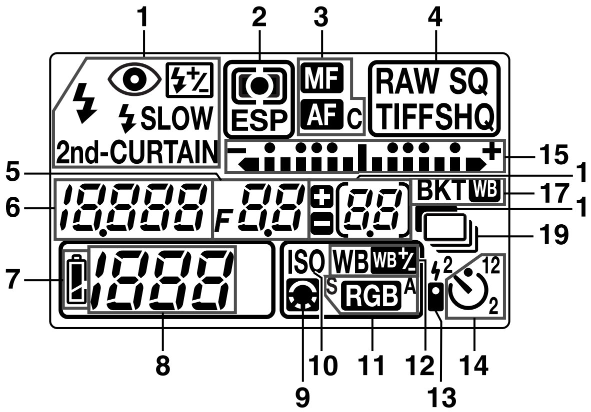


電池カバーロック ☞ P. 22
電池カバー ☞ P. 22
三脚穴

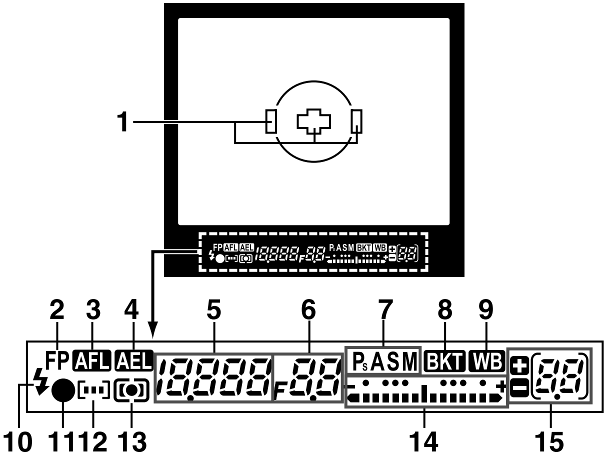

視度調整ダイヤル ☞P. 31
アイピースシャッター
レバー ☞P. 79
ストラップ取付部 ☞P. 20
アイカップ ☞P. 31
ファインダー
☞P. 16, 31, 51
液晶モニタ
(モニタカバーが付け
られています。)
☞P. 17, 31, 42, 111
INFO(情報表示)
ボタン ☞P. 113
(プロテクト)ボタン ☞P. 118
(消去)ボタン ☞P. 119
メインダイヤル
☞P. 37
AEL(AEロック)ボタン ☞P. 73
カードアクセスランプ
☞P. 23, 53, 156
(AFフレーム
選択)ボタン
☞P. 54
(再生モード)
ボタン ☞P. 111
(メニュー)
ボタン ☞P. 42
カードカバー
ロック ☞P. 28
OKボタン
☞P. 43
十字ボタン
☞P. 42


(測光)ボタン ☞P. 72
DRIVEボタン ☞P. 77
BKT(オートブラケット)
ボタン ☞P. 74
外部フラッシュ
端子
☞P. 109,110
リモート
ケーブル端子
☞P. 68
DC入力端子
フォーカス
モードレバー ☞P. 55
コネクタカバー
☞P. 116,152
IEEE1394端子
☞P. 152
USB端子 ☞P. 152
ビデオ出力端子
(VIDEO OUT)
☞P. 116
カードスロット
☞P. 28
イジェクトボタン
☞P. 28
カードカバー
☞P. 28

コントロールパネル内の表示



ファインダ内の表示



1	AFフレーム	P.53、54
2	スーパーFP発光表示	P.108
3	AFロック	P.73
4	AEロック	P.73
5	シャッター速度	P.61～68
6	絞り値	P.61～68
7	露出モード	P.62
8	オートブラケット	P.74
9	ホワイトバランス	P.92
10	フラッシュ	P.106
11	合焦マーク	P.51
12	AFフレーム	P.54
13	測光モード	P.72
14	露出レベルインジケータ	P.68
	露出補正インジケータ	P.70
15	連続撮影可能枚数	P.77
	露出補正値（ （露出補正）ボタンが押されたときのみ）	P.70

液晶モニタ内の表示（再生時のみ）

INFO(情報表示)ボタンとダイヤルを使って表示を切り替えることができます。

☞「情報表示」(P.113)



1コマ再生情報



撮影情報

1	電池残量	P.18
2	プリント予約	P.140
	プリント枚数	P.140
3	プロテクト	P.118
4	画質モード	P.84
5	日時	P.136
6	ファイル番号	P.114
7	露出モード	P.60
8	測光モード	P.72
9	ISO感度	P.87
10	カラー設定／彩度	P.98、101
11	焦点距離	P.114
12	シャッター速度	P.61～68
13	絞り値	P.61～68
14	露出補正	P.69
15	フラッシュ補正	P.108
16	ホワイトバランス	P.91
17	ホワイトバランス補正	P.94
18	コントラスト	P.97
19	シャープネス	P.96

電池残量表示

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量がなくなると、液晶モニタやコントロールパネルの電池残量表示が以下のように変化します。

電池マーク	コントロールパネル	液晶モニタ	ファインダ内の表示	状態※
	点灯	点灯（緑）	—	電池残量十分あり
	点滅	点灯（赤）	連続撮影可能枚数表示点滅	電池残量が少なくなりました。長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。
表示なし	消灯	消灯	消灯	電池残量が完全になくなりました。充電した電池と交換してください。

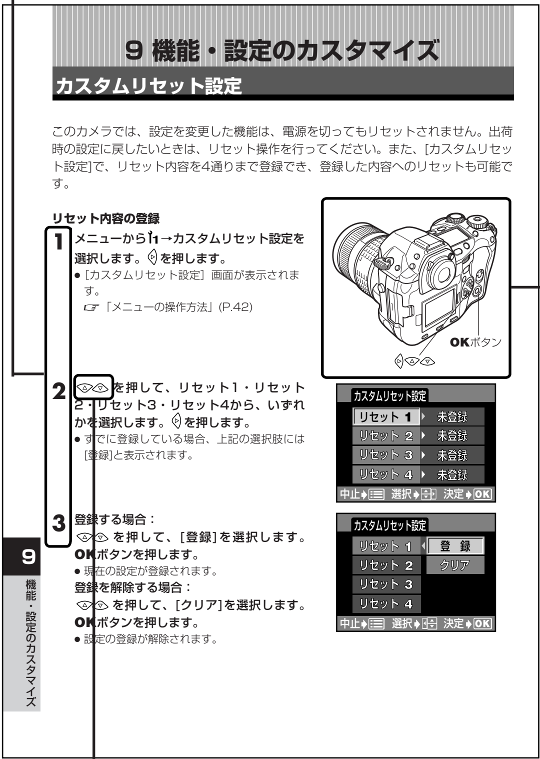
※デジタルカメラは動作状態により消費電力が大きく変わります。カメラの動作状態によっては、電池残量の警告表示なしで電源が切れることがあります。その際は電池を充電してください。

本書の見方

この取扱説明書では次のように操作方法を記載します。

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

操作手順を示します。



9 機能・設定のカスタマイズ

カスタムリセット設定

このカメラでは、設定を変更した機能は、電源を切ってもリセットされません。出荷時の設定に戻したいときは、リセット操作を行ってください。また、[カスタムリセット設定]で、リセット内容を4通りまで登録でき、登録した内容へのリセットも可能です。

リセット内容の登録

1 メニューから 1→カスタムリセット設定を選択します。を押します。
- [カスタムリセット設定] 画面が表示されます。
  ☞「メニューの操作方法」(P.42)

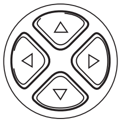
2 を押して、リセット1・リセット2・リセット3・リセット4から、いずれかを選択します。を押します。
- すでに登録している場合、上記の選択肢には[登録]と表示されます。

3 登録する場合：
を押して、[登録]を選択します。
OKボタンを押します。
- 現在の設定が登録されます。

登録を解除する場合：
を押して、[クリア]を選択します。
OKボタンを押します。
- 設定の登録が解除されます。

操作するボタンやダイヤルの位置を示します。

十字ボタンのどの方向キーを押すかを、
◁、▷、△、▽で示しています。

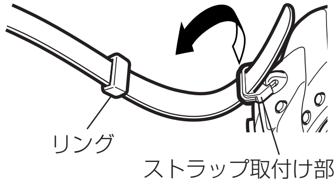


注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

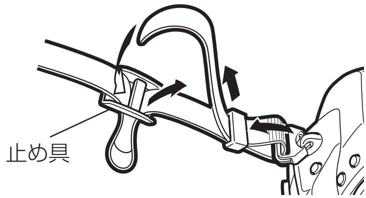
1 準備

ストラップの取り付け

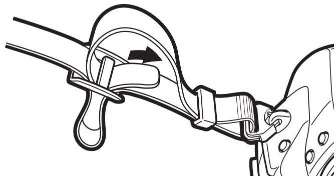
1 ストラップの端をカメラ本体のストラップ取付け部に通します。



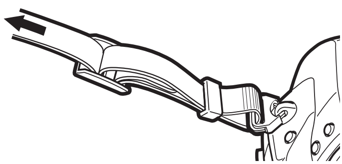
2 矢印にしたがって、ストラップの端をリングに通した後、止め具に通します。



3 ストラップの端を止め具のもう一方の穴に通します。



4 ストラップのもう一方をピンと引いて、抜けないことを確認します。



5 手順1～4にしたがって、もう一方のストラップ取り付け部にもストラップを取り付けます。

注意

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- ストラップは必ず手順にしたがって正しく取り付けてください。万一、誤った手順で取り付けたことでストラップが外れ、本体を落とすなどの事故が生じた場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池の入れ方

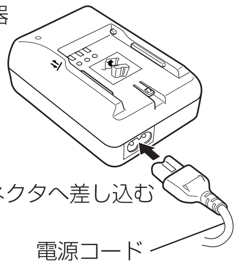
このカメラでは当社製リチウムイオン電池パック（BLM-1）1個を使用します。それ以外の電池は使用できません。
お買い上げ時の電池は十分に充電されていません。ご使用前に付属の専用充電器（BCM-1）で充電を行なってください。

注意

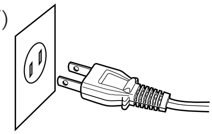
- 専用充電器以外は使用しないでください。（詳しくは充電器の取扱説明書をご覧ください。）

電池の充電

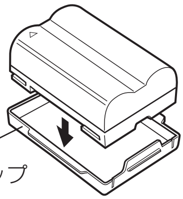
1 **充電器の電源コードを充電器本体に差し込みます。**



2 **プラグを家庭用電源コンセントに差し込みます。**

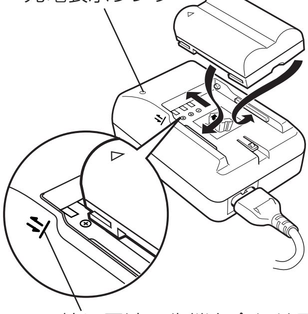


3 **電池のキャップを外します。**



4 **電池を充電器に装填します。**
図のように、充電器の表示（⇆|）に電池の先端を合わせて充電器にセットし、矢印の方向に押し込みます。

- 充電が開始されます。充電は約120分で完了します。



充電表示ランプについて

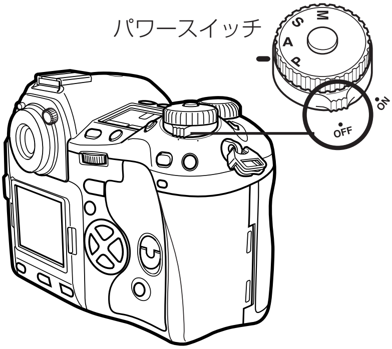
充電表示ランプの状態	充電器の状態
赤点灯	充電中
緑点灯	充電完了
赤点滅	充電エラー（タイムアウト・温度異常）

注意

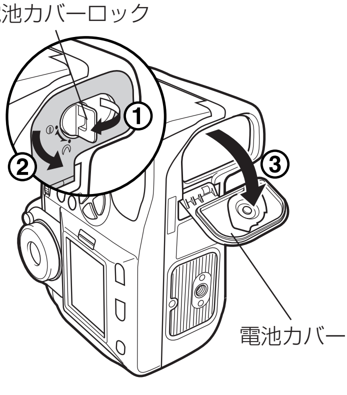
- 電池キャップは電池を保管するときに必要です。なくさないようにご注意ください。
- 以下の場合は、電源コードをコンセントから抜いて当社サービスステーションにご相談ください。
  - 6時間以上経過しても充電が完了しない。
  - 電池を正しく装填しているのに、充電表示ランプが点滅する。
- 電池の取扱説明書記載の注意事項を必ずお読みください。

電池の入れ方

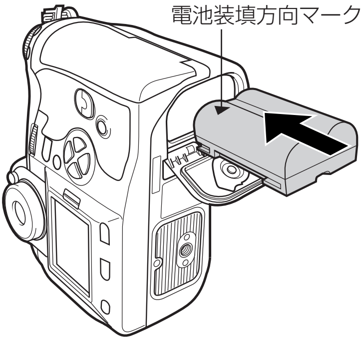
1 **パワースイッチがOFFになっていることを確認します。**



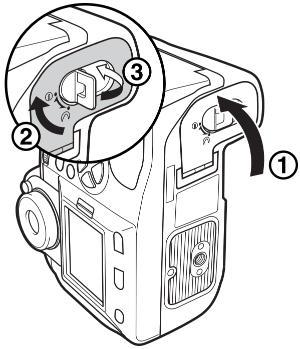
2 **電池カバーロックを⊗の方に回し、電池カバーを開けます。**



3 電池の向きを図のように入れます。

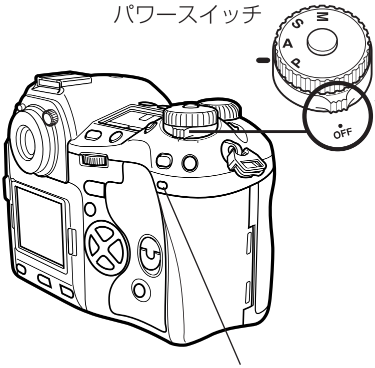


4 電池を押し込みながら電池カバーを閉め、電池カバーロックを ⊜ の方に回します。

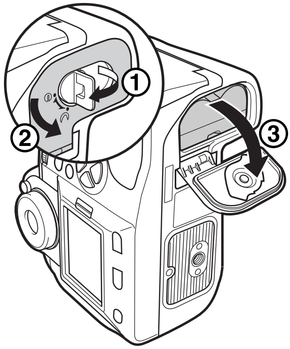


電池の取り出し方

1 パワースイッチが**OFF**になっていて、カードアクセスランプが点滅していないことを確認します。

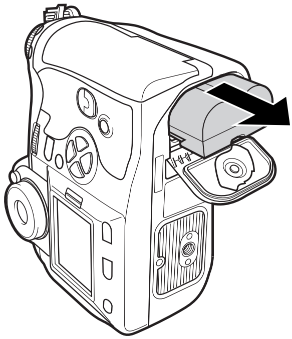


2 **電池カバーロックを≫ の方に回し、電池カバーを開けます。**

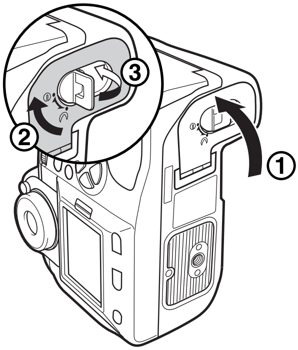


3 **電池を取り出します。**

- カメラ底面を下に向けて電池を落とさないように、注意して取り出してください。



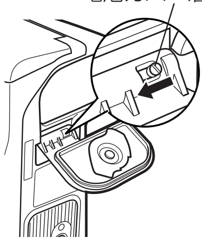
4 **電池カバーを閉め、電池カバーロックを⊖ の方に回します。**



電池カバー

別売のバッテリホルダを使用する時は、ピンを矢印の方向にスライドさせて、電池カバーを取り外します。

電池カバー着脱ピン



その他の電源について

■ ACアダプタ

別売のACアダプタ（AC-1）を使用すると、電池残量を気にせずにカメラをお使いいただくことができます。長時間の撮影や、画像をパソコンにダウンロードするなど、時間のかかる作業を行うときにご利用ください。

■ パワーバッテリーホルダーセット

別売のパワーバッテリーホルダーセット（SHLD-2）を使用すると、長時間カメラを使用することができます。
カメラへの取り付け方法については、パワーバッテリーホルダーセットの取扱説明書をご覧ください。

レンズの取り付け

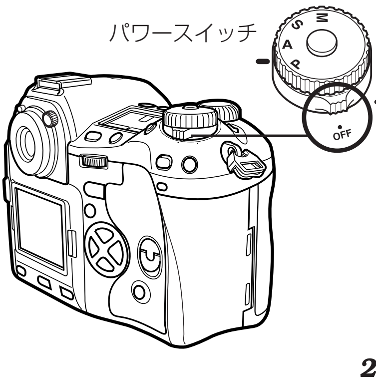
撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
レンズは専用レンズ（フォーサーズマウント）をご使用ください。専用レンズ以外では、オートフォーカス（AF)や正確な測光はできません。また、働かない機能があります。

注意

- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- 埃の多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、レンズキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、埃の侵入を防ぐためボディトキャップを装着してください。

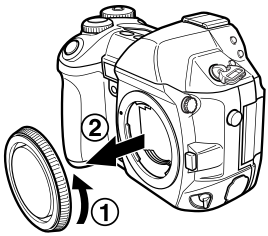
■ 取り付ける

1 **パワースイッチがOFFになっていることを確認します。**



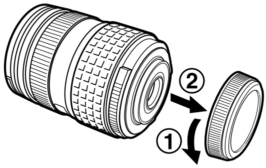
1
準備

2 カメラのボディキャップを外します。



ボディキャップ

3 レンズのリアキャップを外します。



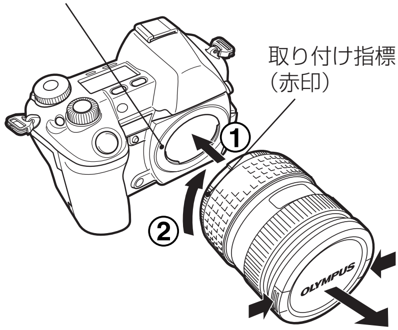
リアキャップ

4 カメラのレンズ合わせマーク（赤印）にレンズの取り付け指標（赤印）を合わせ、レンズをボディに差し込みます。レンズをカチッと音がするまで時計回りに回して、取り付けます。

5 レンズキャップを外します。

レンズ合わせマーク（赤印）

取り付け指標（赤印）

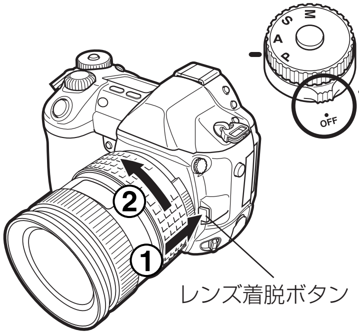


レンズキャップ

■ 取り外す

1 パワースイッチが**OFF**になっていることを確認します。

2 レンズ着脱ボタンを押しながら、反時計回りにレンズを回して取り外します。



レンズ着脱ボタン

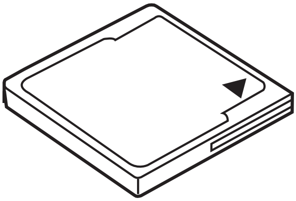
1 準備

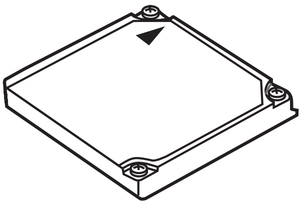
カードの入れ方

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、コンパクトフラッシュ（別売）とマイクロドライブ（別売）です。カードアダプタ（別売）を使うとxDピクチャーカードも使用できます。

■ コンパクトフラッシュ
大容量かつ堅牢性の高いフラッシュメモリーカードです。市販のコンパクトフラッシュが使用できます。

■ マイクロドライブ
大容量に対応した小型のハードディスクドライブです。CF+TypeII（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使用できます。





1 準備

マイクロドライブ使用時のご注意

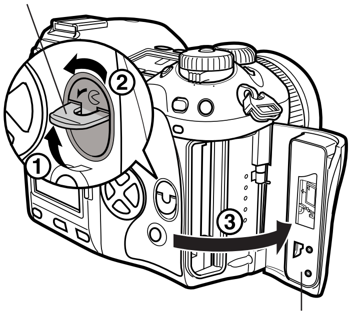
マイクロドライブは小型のハードディスクドライブです。マイクロドライブは回転系記録媒体のため、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に弱く、使用時（とくに記録中や再生中）は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分な注意が必要です。ご使用の前に以下の注意事項をよくお読みください。
マイクロドライブの取扱説明書もあわせてお読みください。

- 画像記録中にカメラを机などに置く場合は、カメラに衝撃を与えないでください。
- カメラをストラップで下げているときは、周囲にカメラをぶつけないよう注意してください。
- 工事などで地盤が振動している場所や、舗装の悪い道を走行中の車など、カメラに激しく振動が伝わる場所では使用しないでください。
- 強い磁気のある場所へ近づけないでください。
- 動作確認されているマイクロドライブ（2003年7月現在）
  日立／IBM製
    DSCM-1100(1GB)
    DSCM-10512(512MB)
    DSCM-10340(340MB)

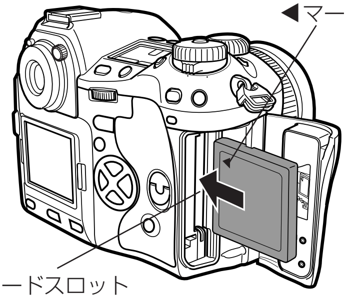
カードの入れ方／取り出し方

■ 入れる

1 **カードカバーロックを矢印の方向に回し、カードカバーを開けます。**

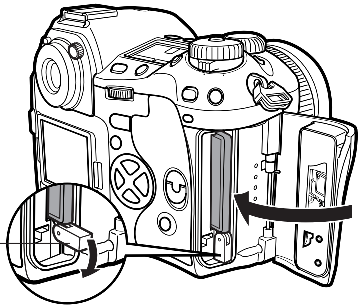


2 **カードを◀マークのある側を液晶モニタ側（カメラ背面）にして、図のように奥まで差し込みます。**



3 **カードカバーを閉じます。**

- イジェクトボタンが起きているときは、倒します。



こんなときは

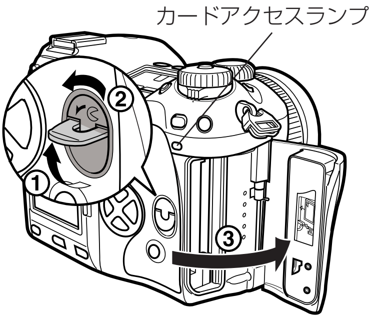
カードを入れたのに[このカードは使用できません]と表示され、画像の読み出しができない。

→ このカメラでフォーマットするか、パソコンでSCANDISKをかけてください。

☞「フォーマット（カードセットアップ)」(P.134)

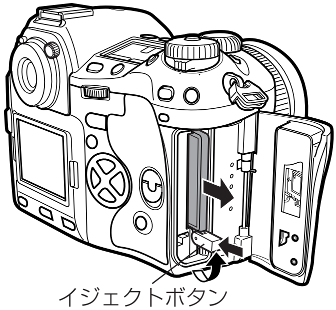
■ 取り出す

1 カードアクセスランプが消えていることを確認します。



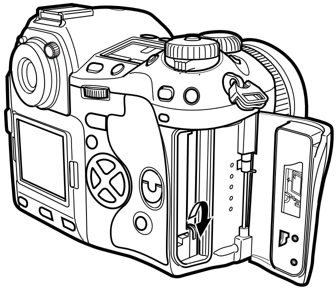
2 カードカバーを開けます。

3 イジェクトボタンを起こします。

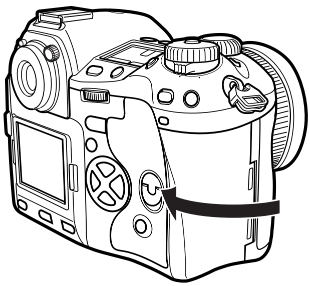


4 イジェクトボタンをゆっくりと押します。
- カードが出てきます。
- イジェクトボタンを強く押すとカードが勢いよく飛び出してくる場合があります。
- カードをつまんで取り出します。

5 イジェクトボタンを倒します。

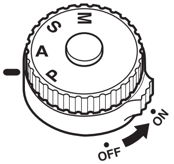


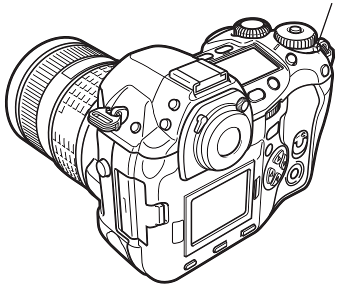
6 カードカバーを閉じます。



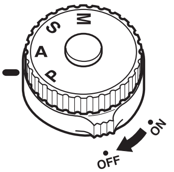
電源を入れる／切る

電源を入れる　：パワースイッチを**ON**の位置にします。





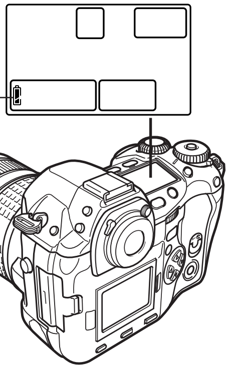
電源を切る　：パワースイッチを**OFF**の位置にします。



撮影した画像には、日付の情報をもとにファイル番号が付けられます。電源を入れたら日時設定が正しいことを確認してください。

電池残量の確認

パワースイッチをONにすると、コントロールパネルに電池残量マークが出ます。
☞「電池残量表示」(P.18)



ダストリダクション機能の作動

電源を入れたとき、CCD前面のゴミを超音波振動で払い落とすダストリダクション機能が自動的に働きます。☞「お手入れと保管」(P.173)

日付・時刻の設定

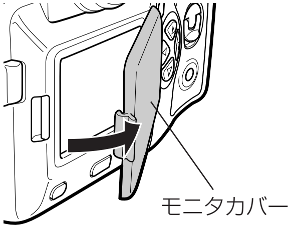
撮影した画像は日付・時刻とともに記録されます。☞「日時設定」(P.136)

表示言語の切り替え

液晶モニタに表示する言語を選択します。☞「表示言語の切り替え」(P.135)

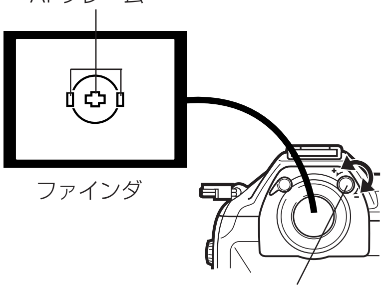
モニタカバー

液晶モニタには、汚れや破損を防ぐためのモニタカバーが取り付けられています。取り付けた状態でも液晶モニタを見ることはできますので、通常は取り付けたままでご使用ください。取り外す場合は右図のようにしてください。



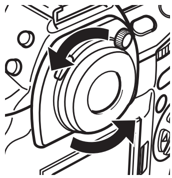
ファインダの視度調整

ファインダを覗きながら、視度調整ダイヤルを右または左に少しずつ回します。
AFフレームがはっきり見えたら調整完了です。



アイカップ

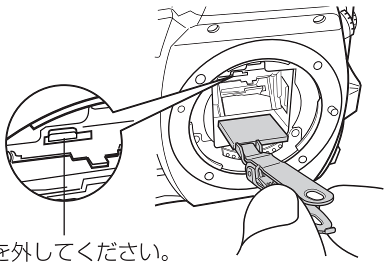
ファインダを見やすくするために、別売のアイカップもお使いいただけます。カメラに取り付けられているアイカップを取り外してから、別売アイカップを取り付けてください。アイカップを取りはずには、図のように回します。



アイカップの取り外し方

ファインダスクリーン

別売の方眼スクリーンに交換することができます。交換は、必ずスクリーンのセットに付属されているピンセットを使って行ってください。交換方法はスクリーンの取扱説明書をお読みください。



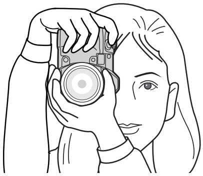
カメラの構え方

1 カメラのグリップを右手で包むように持ち、脇をしめます。

2 ひじを軽く体につけ、左手でレンズ部分を下から支えるように持ちます。

3 カメラを構え、撮影します。
● 片足を軽く踏み出すと上半身が安定します。



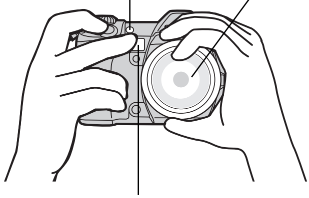


縦位置

注意

● カメラを構えたときにレンズ、AFイルミネータ、光源検出センサーに指やストラップがかからないように注意してください。

悪い例

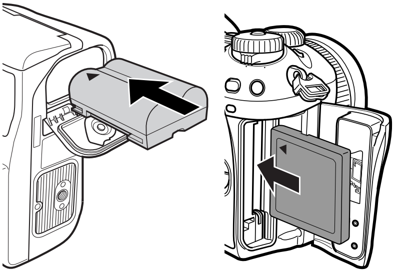


2 撮影と再生の基本

以下は撮影から再生までの基本的な操作手順です。また、各手順で役立つ主な機能を紹介しています。

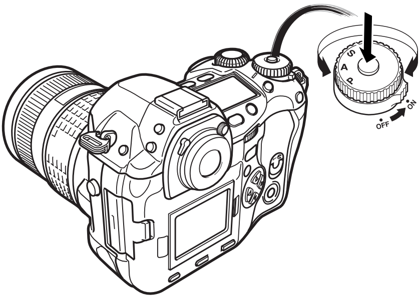
1 撮影の準備

電池を充電します。
レンズを取り付けます。
電池とカードをカメラに入れます。



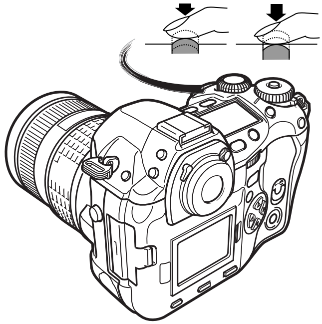
2 撮影機能の設定

電源を入れます。
日付を設定します。
露出モードをセットします。



メニュー＆ボタン	(P. 36)
露出モード	(P. 60)
フォーカスモード	(P. 55)
ドライブモード	(P. 77)
画質モード（RAW・TIFF・SHQ・HQ・SQ）	(P. 83)
ISO感度	(P. 87)
ホワイトバランス	(P. 89)
プレビュー機能	(P. 69)
フォーマット（カードセットアップ）	(P.134)

3 撮影する



シャッターボタンを半押しします。

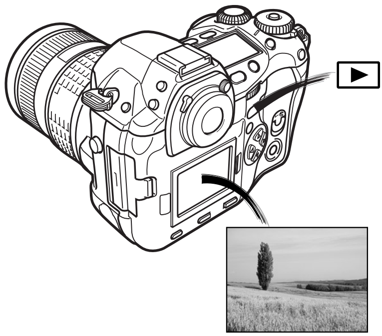
- ピントが合い、合焦マークが点灯します。

シャッターボタンを押し込みます。（全押し）

- 撮影されます。カードアクセスランプが点滅し、画像が記録されます。

フォーカスロック (P. 53)
AEロック (P. 73)
AFロック (P. 73)
AFフレーム選択 (P. 54)
露出補正 (P. 69)
測光モード（デジタルESP測光・中央重点測光・スポット測光） (P. 72)
レックビュー (P. 133)

4 再生する

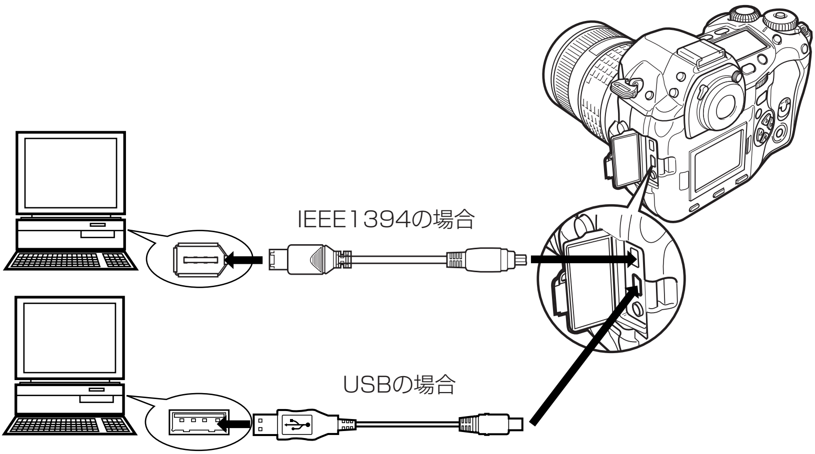


▶（再生モード）ボタンを押します。
画像が再生されます。

情報表示 (P. 113)
クローズアップ再生 (P. 112)
インデックス再生 (P. 112)
自動再生（スライドショー） (P. 115)
回転再生 (P. 115)
画像のプロテクト (P. 118)
RAW編集 (P. 117)
画像の消去 (P. 119)
テレビ再生 (P. 116)

5 パソコンへの画像転送

USBケーブルまたはIEEE1394ケーブルを接続します。
(Windows 98/98SE/2000/Me/XP、Mac OS9.0〜9.2/X)
カメラの電源を入ます。
画像データをパソコンに転送します。



PCモード	(P. 137)

3 ボタン&メニュー

このカメラは、いろいろな撮影状況に適応できるように、多くの機能を備えています。それぞれの機能は、ボタンやダイヤルまたはメニューを使って設定します。

ボタンで設定する機能　：ボタンとダイヤルを使って、コントロールパネルを見ながら機能を設定します。

メニューで設定する機能：液晶モニタに表示されるメニューを見ながら、機能を設定します。

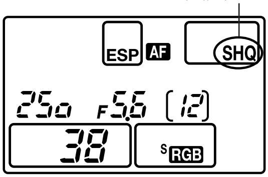
ボタンとダイヤルで設定する機能

ボタンとダイヤルの操作方法

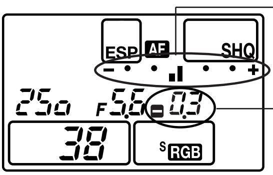
1 設定したい機能のボタンを押します。

● 機能によっては、コントロールパネルの表示が変わります。

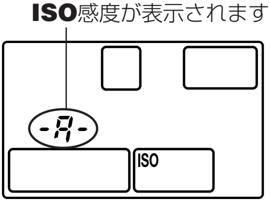
コントロールパネル



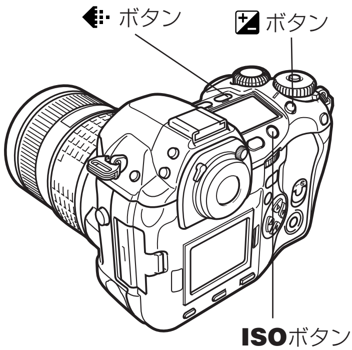
（画質モード）ボタンを押したとき



（露出補正）ボタンを押したとき（機能設定表示中）

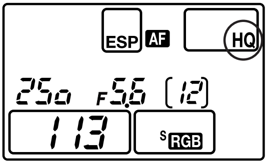


ISOボタンを押したとき（機能設定表示中）

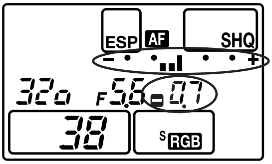


2 ボタンを押したままで、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。
- 設定値が変わります。

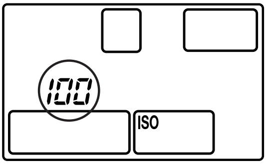
コントロールパネル



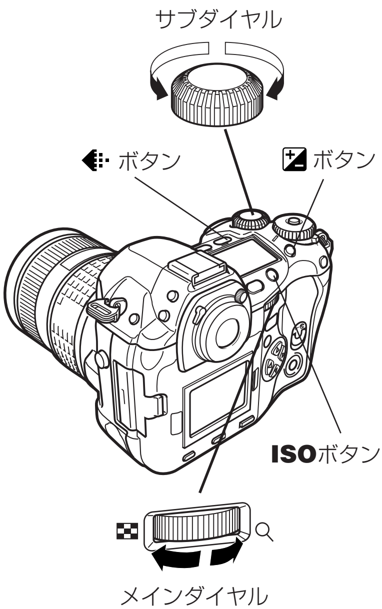
画質を変更したとき



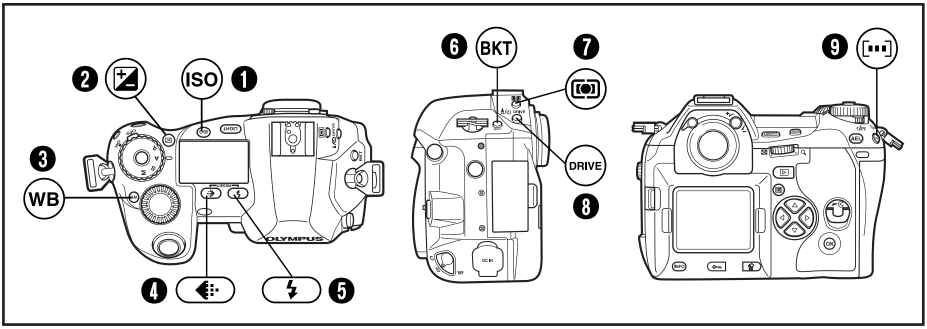
(露出補正）を変更したとき

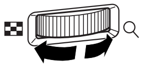


ISOを変更したとき



ボタンの種類

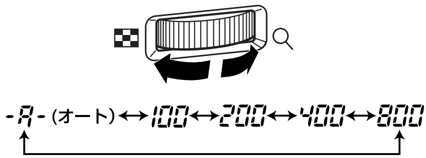


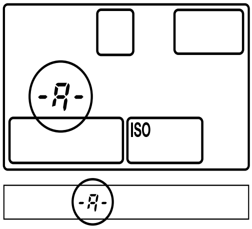


ボタンを押しながらメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、機能の設定を行います。

❶ ISOボタン ☞P. 87

ISO感度を設定。

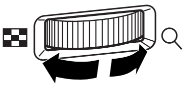


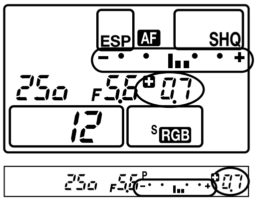


- ISO感度拡張によって、1600と3200を使用することもできます。☞「ISO感度拡張モードの設定」(P.88)

❷ （露出補正）ボタン ☞P. 69

露出補正値を設定。





露出補正値：

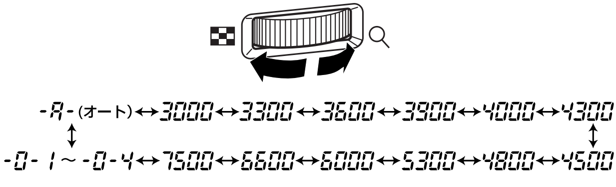
−1.0↔ −0.7↔ −0.3↔ 0.0↔ 0.3↔ 0.7↔ 1.0

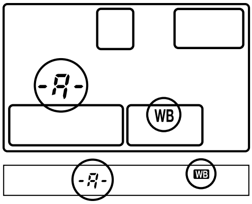
- 露出は±5.0EVの範囲で補正。露出ステップは1/3EV・1/2EV・1EV刻みを選択可能。露出補正量は、露出ステップを変更していると変わります。

☞「露出ステップ」(P.129)

❸ WB（ホワイトバランス）ボタン ☞P. 91

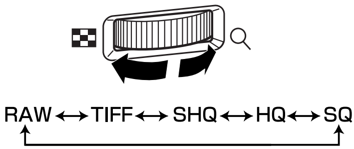
光源に合わせて、オート、プリセットホワイトバランス、またはあらかじめ登録したワンタッチホワイトバランスから選択。

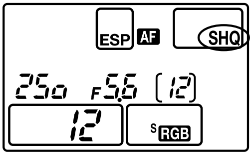




❹ ◀▪▪（画質モード）ボタン ☞P. 85

撮影する画質を選択。

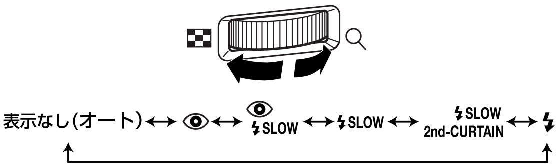


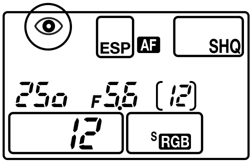


● SQモードはメニューで圧縮率や画像サイズを選択できます。☞「SQモードの設定」(P.85)

❺ ⚡（フラッシュモード）ボタン ☞P. 107

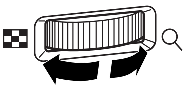
フラッシュモードをオート発光・赤目軽減発光・スローシンクロ・強制発光より選択。

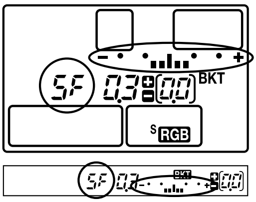




❻ BKT（オートブラケット）ボタン ☞P. 74

ブラケット撮影の連写枚数と露出の補正値を選択。





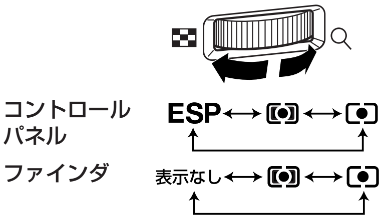
撮影枚数／露出の補正値：

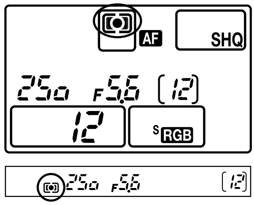
OFF↔3F/0.3↔3F/0.7↔3F/1.0↔5F/0.3↔5F/0.7↔5F/1.0

●補正ステップは、露出ステップを変更していると変わります。
☞「露出ステップ」(P.129)

❼ [測光アイコン]（測光）ボタン ☞P. 72

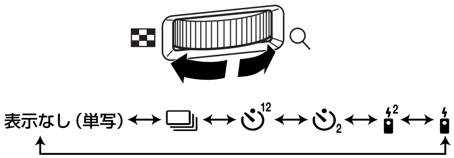
測光モードを選択。

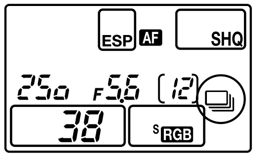




❽ DRIVEボタン ☞P. 77

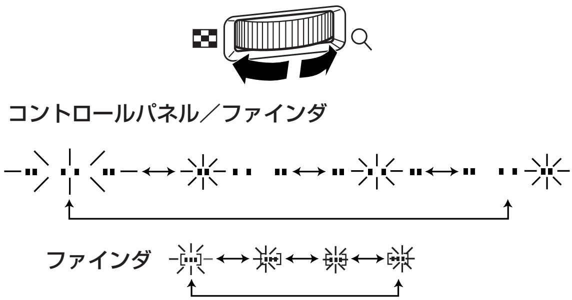
ドライブモードを選択。

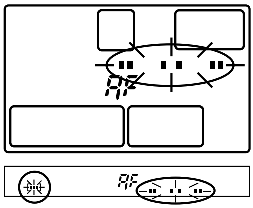




❾ [AFフレームアイコン]（AFフレーム選択）ボタン ☞P. 54

AFフレームを選択。マルチAFか、3点のいずれかのフレームでAFするように設定できます。





■ その他のボタン

（ワンタッチWB）ボタン ☞P. 93

ワンタッチWBの登録に使用。

AEL（AEロック）ボタン ☞P. 73

露出を固定。

LIGHT（ライト）ボタン

コントロールパネルの照明をオン／オフ。

▶（再生モード）ボタン ☞P. 111

撮影した画像を液晶モニタで再生。

（消去）ボタン ☞P. 81、119

不要な画像を消去。撮影モード中でも、このボタンを押すと画像を再生します。

（プロテクト）ボタン ☞P. 118

画像を誤って消去しないように、消去禁止の設定をします。

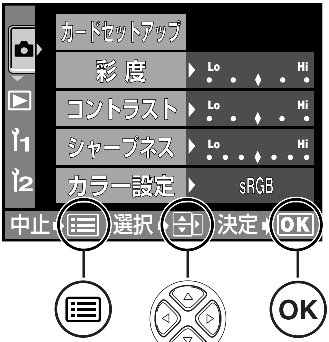
INFO（情報表示）ボタン ☞P. 113

撮影した画像の情報を表示。

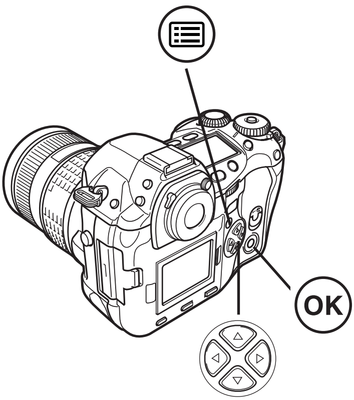
メニューの操作方法

液晶モニタに表示されるメニューを見ながら、十字ボタンを使って機能を選択し、設定します。

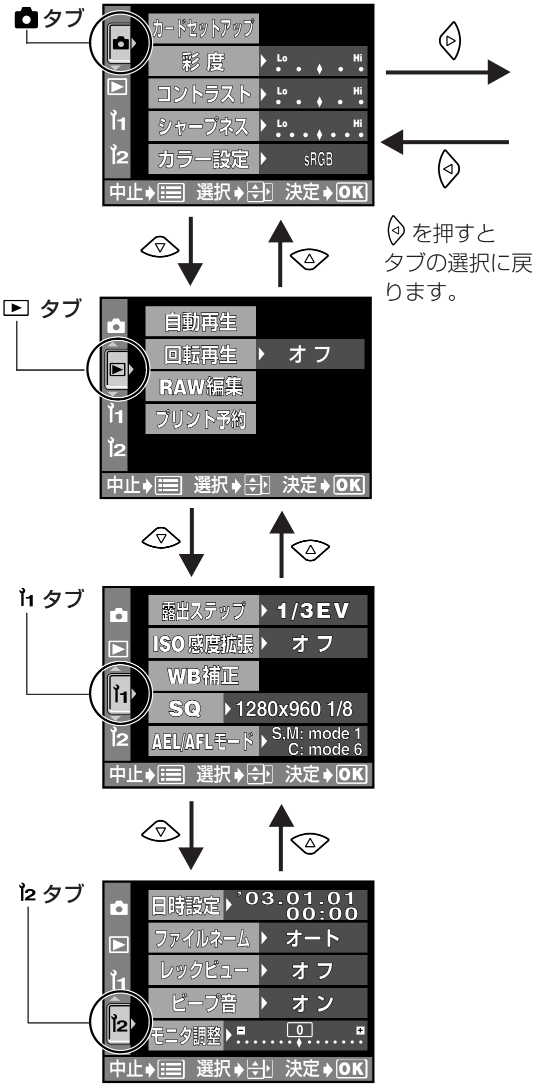
1 （メニュー）ボタンを押すと、メニューが液晶モニタに表示されます。



メニュー画面に必要な操作ボタンが表示されます。

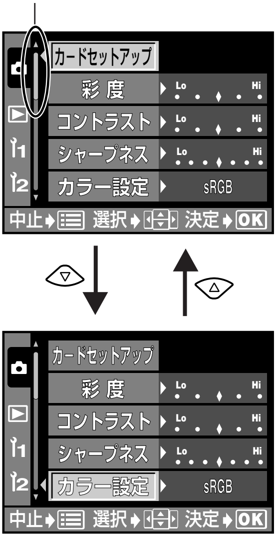


2 を押してタブを選択し、を押します。

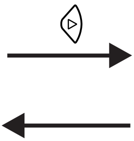


3 △▽ を押して設定する項目を選択し、▷ を押します。

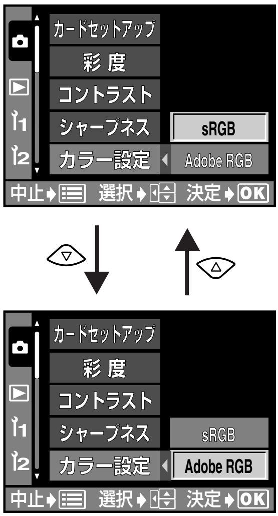
スライダバー
次のページにもメニュー機能があるときは、スライダバーが表示されます。



選択された項目に緑色の枠が移動します。



◁ または
☰ ボタンで
キャンセル。
OKボタンで確定。



4 △▽ を押して設定を変更します。**OK**ボタンを押すと設定が完了します。再度**OK**ボタンを押すと、メニューが終了し、撮影できる状態になります。
選択をキャンセルするには、☰ ボタンを押します。

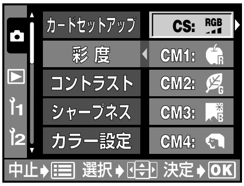
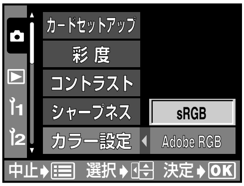
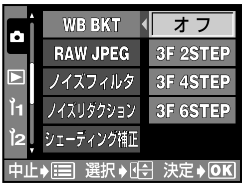
- **OK**ボタンを押さずに ◁ または ☰ で戻った場合は、設定されていません。

注意

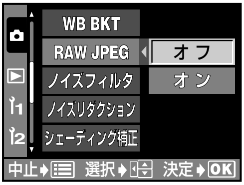
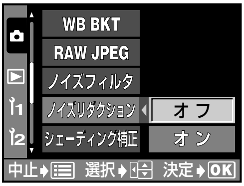
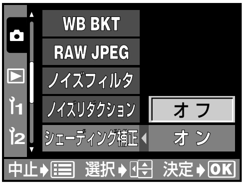
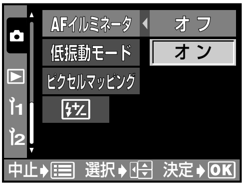
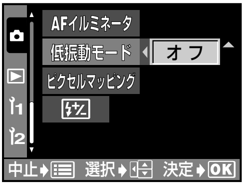
- カメラの状態や設定内容などにより、設定が無効な項目があります。
- 電源を切っても設定は保存されています。☞「カスタムリセット設定」(P.122)

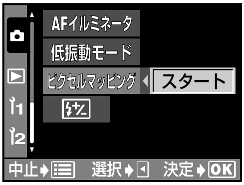
メニュー機能一覧

撮影メニュー

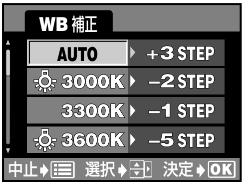
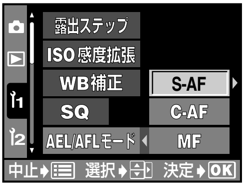
メニュー画面	内容	参照ページ
	**カードセットアップ** カードをフォーマットしたり、撮影した全コマを消去します。	P.134
	**彩度** 画像の色合いを設定します。CS0～CS4は彩度レベルの設定、CM1～CM4は特定色を強調する設定です。彩度レベルは、5段階に設定できます。色合いは、CM1は赤、CM2は緑、CM3は青、CM4は人物の肌の質感を強調します。彩度レベルと色合いは、同時に選択できません。	P.98
	**コントラスト** 画像のコントラスト（明暗の差）を設定します。コントラストは、5段階に設定できます。	P.97
	**シャープネス** 画像の先鋭度を設定します。シャープネスは、7段階に設定できます。	P.96
	**カラー設定** 撮影した画像の色空間を設定します。	P.101
	**WB BKT** WBブラケット撮影をします。補正ステップを3段階から選択できます。	P.76

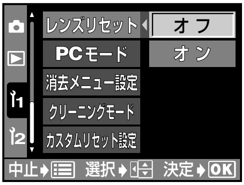
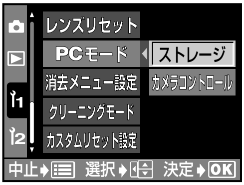
撮影メニュー

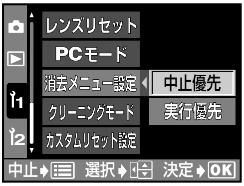
メニュー画面	内容	参照ページ
	**RAW・JPEG** SHQ・HQ・SQの画質とともに、RAWデータでも同時に記録します。	P.86
	**ノイズフィルタ** 通常の撮影で発生するランダムノイズを抑えます。撮影後の処理時間がかかります。	P.99
	**ノイズリダクション** 低輝度下の長時間露光時に発生する画像のノイズを減少させます。	P.99
	**シェーディング補正** レンズの特性による、画面周辺の減光を補正します。	P.101
	**AFイルミネータ** 低輝度でのAFイルミネータの点灯を禁止します。	P.59
	**低振動モード** ミラーアップ後、時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラブレを最小限に抑えた撮影をすることができます。	P.82

	メニュー画面	内容	参照ページ
撮影メニュー		**ピクセルマッピング** CCDと画像処理機能のチェックと調整を行います。同時にほこり・ごみの払い落としも行います。	P.174
		専用フラッシュを使用した際のフラッシュの発光量を補正します。±2.0の範囲で設定できます。	P.108
再生メニュー		**自動再生** カードに記録されている静止画を自動的に連続再生します。インデックス表示で自動再生することもできます。	P.115
		**回転再生** 回転再生を使用可能にします。 サブダイヤルを使って、画像を回転して表示します。	P.115
		**RAW編集** RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスの画像処理をおこなって、TIFFやJPEG画像を作成し保存します。	P.117
		**プリント予約** プリント予約の設定をします。プリント枚数や日付の印刷、インデックスプリントの指定をします。	P.139

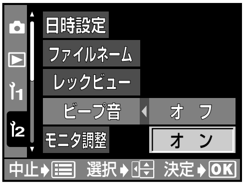
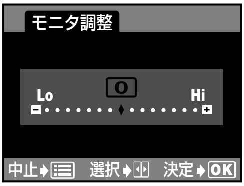
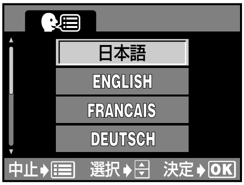
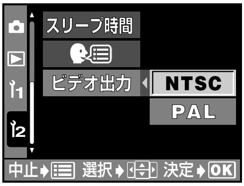
カスタムメニュー

メニュー画面	内容	参照ページ
	**露出ステップ** シャッター速度・絞り値・露出補正値などを変更する際のダイヤル1クリック分の変化量を設定します。	P.129
	**ISO感度拡張** ISO感度1600と3200を使用可能にします。	P.88
	**WB補正** オートホワイトバランスとプリセットホワイトバランス（3000K～7500K）のそれぞれを±7の範囲で補正します。	P.94
	**SQ** 画質モードSQの画像サイズと圧縮率を設定します。	P.85
	**AEL/AFLモード** **AEL**（AEロック）ボタンを押したときのAEやAFの働き方を、使用目的に応じて変更できます。	P.126
	**ダイヤル** P・A・Sのモード別に、メインダイヤルとサブダイヤルに機能を割り当てます。Pシフト・絞り・シャッター速度・露出補正のいずれかを割り当てます。	P.130

	メニュー画面	内容	参照ページ
カスタムメニュー		**フォーカスリング** フォーカスリングの回転によるピントの移動方向を逆にできます。	P.131
		**S-AF時MF** S-AFモードのときに、ピントが合ったあとフォーカスリングを使ってピント位置を調整できます。	P.56
		**レリーズ優先S** S-AFモードのときに、ピント合わせやフラッシュの充電完了を待たずに、シャッターを切ることができます。	P.58
		**レリーズ優先C** C-AFモードのときに、シャッターボタンの半押しでピント合わせの途中でも、全押しでシャッターを切ることができます。	P.58
		**レンズリセット** 電源を切ったときの、フォーカスレンズ位置をリセットします。	P.131
		**PCモード** カメラをパソコンに接続したときの動作を選択します。カメラとパソコンの間でデータの転送のみを行うか（ストレージモード）、専用ソフトウェアでカメラをコントロールするか（カメラコントロール）を選べます。	P.137

	メニュー画面	内容	参照ページ
1 カスタムメニュー		**消去メニュー設定** 画像の消去・カード書き込み中止・フォーマットの「実行」「中止」選択画面で、カーソルの初期位置を選択できます。	P.131
		**クリーニングモード** クリーニングモードでシャッターボタンを全押しすると、ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。	P.175
		**カスタムリセット設定** リセットの設定を4つまで登録できます。	P.122
2 セットアップメニュー		**日時設定** カメラの日時を設定します。撮影日時が画像といっしょに保存されます。。ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。	P.136
		**ファイルネーム** 撮影した画像のファイルNoのつけ方を変更できます。カードを交換してもファイルNoを継続するか、リセットするかを選択します。	P.132
		**レックビュー** 撮影した画像の記録中に、その画像を液晶モニタに表示します。	P.133

セットアップメニュー

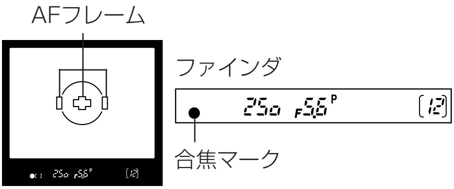
メニュー画面	内容	参照ページ
	**ビープ音** カメラの警告音を消します。	P.133
	**モニタ調整** 液晶モニタの明るさを調整します。	P.133
	**スリープ時間** スリープモード（待機状態）に入るまでの時間を設定します。オフを選択すると、スリープモードには入りません。	P.134
	液晶モニタに表示する言語を選択します。	P.135
	**ビデオ出力** お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。ビデオケーブルを接続する前に設定してください。	P.135

4 フォーカス

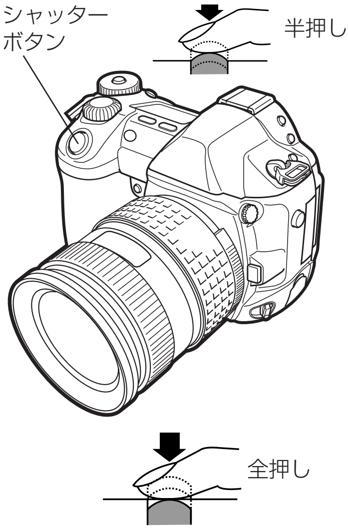
オートフォーカス(AF)

カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

1 被写体にAFフレームを合わせます。シャッターボタンを半押しします。
- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します（フォーカスロック）。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。



2 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。
- 撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、画像が記録されます。



こんなときは

合焦マークが点滅している
- → 被写体にピントが合っていません。☞「フォーカスロック」(P.53)、「AFフレームの選択」(P.54)
- → 被写体が暗く、ピントが合うには明るさが足りません。☞「AFイルミネータ」(P.59)
- → 被写体の条件によってはピントが合わないことがあります。☞「オートフォーカス（AF）が苦手な被写体」(P.52)
- → AFができない場合、マニュアルフォーカス（MF）をします。☞「マニュアルフォーカス(MF)」(P.58)

ピピッという音を消したい
- → 警告音などを消すことができます。☞「ビープ音」(P.133)

撮影した画像をすぐに確認したい
- → 液晶モニタで確認できます。☞「レックビュー」(P.133)

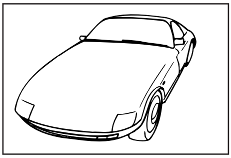
シャッターチャンスを逃さず撮影したい
- → シャッターボタンの全押しで、ピント合わせの途中でも撮影できます。☞「レリーズ優先」(P.58)

注意
- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がブレる原因になります。

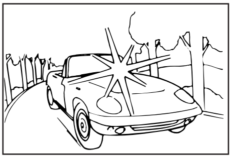
オートフォーカス（AF）が苦手な被写体

次のような場合、AFでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック（P.53）やMF（P.58）を使って撮影するか、AFフレームの選択（P.54）を行って撮影してください。

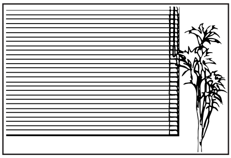
合焦マークが点滅
このようなものにはピントが合いません



コントラストがはっきりしない被写体



画面内に極端に明るいものがある場合（逆光）

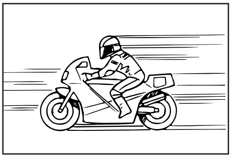


繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合いません



遠いものと近いものが混在する場合



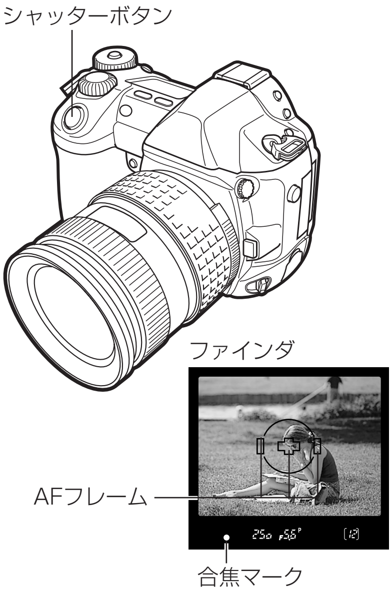
動きの速いもの



被写体がAFフレーム内にない

フォーカスロック

ねらった被写体にピントが合わないときは、以下の方法でピントを固定（フォーカスロック）して撮影することができます。



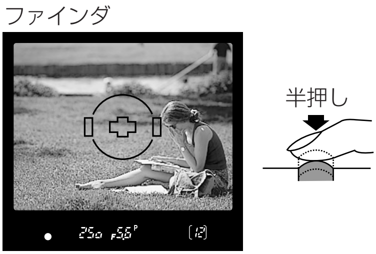
1 **ピントを合わせたい被写体に、AFフレームを合わせます。**

- ピントが合いにくい場合や、被写体が速い動きをする場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体にAFフレームを合わせます。

2 **シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。**

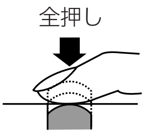
- ピントが固定されます。
- 合焦マークが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらして、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

3 **半押しした状態のまま、撮影したい構図にします。**



4 **シャッターボタンを押し込みます。（全押し）**

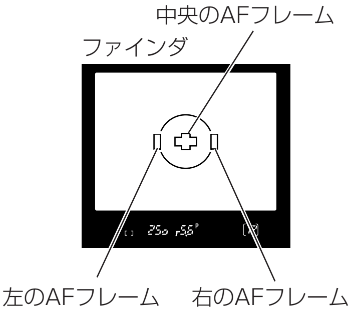
- 撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、画像が記録されます。



4 フォーカス

AFフレームの選択

通常はファインダ内の3ケ所のAFフレームで被写体までの距離を測定し、最適なポイントを選択します。1つのAFフレームだけを選択することもできます。



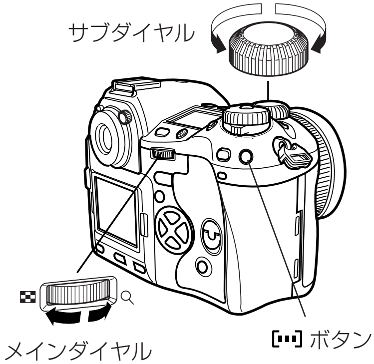
表示なし　：3つのAFフレームを使ってピントを合わせます。（初期設定）

[･]　：左のAFフレームを使ってピントを合わせます。

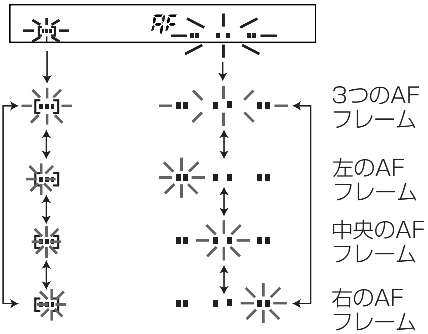
[･]　：中央のAFフレームを使ってピントを合わせます。

[･]　：右のAFフレームを使ってピントを合わせます。

1 **[･･･]（AFフレーム選択）ボタンを押しながら、選択したいAFフレーム（点滅）が表示されるまでメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。**

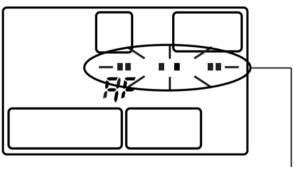


AFフレーム選択時のファインダ内表示



2 **撮影します。**

コントロールパネル

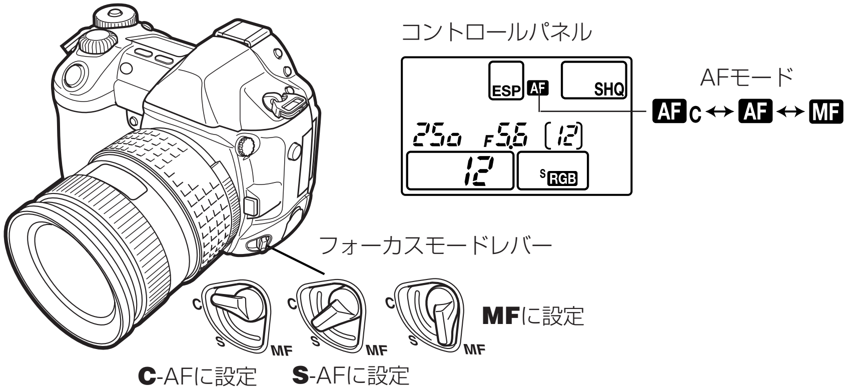


コントロールパネル内の表示は、ファインダ内の表示と同様に切り替わります。

フォーカスモード

フォーカスモードには、S-AF（シングルAF）・C-AF（コンティニュアスAF）・MF（マニュアルフォーカス）があります。フォーカスモードの切り替えは、フォーカスモードレバーで行います。

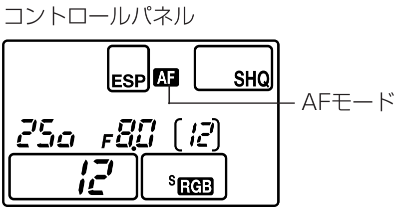
☞S-AF（シングルAF）モードでの撮影（下記参照）、C-AF（コンティニュアスAF）モードでの撮影（P.57）、マニュアルフォーカス（MF）（P.58）



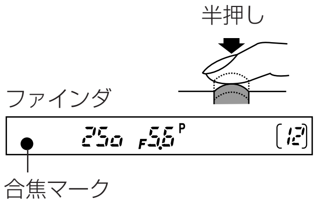
S-AF（シングルAF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

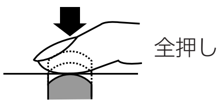




1 **シャッターボタンを半押しします。**
- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。



2 **半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。**



こんなときは

シャッターチャンスを逃さず撮影したい

→ シャッターボタンの全押しで、ピント合わせの途中でも撮影できます。☞「レリーズ優先」(P.58)

AFしても手動で微調整したい

→ AFした後、手動で微調整ができます。☞「S-AFモードとMFモードの併用（S-AF時MF)」（下記参照)

「オートフォーカス（AF)」の「こんなときは」(P.51）もお読みください。

■ S-AFモードとMFモードの併用（S-AF時MF)

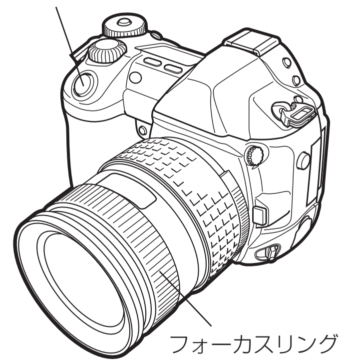
S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。

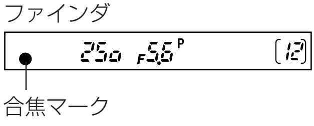
1 **メニューから🔧1 →S-AF時MF→オンを選択します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)

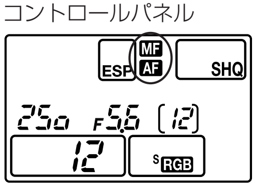
2 **シャッターボタンを半押ししてAFします。**
● ピントが合うと合焦マークが点灯します。

3 **シャッターボタンを半押ししたままで、フォーカスリングを使って、ピントの微調整をします。**

4 **撮影します。**







注意

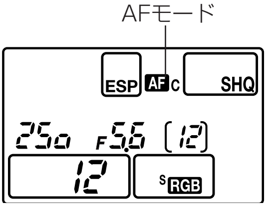
● フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押し直すと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

C-AF（コンティニュアスAF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。



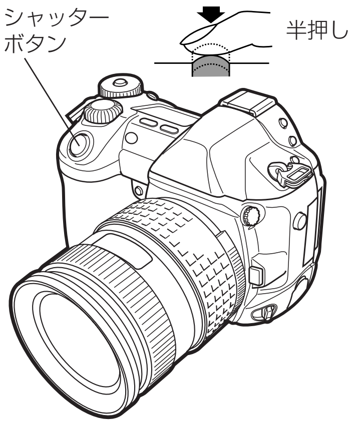




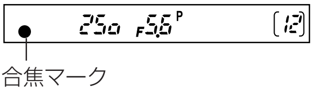
コントロールパネル

1 **シャッターボタンを半押しし続けます。**

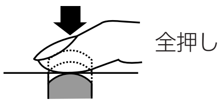
- 被写体にピントが合い、露出が固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- コントロールパネルに、シャッター速度と絞り値が表示されます。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。



ファインダ



2 **半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。**

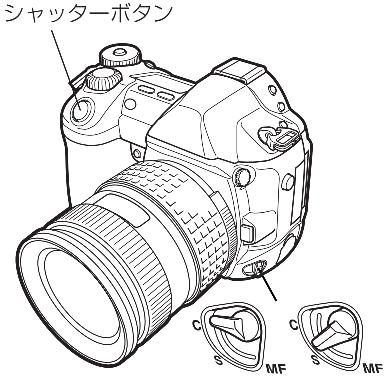


レリーズ優先

ピント合わせやフラッシュの充電完了を待たずに、シャッターを切ることができます。シャッターチャンスを優先する撮影に適しています。S-AFモードとC-AFモードで個別にレリーズ優先を設定できます。[レリーズ優先C]が[オン]に設定されていると、動体予測は働きません。

1 S-AFモード：
メニューから ⚙1 →レリーズ優先S→オンを選択します。
C-AFモード：
メニューから ⚙1 →レリーズ優先C→オンを選択します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)

2 **シャッターボタンを全押しします。**
- AFが終了していなくてもシャッターが切れます。



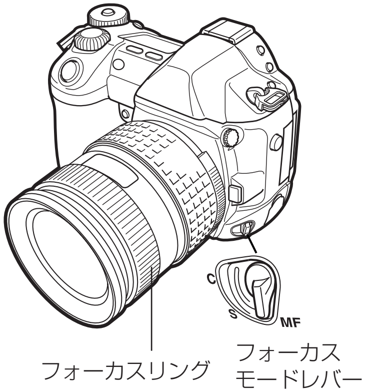
マニュアルフォーカス（MF）

ファインダをのぞきながら任意の位置に手動でピント合わせをすることができます。

1 **フォーカスモードレバーをMFにします。**

2 **フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。**

3 **撮影します。**



フォーカスリングの回転方向

フォーカスリングの回転方向を選択し、ピントの移動方向を切り替えることができます。

☞「フォーカスリング」(P.131)

フォーカスエイド

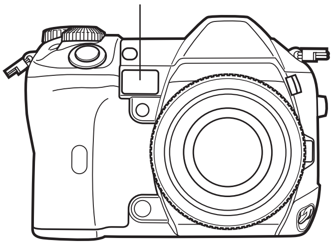
フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。3点のAFフレームを選択している場合は、中央のAFフレームでのピントが選択されます。

AFイルミネータ

メニューでオンに設定しておくと、暗い場所でピントが合いにくいときに自動的に、AFイルミネータが点灯します。

1 **メニューから📷→AFイルミネータ→オンかオフを選択します。**

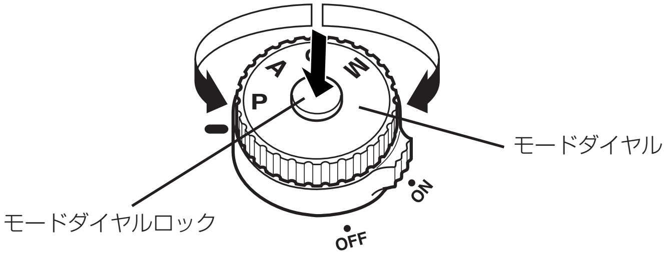
☞「メニューの操作方法」(P.42)

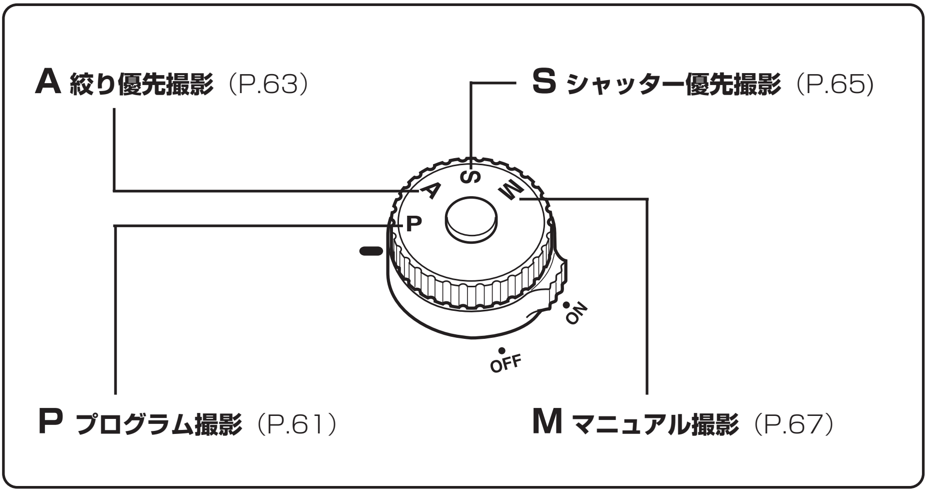


5 露出

露出モード

このカメラは4つの露出モードを備えており、それぞれモードダイヤルで切り替えることができます。モードを切り替えるには、モードダイヤルロックを押しながらモードダイヤルをまわします。

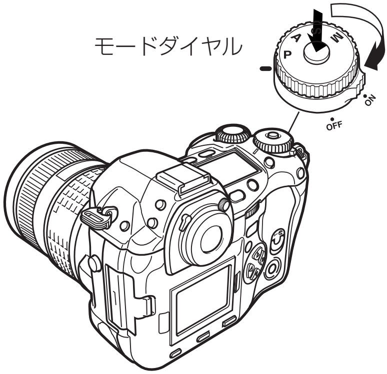




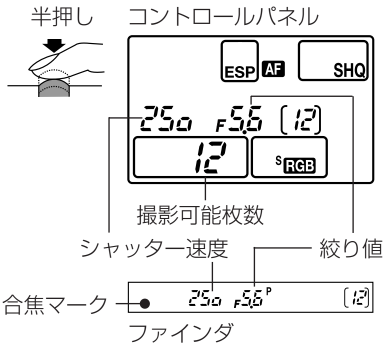
P：プログラム撮影

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定するオート露出モードです。
プログラムシフトを使って、適正露出のまま絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更することもできます。

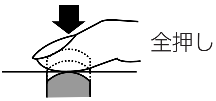
1 **モードダイヤルロックを押しながら、モードダイヤルをPにします。**



2 **シャッターボタンを半押しします。**
- レンズが動きピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- コントロールパネルとファインダに、カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。



3 **半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。**
- 撮影されます。



撮影可能枚数

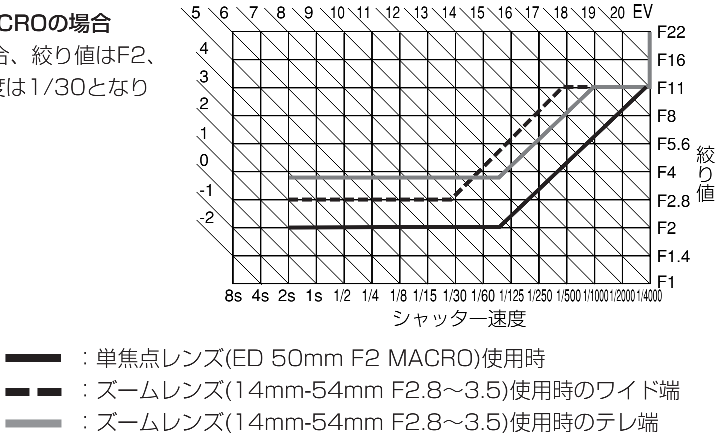
コントロールパネルで表示できる撮影可能枚数は、1999までです。それ以上の枚数はすべて1999と表示されます。

P（プログラム）モードの絞り値とシャッター速度

P（プログラム）モードのときは、被写体の明るさに応じて、このグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図はレンズによって変わります。

ED 50mm F2 MACROの場合

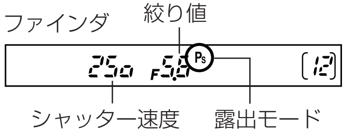
（例） EV値が7の場合、絞り値はF2、シャッター速度は1/30となります。



プログラムシフト（Ps）

Pモードのときメインダイヤル（またはサブダイヤル）をまわすと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます（プログラムシフト）。

プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダ内の表示Psが、Pに変わるまでメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。または、カメラの電源を一度切ります。フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。



A：絞り優先撮影

絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のぼけが強くなります。絞り値を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。プレビュー機能を使って背景のボケ具合を確認することができます。

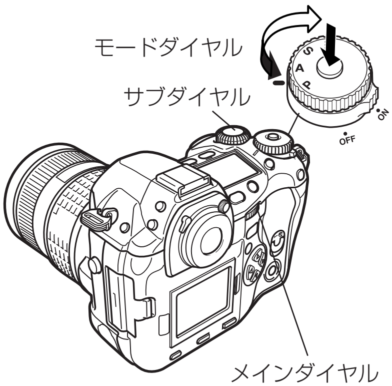


絞り値（F値）を小さくする

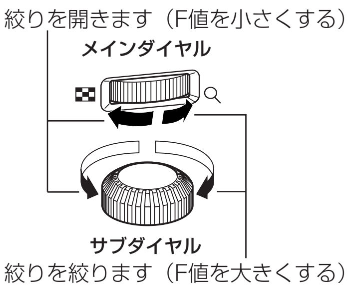


絞り値（F値）を大きくする

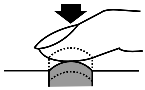
1 **モードダイヤルロックを押しながら、モードダイヤルをAにします。**



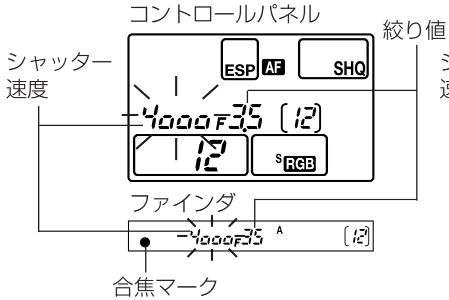
2 **メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、絞り値を設定します。**



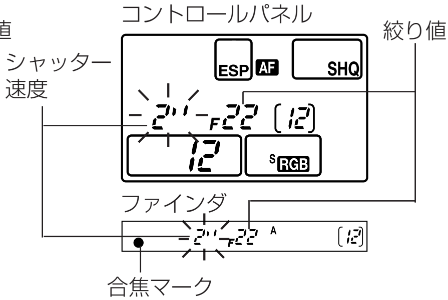
3 シャッターボタンを半押しします。



- レンズが動きピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- コントロールパネルとファインダに、カメラが自動的に決定したシャッター速度が表示されます。

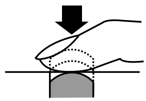


シャッター速度表示が点滅しているときは、露出オーバー（過度）です。絞り込んで(絞り値を大きくして)ください。



シャッター速度表示が点滅しているときは、露出アンダー（不足）です。絞りを開いて(絞り値を小さくして)ください。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。



こんなときは

絞り値を変更したがシャッター速度の点滅が終わらない

→ 速い秒時でシャッター速度が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、NDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「ISO感度」(P.87)

→ 遅い秒時でシャッター速度が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「ISO感度」(P.87)

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P.129)

設定した絞り値での被写界深度を確認したい

→ プレビューボタンを押してください。実際の被写界深度がファインダで確認できます。☞「プレビュー機能」(P.69)

S：シャッター優先撮影

シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして速い動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

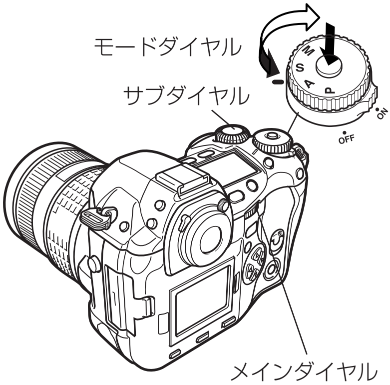


シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。

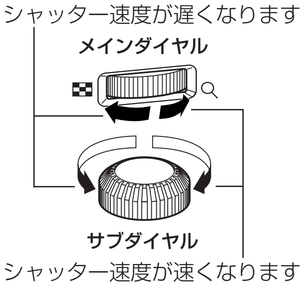


シャッター速度を遅くすると、動いているものはブレて撮影されます。このブレが躍動感や動きのある仕上がりになります。

1 **モードダイヤルロックを押しながら、モードダイヤルをSにします。**

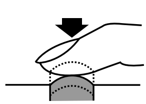


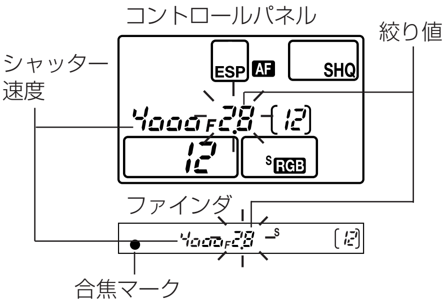
2 **メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、シャッター速度を設定します。**



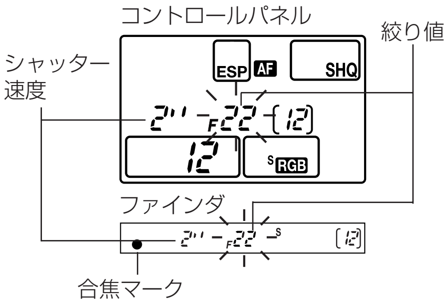
3 シャッターボタンを半押しします。

- レンズが動きピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- コントロールパネルとファインダに、カメラが自動的に決定した絞り値が表示されます。



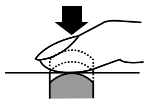


絞り値が開放絞り（値がもっとも小さい）で点滅しているときは、適正露出が得られていません（露出アンダー）。シャッター速度を遅くします。



絞り値が最小絞り（値がもっとも大きい）で点滅しているときは、適正露出が得られていません（露出オーバー）。シャッター速度を速くします。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。



シャッター速度の表示

1秒以下のときは、秒数の分母が表示されます。たとえば1/200秒であれば「200」と表示されます。1秒以上のときは、秒数と「"」が表示されます。たとえば、2秒であれば、「2"」と表示されます。

こんなときは

画像がブレる

→ 近接撮影や超望遠撮影では、画像がブレやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

シャッター速度を変更したが絞り値の点滅が終わらない

→ 最小絞り（値がもっとも大きい）で絞り値が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、NDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「ISO感度」(P.87)

→ 開放絞り（値がもっとも小さい）で絞り値が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「ISO感度」(P.87)。

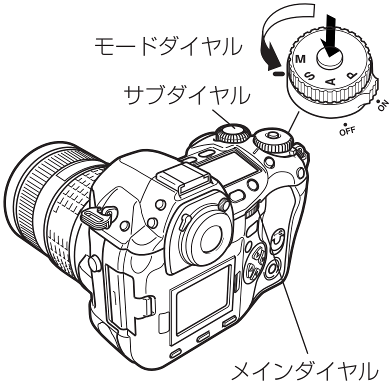
露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P.129)

M：マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。また、天体撮影や打ち上げ花火の撮影などに便利なバルブ（bulb）撮影も可能です。

1 モードダイヤルロックを押しながら、モードダイヤルをMにします。



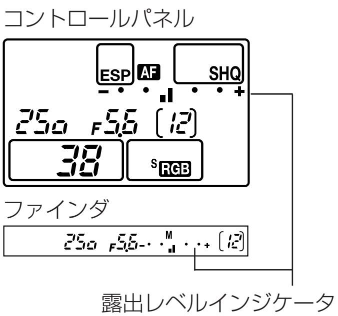
2 メインダイヤルを回して、絞り値を設定します。
サブダイヤルを回して、シャッター速度（60秒～1/4000秒）を設定します。

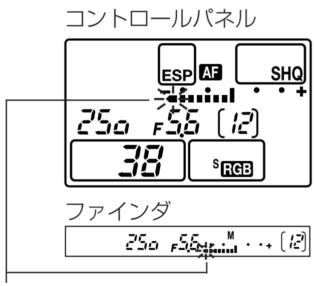
- ダイヤルをまわすごとに、1/3EVステップで絞り値とシャッター速度が変わります。
- コントロールパネルとファインダに露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、－2EV～＋2EVの範囲で表示されます。



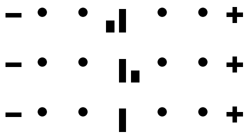


5 露出





露出レベルインジケータの両端にある ◀ ▶ が点滅するときは、適正露出との露出差が表示可能範囲より大きいことを示しています。



露出アンダー

露出オーバー

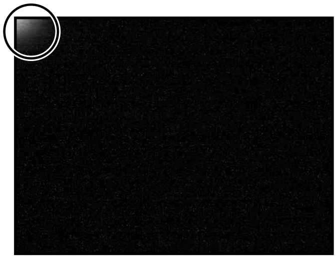
適正露出

3 撮影します。

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生したり、画面左上が明るく写る場合があります。これはCCDの温度上昇や、CCD内部の駆動回路が熱源となり、本来CCDに光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、30秒以上の長秒時の露出で顕著に現れます。ノイズリダクションを使うと、これらのノイズを軽減することができます。

☞「ノイズリダクション」(P.99)



バルブ（bulb）撮影について

シャッターボタンを押しているあいだ露光し続けるバルブ撮影（最長8分まで）が可能です。Mモードでシャッター速度を［bulb］に設定します。ロック機能付きのリモートケーブル（別売）を使ってバルブ撮影することもできます。

こんなときは

画像がブレる

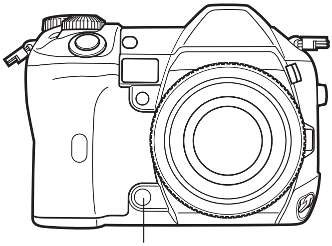
→ シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。
☞「露出ステップ」(P.129)

プレビュー機能

プレビューボタンを押すと、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。



注意

- プレビュー中は、測光値は変わりません。

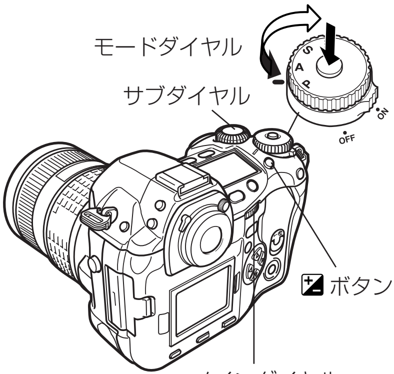
露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。露出補正をするときは、中央重点平均測光（ [中央重点平均測光マーク] ）かスポット測光（ [スポット測光マーク] ）でお使いください。補正ステップは1/3EV、1/2EV、1EV、から選択できます。

☞「露出ステップ」(P.129)

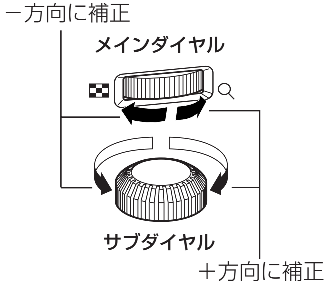


1 **モードダイヤルロックを押しながら、モードダイヤルをP、AまたはSにします。**



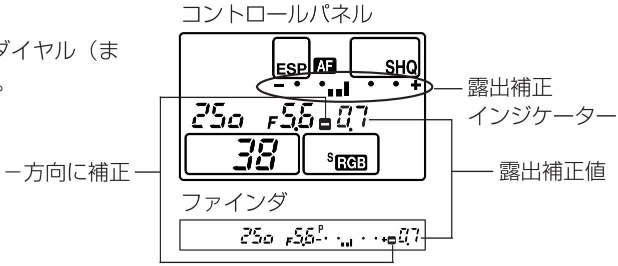
2 ± （露出補正）ボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。

- ＋方向に補正： ＋5.0EVまで設定できます。
  －方向に補正： －5.0EVまで設定できます。
- コントロールパネルとファインダに露出補正インジケータが表示されます。

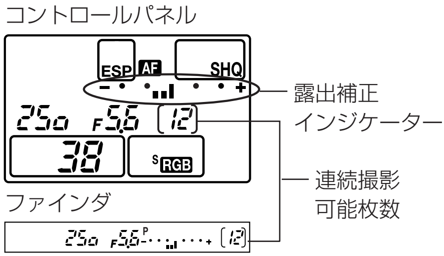


例：－1/3段刻みの露出補正をしている場合

± ボタンを押します。
± ボタンを押したままメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。



設定したら± ボタンをはなします。
露出補正が0の場合は、露出補正インジケータは消えます。



ダイヤル操作だけで露出補正をする

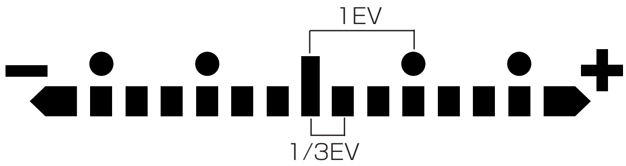
1 メニューの[ダイヤル]の設定で、メインダイヤル（またはサブダイヤル）に露出補正を割り当てることができます。 ボタンを押さなくても、ダイヤル操作だけで露出補正ができます。

こんなときは

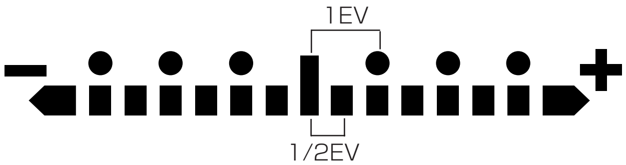
露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P.129)

1/3EVステップを選択したときの露出補正インジケータ



1/2EVステップ・1EVステップを選択したときの露出補正インジケータ



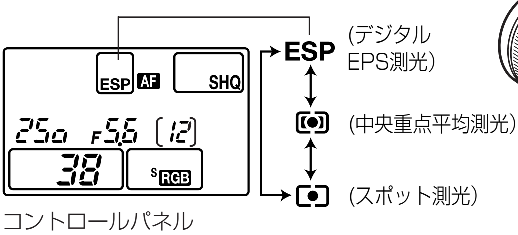
注意

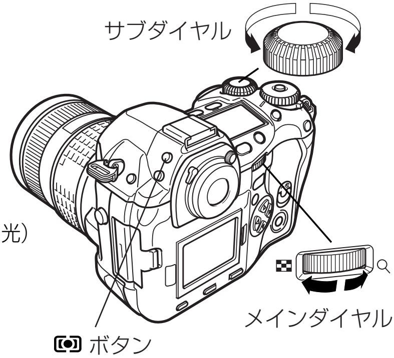
- Mモードでは、 ボタンは効きません。

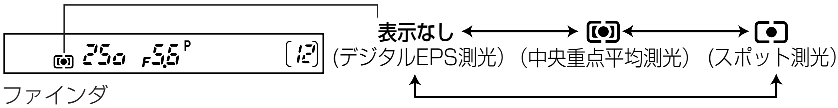
測光モード　ESP

本機はデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光の3つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

1 **（測光）ボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、設定したい測光モードを表示します。**





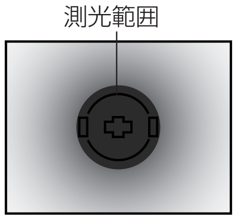


■ **デジタルESP測光　ESP**

画面の中央部と周辺部を個別に測光しそれぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。被写体が逆光下にあったり、強いスポット光を浴びているなど、中央と周辺に大きな輝度差があるときは、デジタルESP測光をおすすめします。

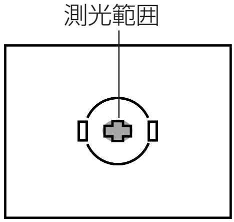
■ **中央重点平均測光**

画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。

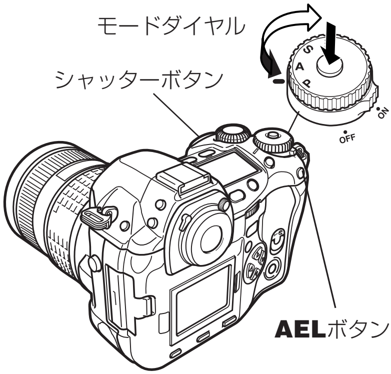


■ **スポット測光**

画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。



AELボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL**ボタンを押して露出のみ固定することができます。このカメラでは、AEロックやAFロックの機能をカスタマイズできます。☞「AEL/AFLモード」（P.126）

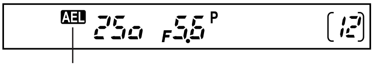


1 **モードダイヤルロックを押しながら、モードダイヤルをP、AまたはSにします。**

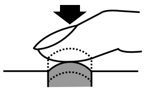
2 **測光したい被写体にカメラを向けます。**

3 **AEL（AEロック）ボタンを押します。**
- 露出値が固定されます。
- ファインダに AEL が表示されます。

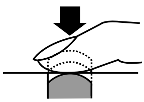
ファインダ



4 **構図を決めて、AELボタンを押したままシャッターボタンを半押しします。**
- ピントが固定されます。



5 **シャッターボタンを全押しします。**
- AELボタンをはなすと、AEロックが解除されます。



オートブラケット撮影 BKT

露出（AEブラケット撮影：下記参照）やホワイトバランス（WBブラケット撮影：P.76）を連続的に変化させて撮影ができます。露出やホワイトバランスの設定に迷ったり、設定を変えて何度も撮り直せないときに利用できます。

AEブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。ブラケット撮影枚数、露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定して段階露出できるので、逆光や夕景などの適性露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正～－補正～＋補正の順に撮影されます。

例：BKT設定が[3F]・[1.0]の場合



－1.0



±0

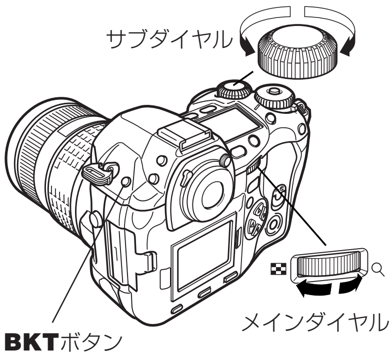


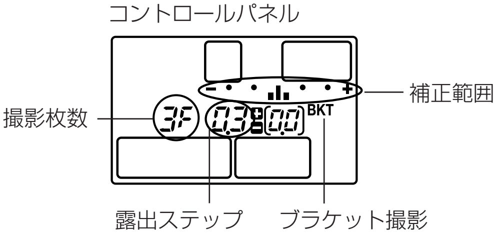
＋1.0

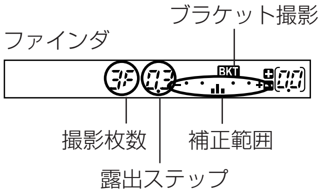
補正量　：0.3・0.7・1.0
露出補正量は、露出ステップを変更していると変わります。露出ステップはメニューで変更可能。☞「露出ステップ」（P.129）

撮影枚数　：3枚・5枚

1 **BKT（オートブラケット）ボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回し、コントロールパネルを見ながら設定します。**

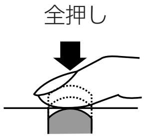




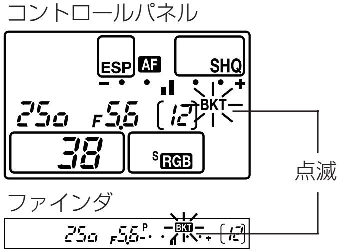


2 **単写の場合：**
シャッターボタンを全押しするごとに、1枚ずつ露出を変えて撮影します。
連写の場合：
設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。自動的に露出を変えて撮影します。

- AEブラケット撮影中は、コントロールパネルとファインダでBKTの表示が点滅します。
- 露出レベルインジケータには、次に撮影するコマの露出量が表示されます。
- シャッターボタンから指を離せば、ブラケット撮影を一時中断できます。



ブラケット撮影中



露出モードによる補正の方法

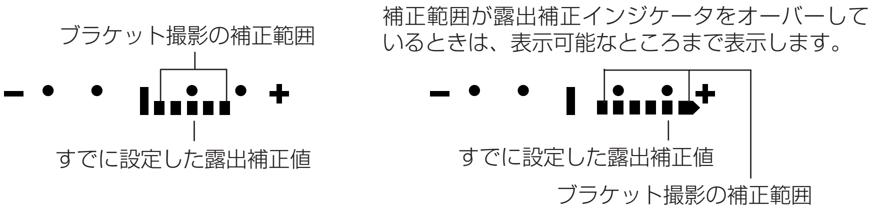
設定している露出モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

Pモード ：絞り値とシャッター速度
Aモード ：シャッター速度
Sモード ：絞り値
Mモード ：シャッター速度

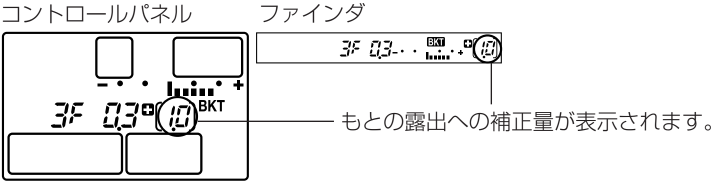
こんなときは

補正した露出を中心にAEブラケット撮影をしたい

→ 露出補正値を設定した状態で、AEブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてAEブラケット撮影が行なわれます。



露出補正(+1)のあるとき



撮影した画像がカードに記録されるのを中止したい

☞「カード書き込み中止」(P.81)

5 露出

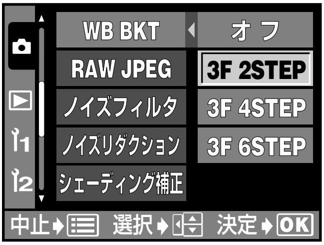
注意

- 以下の場合、オートブラケット撮影はできません。
  - フラッシュが発光可能な設定の場合
- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと、続けて撮影ができません。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

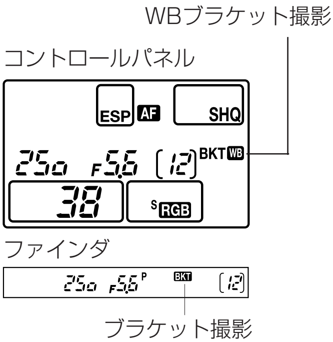
WBブラケット撮影 BKT WB

1回の撮影から、色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カードには、まず撮影された画像、赤味を強くした画像、青味を強くした画像の順に記録されます。

1 **メニューから📷→WB BKT→オフ、3F 2STEP、3F 4STEPまたは3F 6STEPから選択します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)



2 **撮影します。**
- 1度のシャッターボタンの全押しで、3コマの画像を作成します。



こんなときは

補正したホワイトバランスを中心にWBブラケット撮影をしたい

→ WB補正をした状態で、WBブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてWBブラケット撮影が行なわれます。

ドライブモード

DRIVE

ドライブモードには以下の種類があります。

単写 （表示なし） ： シャッターボタンを一度押すごとに1コマ撮影します。（通常の撮影モード、1コマ撮影）

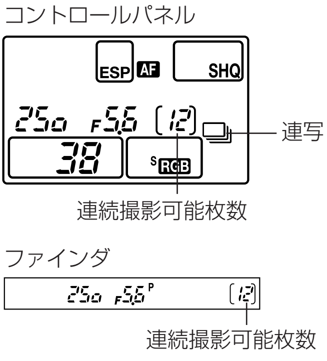
連写 ❏ ： シャッターボタンを押している間、約3コマ／秒で約12枚まで連続撮影します。ピント、露出は、最初の1コマで固定されます。

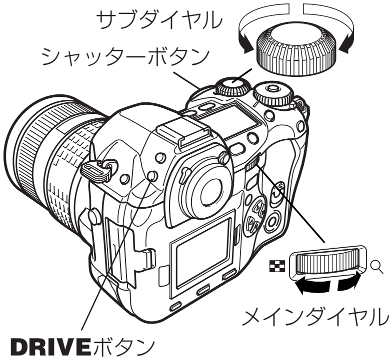
セルフタイマー撮影 ⏲ ： シャッターボタンを押してシャッターが切れるまでの時間を、12秒後、2秒後から選択できます。☞「セルフタイマー撮影」(P.78)

リモコン撮影 ： 別売のリモコンを使って撮影します。☞「リモコン撮影（リモコン別売）」(P.79)

連写 ❏

1 コントロールパネルに❏が表示されるまで、DRIVEボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。





2 撮影します。

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。
- 連続撮影可能枚数の表示が0になると、続けて撮影できません。

こんなときは

撮影した画像がカードに記録されるのを中止したい

☞「カード書き込み中止」(P.81)

5
露出

注意

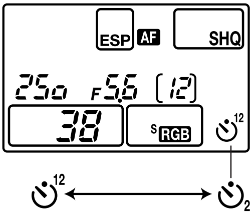
- 以下の場合、連写はできません。
  ［ノイズリダクション］の設定が［オン］の場合
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

セルフタイマー撮影

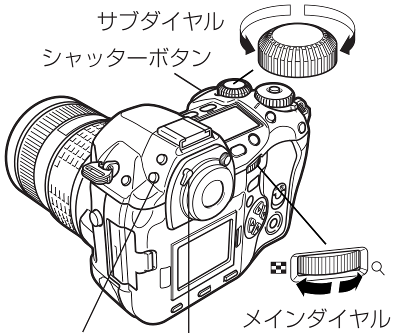
セルフタイマーを使って撮影します。シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。

1 コントロールパネルに 12 または 2 が表示されるまで、DRIVEボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。

コントロールパネル



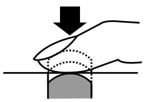
（12秒セルフタイマー）（2秒セルフタイマー）



2 シャッターボタンを全押しします。

- 撮影されます。
- ピントと露出は、シャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- 12 の場合：セルフタイマランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
  2 の場合：セルフタイマランプが約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、**DRIVE**ボタンを押します。

全押し

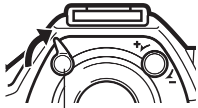


3 セルフタイマーモードを解除するには、DRIVEボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。

5 露出

アイピースシャッター

ファインダから顔を離して撮影するとき、ファインダに光が入らないように、アイピースシャッターレバーを矢印の方向へまわして、アイピースシャッターを閉じます。



注意

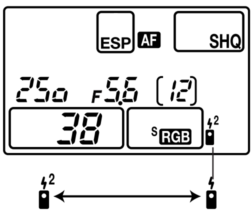
- カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

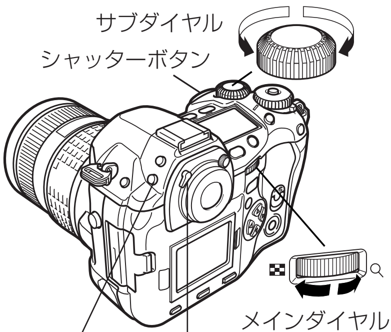
リモコン撮影（リモコン別売）

別売のリモコン（RM-1）を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターの切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。

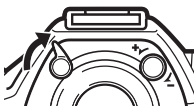
1 **カメラを三脚などでしっかりと固定します。**

2 **コントロールパネルにまたはが表示されるまで、DRIVEボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。**



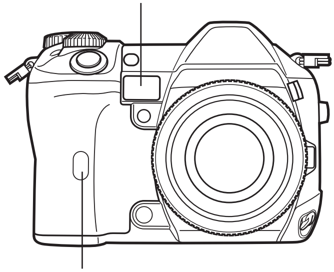


3 **構図が決まったら、アイピースシャッターレバーを矢印の方向へまわして、アイピースシャッターを閉じます。**



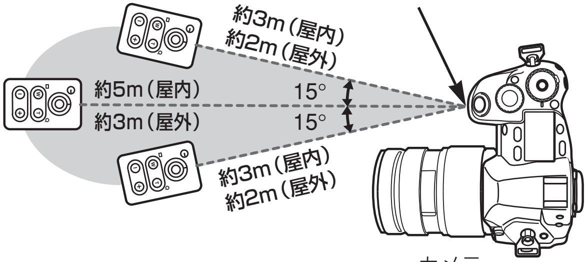
4 **リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。**

- の場合：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。
  の場合：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。



リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信窓に太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。



こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない

→ リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。手順2にしたがって・以外のモードに設定してください。

カメラのシャッターボタンを使って撮影したい

→ ・が表示されていても、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

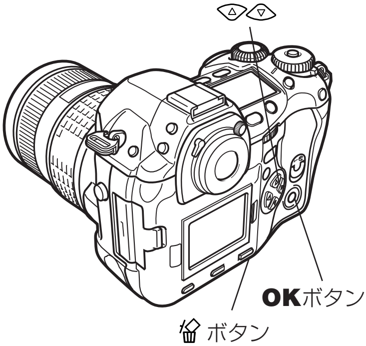
注意

- リモコン使用時は、[レリーズ優先]はオフにしてください。
- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

カード書き込み中止

撮影後の画像を、カードに記録する前に中止することができます。連続で撮影したときなどに、不要な画像と判断したら、カメラのメモリにあるうちに削除することができます。

1 **撮影後、カードに記録中に 🗑（消去）ボタンを押します。**



2 **⊲△⊳⊲▽⊳ で中止するモードを選択します。**

- **1コマ書き込み中止**：最後に撮影した画像のカードへの記録を中止します。
  全コマ書き込み中止：カメラのメモリにあるすべての画像の記録を中止します。
- 中止を実行するかどうかの画面が表示されます。



3 ⊘⊘ を押して、[実行]を選択します。



4 **OK**ボタンを押します。
- 処理中を示すバーが表示されます。

注意

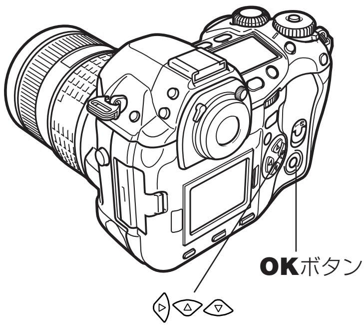
- [全コマ書き込み中止]を実行しても、すでに記録のための処理に入っている画像は、消去できません。

低振動モード

ミラーアップ後、少し時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラブレを最小限に抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影など、ミラーアップのショックが気になる場面で使います。

1 メニューから 📷 →低振動モードを選択します。⊘ を押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)

2 ⊘⊘ を押して、1～30秒から選択します。**OK**ボタンを押します。



6 画像・画質・色

画質モード

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像サイズについては次頁の表をご覧ください。数値は目安です。

画質モード	特徴
RAW	拡張子がorfの形式で記録される画像です。ホワイトバランスやコントラストなどの画像処理を行わない、撮影をしたままの生データです。撮影後にカメラのRAW編集機能で画像編集を行い、下記の画質モードで記録することができます(P.86)。また、付属の専用ソフトウェアを使用して、パソコンで加工することも可能です。一般のソフトウェアで表示したり、プリント予約することはできません。

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる（記録できる枚数が少なくなる）↑

用途	画質（圧縮率）／画像サイズ	非圧縮 1/1	高画質 1/2.7	標準画質 1/8
プリントサイズに合わせて選択	2560×1920	TIFF	SHQ	HQ
	1600×1200 1280×960 1024×768	—	SQ	SQ
小さいプリントやホームページ用	640×480			

画像サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

圧縮率

RAW・TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

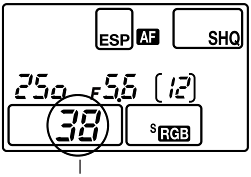
画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100%）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

画質モードとカードの記録枚数

記録可能枚数は、カードの記録容量÷ファイルサイズでおよその数が計算できます。また、カードをカメラに入れたとき、コントロールパネルに表示されます。コントロールパネルで表示できる記録可能枚数は、1999までです。それ以上の枚数はすべて1999と表示されます。

コントロールパネル



撮影可能枚数

撮影可能枚数

コントロールパネルで表示できる撮影可能枚数は、1999までです。それ以上の枚数はすべて1999と表示されます。

画質モード

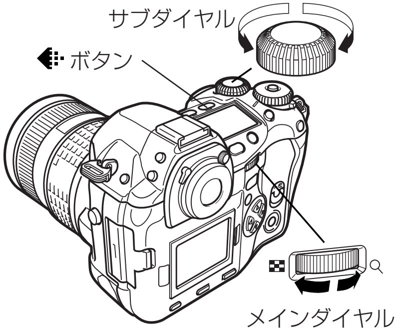
画質モード	画像サイズ	圧縮	ファイル形式	ファイルサイズ (MB)
RAW	2560×1920	非圧縮	ORF	約10.2
TIFF	2560×1920	非圧縮	TIFF	約14.4
SHQ	2560×1920	1/2.7	JPEG	約3.8
HQ	2560×1920	1/8		約1.2
SQ	1600×1200	1/2.7		約1.4
		1/8		約0.5
	1280×960	1/2.7		約0.9
		1/8		約0.3
	1024×768	1/2.7		約0.6
		1/8		約0.2
	640×480	1/2.7		約0.3
		1/8		約0.1

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもコントロールパネルや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。

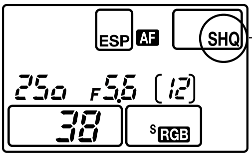
画質モードの選択

1 **コントロールパネルに選択したい画質モードが表示されるまで、（画質モード）ボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。**



画質モード
RAW↔TIFF↔SHQ↔HQ↔SQ

コントロールパネル



こんなときは

RAWデータの画像を確認したい

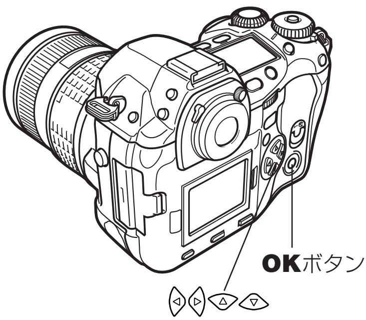
→ カメラのモニタで再生するときは、確認しやすいように処理をして表示されます。
☞「情報表示」(P.113)

SQモードの設定

SQモードの画像サイズと圧縮率を選択できます。

選択可能な圧縮率　：1/2.7、1/8
選択可能な画像サイズ：1600×1200、1280×960、1024×768、640×480

1 **メニューから 1 →SQを選択し、▷を押します。**
- 画像サイズと圧縮率の選択画面が表示されます。
☞「メニュー操作方法」(P.42)



2 △▽ を押して、画像サイズを選択します。▷ を押します。
- 圧縮率の選択に進みます。



3 △▽ を押して、圧縮率を選択します。**OK**ボタンを押します。

こんなときは

圧縮率1/8を選択したら、粗い画像になった

→ 圧縮率が高いほど、画質は劣化します。1/2.7を選択してください。

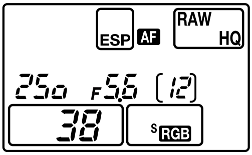
RAW同時記録モード

SHQ・HQ・SQの画像とともに、RAWデータも同時にカードに記録することができます。

1 **メニューから 📷 →RAW・JEPG→オンにします。**
- コントロールパネルに[RAW]と同時記録される画像モードが表示されます。

☞「メニューの操作方法」(P.42)

コントロールパネル



ISO感度

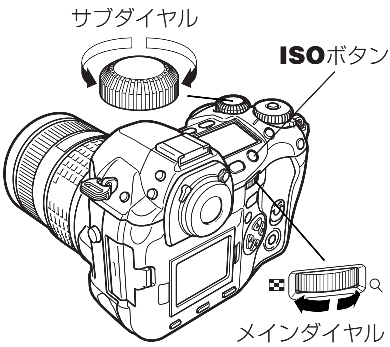
ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。
あらかじめメニューで[ISO感度拡張]を設定すると、1600・3200の高感度も選択できます。☞「ISO感度拡張モードの設定」(P.88)

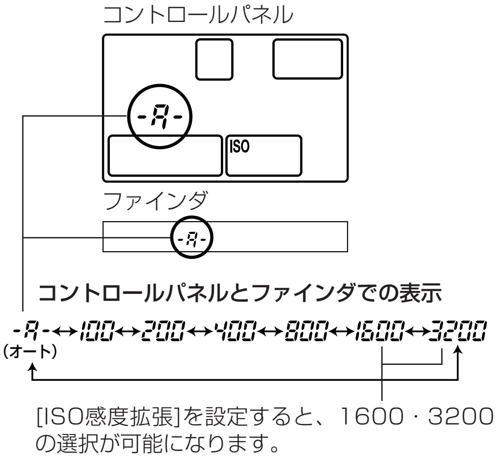
オート・100・200・400・800・1600・3200
感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。感度が高くなるにつれて、より暗いところで撮影ができます。
（網掛け） メニューで[ISO感度拡張]を設定すると選択可能。

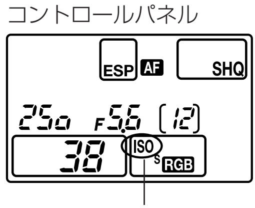
ISO感度の設定

1 ISOボタンを押します。
- 現在設定されているISO感度が、コントロールパネルに表示されます。

2 コントロールパネルに選択したいISO感度が表示されるまで、ISOボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。







ISO感度選択後、オート以外の設定ではISOと表示されます。1600・3200（ISO感度拡張値）に設定すると、ISOが点滅します。

注意

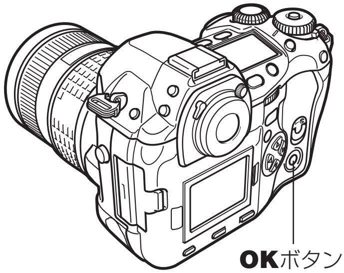
- ISO感度がオートに設定されているとき、通常はISO100ですが、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

ISO感度拡張モードの設定

ISO1600と3200が使えるように設定します。

1 メニューから 1 →ISO感度拡張→オンを選択します。**OK**ボタンを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.42)



ホワイトバランス

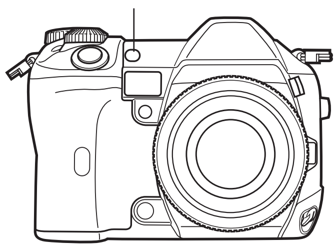
被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。
フィルムを使うカメラでは、光源によってフィルムを使い分けたり、フィルタを使って調節しますが、デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。この調整機構をホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、3つの設定があります。

オートホワイトバランス
自動的に白い光を判断して、全体の色のバランスを調節します。ほとんどの場合はこのモードで十分です。ただし、画面に白に近い色がまったくない場合は、ホワイトバランスが正しく設定されないことがあります。このようなときは、プリセットホワイトバランスやワンタッチホワイトバランスを設定してください。

プリセットホワイトバランス
光源の色温度でホワイトバランスを設定します。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。さらにプリセットホワイトバランスを積極的に使うことで、様々な色調を楽しむこともできます。
選択できる色温度は次のとおりです：3000・3300・3600・3900・4000・4300・4500・4800・5300・6000・6600・7500

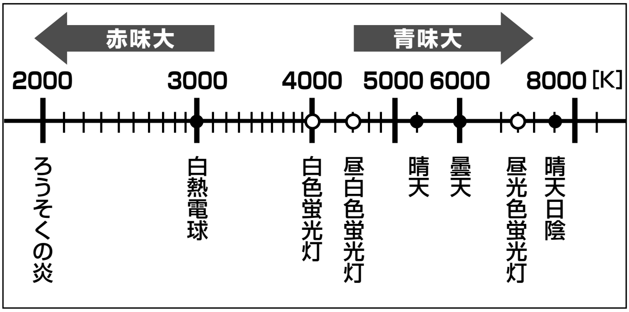
ワンタッチホワイトバランス ☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P.93)
カメラを白紙などの白い物に向けて（ワンタッチWB）ボタンを押し、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1 つとしてカメラに記憶されます。

光源検出センサー
このカメラは、撮影する環境の光源を判定するために、光源検出センサーを備えています。赤外光と可視光を測光・演算し、太陽光・蛍光灯・フラッドランプ・ブルーフラットランプなどの判定をします。撮影時には、センサー部を手で覆ったり、陰にならないように注意してください。



色温度について

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値のうち、4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。



こんなときは

フラッシュを使うとき

→ フラッシュを使って撮影するときは、オートホワイトバランスで撮影することをおすすめします。
フラッシュは、プリセットホワイトバランスで撮影するときは、6000Kに設定してください。また、フラッシュを使った撮影では、条件によって色温度が変わります。撮影したら再生して色味を確認してください。

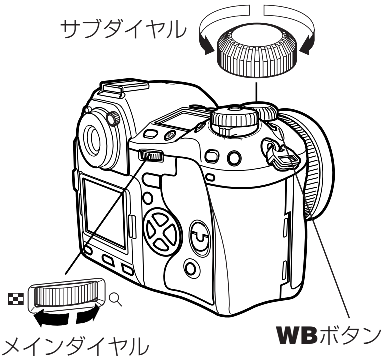
注意

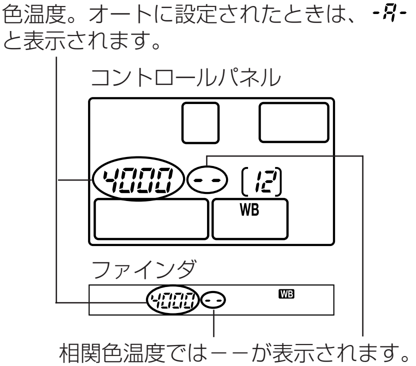
- 各光源として設定された色温度は目安です。（実際の晴天が5300K 、蛍光灯が4000Kにしかならないということではありません）

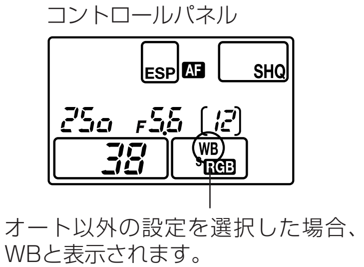
ホワイトバランスの設定 WB

ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

1 **コントロールパネルとファインダに選択したい設定が表示されるまで、WB（ホワイトバランス）ボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。**







液晶モニタ



こんなときは

白くないものまで白くなった

→ オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

コントロールパネルとファインダの表示	適した撮影シーン
-A-（オート）	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）
3000	電球に照らされている被写体を撮るとき
3300	
3600	電球に照らされている被写体を電球の光の雰囲気を出して撮るとき
3900	
4000	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
4300	
4500	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
4800	
5300	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
6000	曇天の日に屋外で撮るとき（フラッシュを使用して撮るとき）
6600	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
7500	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
-0-1～-0-4	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は5300Kに設定されています。 ☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P.93)

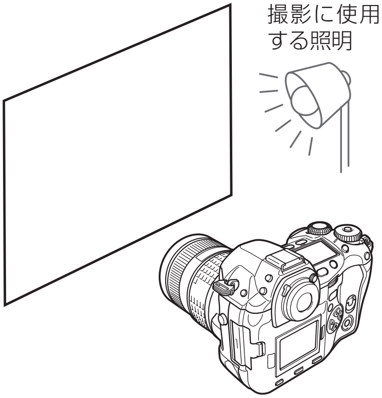
ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白いものにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。
ワンタッチホワイトバランスは、4つまで登録できます。
自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。

1 カメラを白い紙に向けます。

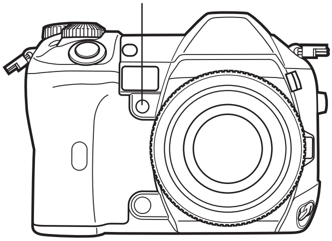
- 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2 適正露出が得られるように、絞り・シャッター速度を設定します。



3 （ワンタッチWB）ボタンを押します。

- シャッターが切れて、ホワイトバランスデータを取り込みます。
- 適切な測定ができると、ワンタッチホワイトバランスの登録画面が表示されます。



4 △▽ を押して、ホワイトバランスを登録する番号を 1～ 4から選択します。OKボタンを押します。

- ホワイトバランスが登録されます。
- 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても解除されません。☞「ホワイトバランスの設定」(P.91)



6
画像・画質・色

こんなときは

ボタンを押したら、「不適切なデータです　撮り直してください 」と表示された

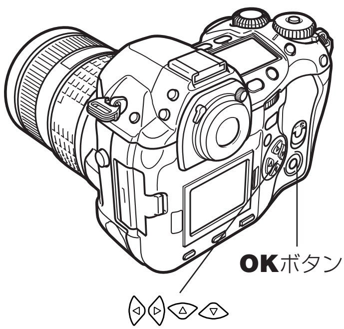
→ 白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。再度、手順1からやり直してください。

WB補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

1 **メニューから 1 →WB補正を選択します。 を押します。**

- WB補正したいホワイトバランスモードを選択する画面が表示されます。
  ☞「メニューの操作方法」(P.42)



2 **を押して、WB補正したいホワイトバランスモードを選択します。 を押します。**

- WB補正の設定画面が表示されます。



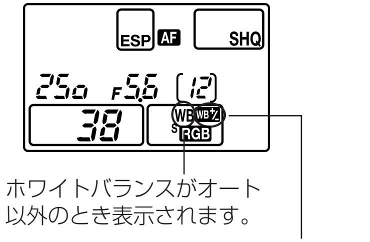
3 **現在のホワイトバランスの値に対し、◁を押すたびに青味がかり、▷を押すたびに赤味がかった画像になります。OKボタンを押すと、補正値が決定されます。**

- ホワイトバランスはBLUE方向、RED方向とも、それぞれ7段階の補正が可能です。



4 **試し撮りをするために、被写体にカメラを向けます。**

コントロールパネル



5 **ボタンを押します。**

- 設定したホワイトバランスの条件で、撮影したサンプル画像が表示されます。
- 補正バーは、設定した補正値を示しています。

6 **サンプル画像を確認したら、OKボタンを押します。**

7 **OKボタンを押すと、WB補正から抜けます。**

- コントロールパネルに WB±が表示されます。

6

画像・画質・色

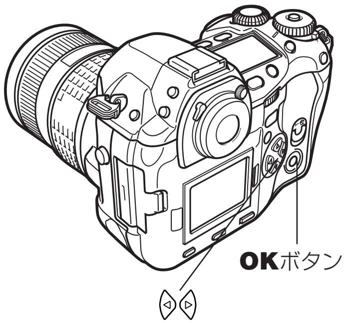
シャープネス

画像の先鋭度を調整します。

1 **メニューから 📷 →シャープネスを選択します。▷を押します。**

- 設定画面が表示されます。

☞「メニューの操作方法」(P.42)



2 **◁▷を押して ♦ を移動します。**

Hi方向に調整：

▷を押すと、画像の輪郭がシャープになり、鮮やかになります。プリントなどの鑑賞用に適しています。

Lo方向に調整：

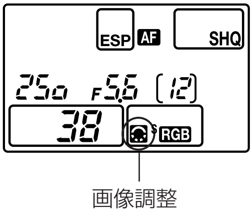
◁を押すと、画像の輪郭がソフトになります。パソコンでの加工に適しています。



3 **OKボタンを押します。**

- 調整が行われると、コントロールパネルに ▣ が表示されます。

コントロールパネル

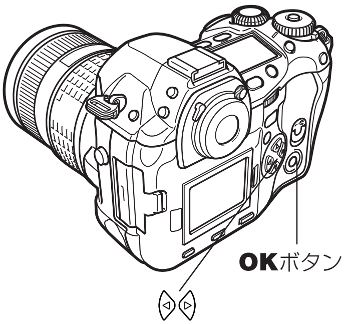


注意

- Hiに設定すると、画像が粗く見えることがあります。

画像のコントラスト（明暗の差）を調整します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

1 **メニューから 📷 →コントラストを選択します。▷を押します。**
- 設定画面が表示されます。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



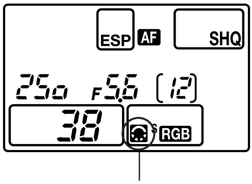
2 **◁▷を押して ♦ を移動します。**

Hi方向に調整：
▷を押すと、明暗の差がより大きくなり、メリハリのある画像になります。
Lo方向に調整：
◁を押すと、明暗の差が小さくなり、比較的柔らかい印象の画像になります。パソコンでの加工に適しています。



3 **OKボタンを押します。**
- 調整が行われると、コントロールパネルに 画像調整アイコン が表示されます。

コントロールパネル



6 画像・画質・色

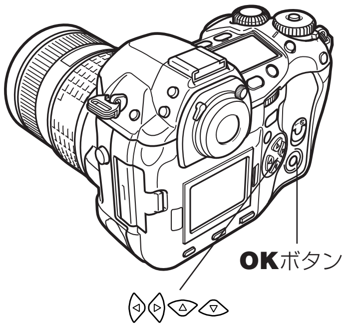
彩度

画像の色の鮮やかさを設定します。CS0～CS4とCM1～CM4のうち、1つを選択できます。

CS　：CS0～CS4。5つのレベルを選択可能。

CS0 ◀	▶ CS4
Lo	Hi
落ち着いた色合い	華やかな色合い

CM1　：赤色を強調。
CM2　：緑色を強調。
CM3　：青色を強調。
CM4　：人物の肌の質感を強調。



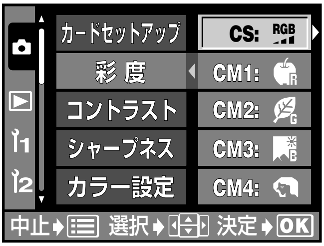
1　メニューから →彩度を選択します。 を押します。

- CS、CM1、CM2、CM3、CM4の選択肢が表示されます。
  ☞「メニューの操作方法」(P.42)

2　 を押して、いずれかを選択します。
CSを選択した場合： を押します。

- [彩度レベル]画面が表示されます。

CM1～CM4を選択した場合：手順4へ。



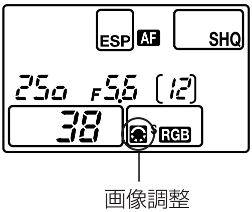
3　 を押して、CS0～CS4の彩度レベルを選択します。



4　OKボタンを押します。

- コントロールパネルに が表示されます。

コントロールパネル

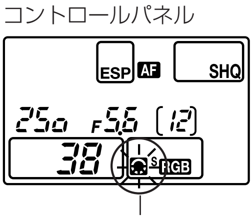


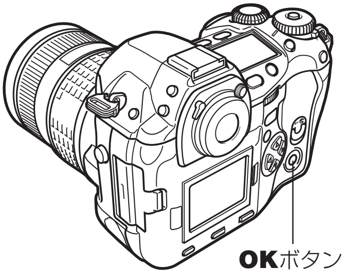
ノイズフィルタ

空や壁などの一様で平坦な画像上で目立つランダムノイズを軽減します。撮影後に処理時間が必要なため、画像の記録時間が延びます。

1 メニューから 📷 →ノイズフィルタ→オンを選択します。OKボタンを押します。

- コントロールパネルで が点滅します。
  ☞「メニューの操作方法」(P.42)





注意

- 画質モードがRAWまたはRAW同時記録モードでは、この機能は働きません。

ノイズリダクション

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。この機能をオンに設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
長秒時撮影時の画像のノイズについて☞「画像のノイズについて」(P.68)

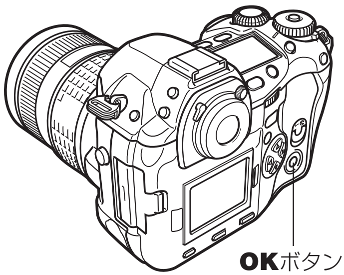

ノイズリダクション：オフ

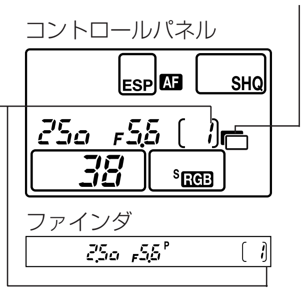

ノイズリダクション：オン

ここでの画像は、ノイズリダクションの効果を示している例です。

6 画像・画質・色

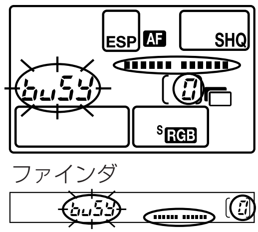
1 **メニューから 📷 →ノイズリダクション→オンを選択します。OKボタンを押します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)





2 **撮影します。**

- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- ノイズリダクションの処理が完了するまで、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションが開始されると、コントロールパネルとファインダでは次のような表示になります。
  ー 連続撮影可能枚数が0と表示されます。
  ー［busy］と表示されます。
- 露出補正インジケータで、処理の進行具合を表示します。



注意

- カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションの設定がオンのとき、連写はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

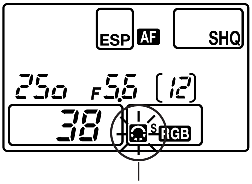
シェーディング補正

レンズの特性により、画面の周辺が暗くなることがあります。これを補正して、明るくします。特に広角レンズを使用したときに、この機能が効果を発揮します。

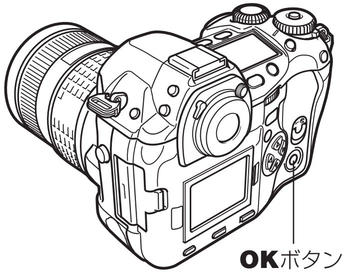
1 メニューから →シェーディング補正→オンを選択します。OKボタンを押します。
- コントロールパネルで が点滅します。

☞「メニューの操作方法」(P.42)

コントロールパネル



画像調整



OKボタン

注意
- テレコンバータやエクステンションチューブを装着しているときは、この機能は働きません。
- ISO感度の高い設定で行うと、画面周辺のノイズが目立つことがあります。
- 画質モードがRAWまたはRAW同時記録モードでは、この機能は働きません。

カラー設定

撮影した画像を、モニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。

☞「ファイルネーム」(P.132)

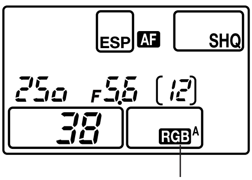
Pmdd0000.jpg
- P : sRGB
- _ : Adobe RGB

sRGB　：Windowsの標準の色空間。
Adobe RGB　：Adobe Photoshopで設定できる色空間。

1 メニューから →カラー設定→sRGBまたはAdobe RGBを選択します。OKボタンを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.42)

コントロールパネル



カラー設定
sRGB：S RGB
Adobe RGB：RGB A

専用フラッシュ（別売）について

このカメラでは、別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。

専用フラッシュは、当社製のエレクトロニックフラッシュFL-50、FL-40、FL-20などが使用可能です。専用フラッシュはカメラ本体と連動し、TTLによるオートフラッシュをはじめ、赤目軽減発光、スローシンクロ、発光量の補正など多彩なフラッシュ撮影が行えます。専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。また、ブラケットケーブル（別売）を使用して専用のフラッシュブラケットに取り付けることもできます。

専用フラッシュ3機種の機能比較

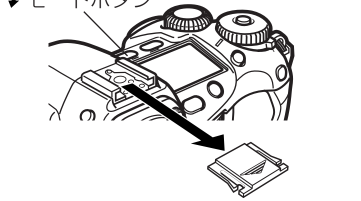
専用フラッシュ	FL-50	FL-40	FL-20
調光モード	TTLオート（スーパーFP発光）/ TTLオート/オート/マニュアル/マニュアル（スーパーFP発光）	TTLオート/オート/マニュアル	TTLオート/オート/マニュアル
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85mm＊時） GN28（24mm＊時）	GN40（80mm＊時） GN26（28mm＊時）	GN20（35mm＊時）

＊ 35mmフィルム換算

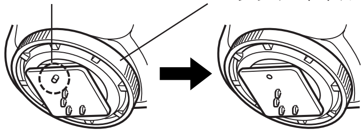
専用フラッシュを使った撮影

ここでは、エレクトロニックフラッシュFL-50（別売）をホットシューに接続して撮影します。フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

1 **ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。**
- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。

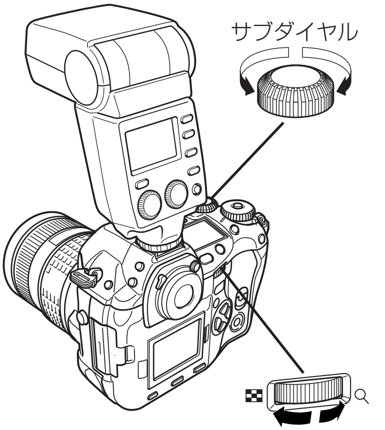


2 **専用フラッシュFL-50を、カメラのホットシューに取り付けます。**
- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのシューロックダイヤルをまわして、あらかじめ引込めておいてください。
- 取り付け方はFL-50の取扱説明書をご覧ください。



3 **フラッシュの電源を入れます。**
- フラッシュのチャージランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は1/180秒以下です。

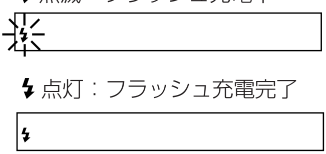
4 **（フラッシュモード）ボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、フラッシュモードを選択します。**
☞「フラッシュモード」（P.104）



5 **撮影意図に合わせてフラッシュの調光モードを選択します。**

6 **カメラのシャッターボタンを半押しします。**
- カメラ・フラッシュ間で、ISO感度、絞り、シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。
- ファインダで が点灯します。

ファインダ



7 **撮影します。**

注意

- TTLオートで撮影する際は、本発光前に調光のためのプリ発光があります。
- TTLオートで撮影する場合、ISO感度400以上で被写体が遠い場合は、調光の精度が悪くなります。

フラッシュモード

専用フラッシュの発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードをカメラ側で設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードはフラッシュを取り付けていなくても、設定することができます。

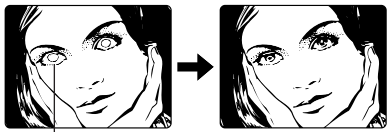
フラッシュモードの種類

■ オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFフレームを合わせて撮影してください。
専用フラッシュでFP発光モードが設定されているときは、逆光で自動発光します。

■ 赤目軽減発光（◉）

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、［赤目軽減発光］に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。



注意

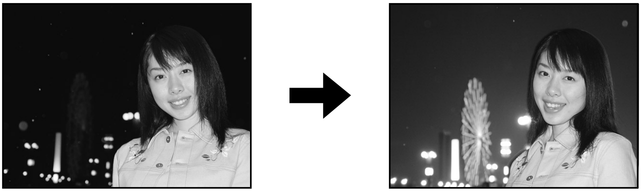
- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

■ スローシンクロ（先幕シンクロ）⚡SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。シャッター速度が遅いので、背景がブレないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて

フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。

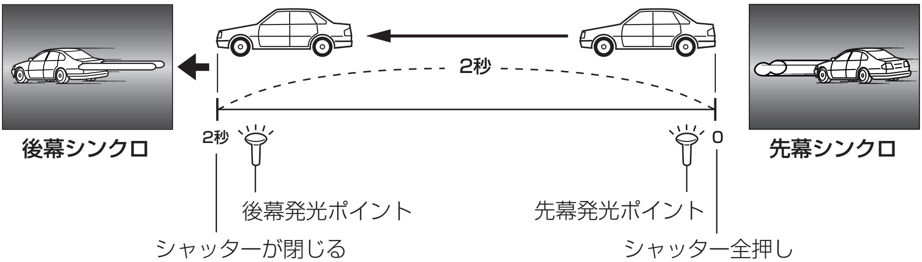


■ スローシンクロ（後幕シンクロ）⚡SLOW　2nd-CURTAIN

シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。シャッター速度の最長は、撮影モードにより異なります。

Pモード　　　　　　　　　　　　：2秒
A/S/M（バルブも使用可）モード　：60秒

シャッター速度が2秒のとき

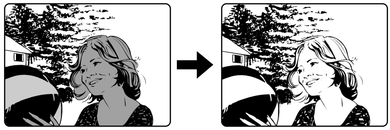


■ スローシンクロ＋赤目軽減発光　◉⚡ SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

■ 強制発光（⚡）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。



注意

- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/180より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、フラッシュ（FL-50)をスーパーFP発光モードにしてください。

■ 強制発光＋赤目軽減発光（⚡◉）

フラッシュを強制的に発光させ､かつ目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

■ 強制発光＋スローシンクロ（後幕シンクロ）（⚡ 2nd-CURTAIN）

遅いシャッター速度で撮影する際に、後幕のタイミングで、フラッシュを強制的に発光させます。

露出モードによる使用可能なフラッシュモード

露出モード	コントロールパネルの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
P・A	（表示なし）	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*のとき発光	オート／◉は 1/30〜1/180
	◉	オート発光(赤目軽減)			
	◉⚡SLOW	スローシンクロ(赤目軽減)			2〜1/180に制限
	⚡SLOW	スローシンクロ			
	⚡SLOW 2nd-CURTAIN	スローシンクロ(後幕シンクロ)	後幕シンクロ		
	⚡	強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	
S・M	⚡	強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	60〜1/180に制限
	⚡◉	強制発光(赤目軽減)	先幕シンクロ		
	⚡ 2nd-CURTAIN	強制発光(後幕シンクロ)	後幕シンクロ		

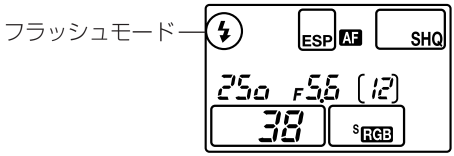
＊フラッシュがスーパーFPモードに設定されているとき、逆光を判定して発光します。

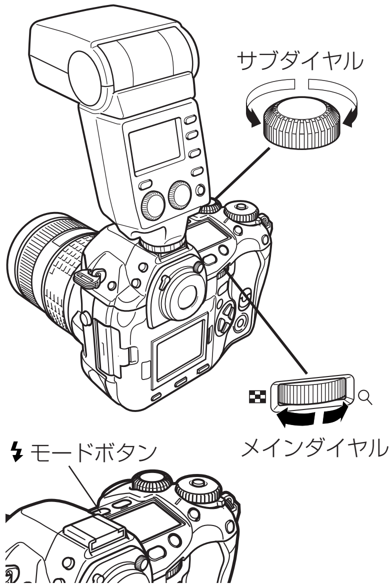
☞「スーパーFP発光について」(P.108)

フラッシュモードの設定

1 **ϟ（フラッシュモード）ボタンを押しながら、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、フラッシュモードを選択します。**

- フラッシュモードは、使用している露出モードに応じて切り替わり、コントロールパネルに表示されます。





■ 露出モードがP/Aモードの場合

表示なし（オート発光）↔ 👁（赤目軽減発光）↔ 👁ϟ SLOW（スローシンクロ＋赤目軽減発光）

表示なし（オート発光）↕ ϟ（強制発光）

👁ϟ SLOW（スローシンクロ＋赤目軽減発光）↕ ϟ SLOW（スローシンクロ）

ϟ（強制発光）↔ ϟ SLOW 2nd-CURTAIN（後幕スローシンクロ）↔ ϟ SLOW（スローシンクロ）

■ 露出モードがS/Mモードの場合

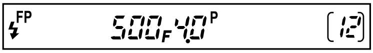
ϟ（強制発光）↔ ϟ👁（強制発光＋赤目軽減発光）

ϟ（強制発光）↔ ϟ 2nd-CURTAIN（強制発光＋後幕シンクロ）↔ ϟ👁（強制発光＋赤目軽減発光）

スーパーFP発光について

専用フラッシュFL-50ではスーパーFP発光が可能です。スーパーFP発光は通常の発光に比べ、長時間発光を続けます。従って、通常の発光では使用できない高速のシャッター速度でも撮影できます。
ポートレート撮影などで開放絞りでのフラッシュ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

ファインダ

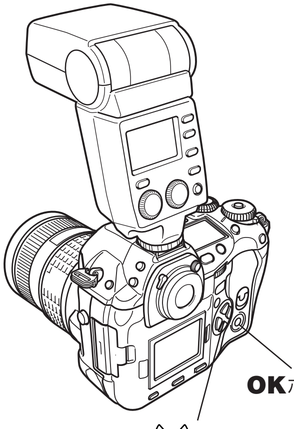


フラッシュの発光量補正

フラッシュの発光量を増減します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

1 **メニューから📷→⚡± を選択します。▷を押します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)
- 設定画面が表示されます。

2 **発光量を増やす：**
▷を押すたびに、1/3EVずつ発光量が増えます。
発光量を減らす：
◁を押すたびに、1/3EVずつ発光量が減ります。
- 補正ステップを1/3EV、1/2EV、1EV、から選択できます。☞「露出ステップ」(P.129)



3 **メニューが終了するまで、繰り返しOKボタンを押します。**
- 設定が終わると、コントロールパネルに⚡±が表示されます。±0に設定されると⚡±が消えます。

こんなときは

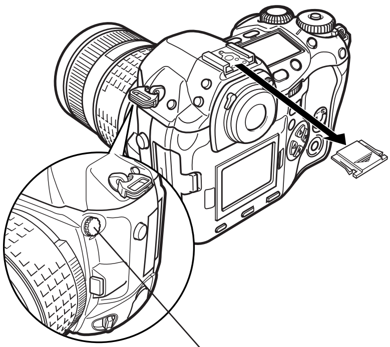
メニューを使わずに発光量を補正したい
→ ⚡（フラッシュモード）ボタンと±（露出補正）ボタンを同時に押しながらメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回してください。

注意
- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで調光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。

7 フラッシュ撮影

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュは、カメラ側から発光量を調整することはできません。ホットシューに接続するか、シンクロコードを外部フラッシュ端子に接続して使用します。小型の汎用フラッシュは1/180秒以下、スタジオ用などの大型フラッシュは1/125秒以下のシャッター速度で同調させることができます。使用できる市販のフラッシュの詳細についてはP.110をご覧ください。



1 **ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。**

2 **露出モードをMモードにし、絞り値とシャッター速度を設定します。**

☞「マニュアル撮影」(P.67)

- シャッター速度を遅く設定すると、画像がブレる可能性があります。

3 **フラッシュの電源を入れます。**

- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 **フラッシュ側の調光モードをオートに設定し、フラッシュのISO感度と絞り値をカメラのISO感度と絞り値にそれぞれ合わせます。**

- フラッシュ側の調光モードの設定方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

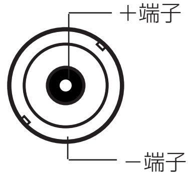
- カメラ側のフラッシュモードは、後幕シンクロ以外は市販のフラッシュには適応されません。
- フラッシュは常に発光します。フラッシュが不要の場合は、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。

使用できる市販のフラッシュについて

市販のフラッシュをお使いになる前に、下記の事項を必ずご確認ください

（1）市販のフラッシュには、シンクロ端子に250V以上の電圧がかかるものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、カメラを故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせ下さい。

（2）市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談下さい。



外部フラッシュ端子の極性

（3）フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使い下さい。

（4）フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。（カメラ側の露出補正はフラッシュ撮影においては無効となります。）

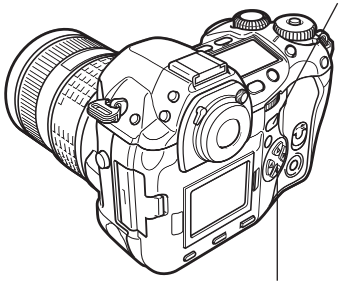
（5）レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください。レンズの焦点距離に約2倍した数字が35mmフィルムでのレンズの焦点距離になります。

（6）**専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。**

8 再生

1コマ再生

液晶モニタに撮影した画像を1コマ表示します。

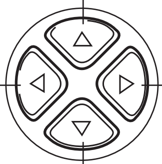


1 **▶（再生モード）ボタンを押します。**

- 液晶モニタが点灯し、一番最後に撮影した画像が表示されます。

2 **十字ボタン◁▷△▽で表示したい画像を選択します。**

- 画像の詳細情報やヒストグラムを表示できます。☞「情報表示」(P.113)





注意

- カメラで再生できる画像は、新しい画像から2000コマまでです。

クローズアップ再生 ／インデックス再生

■ クローズアップ再生

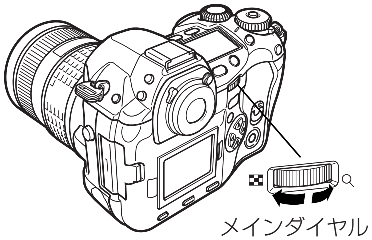
１コマ再生している画像を拡大表示します。画像の細部の確認に便利です。

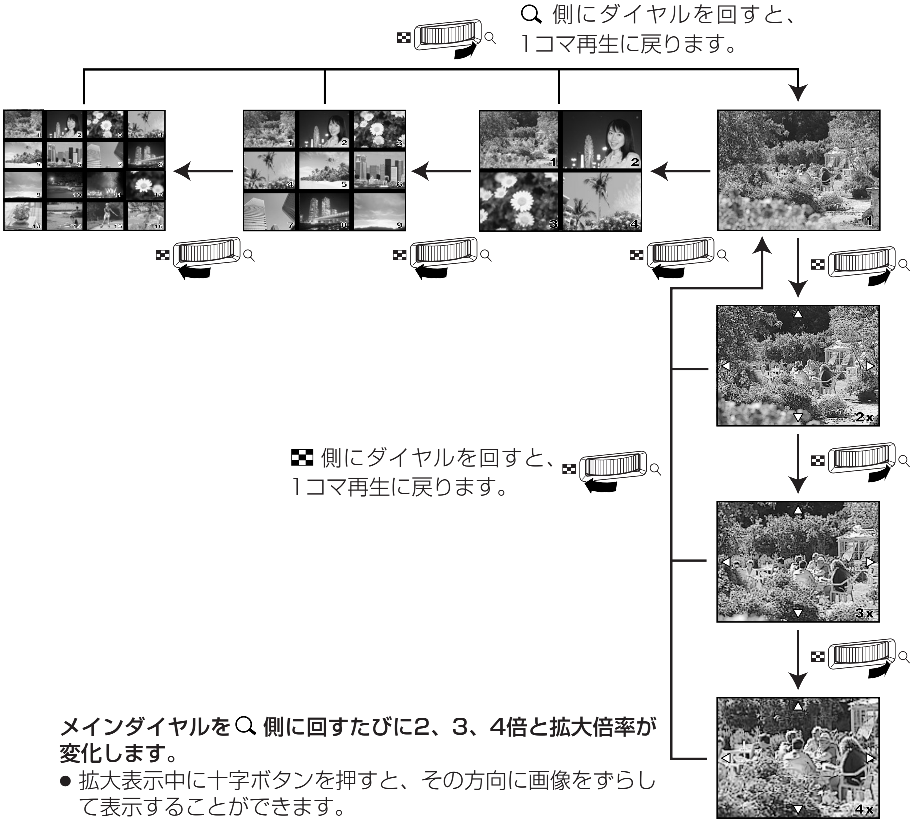
■ インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

メインダイヤルを 側に回すたびにコマ数が4、9、16コマと変化します。

- ◁ ： 前のコマへ移動
- ▷ ： 次のコマへ移動
- △ ： 左上の画像の前のインデックスを表示
- ▽ ： 右下の画像の次のインデックスを表示

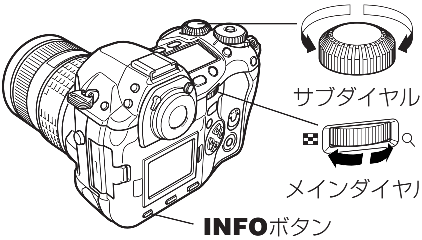




メインダイヤルを 側に回すたびに2、3、4倍と拡大倍率が変化します。

- 拡大表示中に十字ボタンを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。

画像の詳細情報を表示することができます。また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。



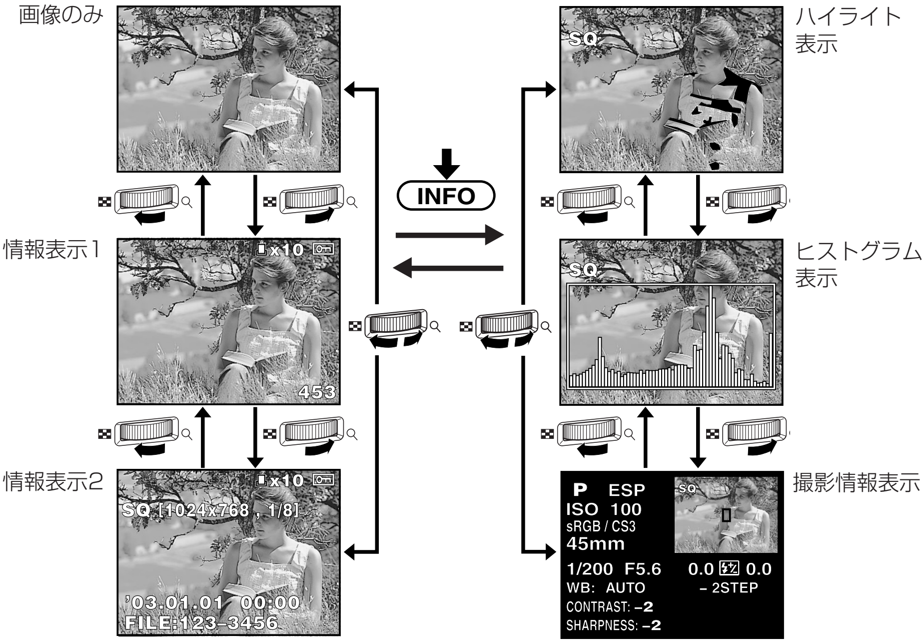
1 INFO（情報表示）ボタンを押しながら、ダイヤルを回して表示を切り替えます。
- 表示される画像情報量が変わります。
- この設定は記憶され、次回表示する際も、同じ表示がされます。

2 INFOボタンを一度押します。
- 詳細情報表示に切り替わります。

3 INFOボタンを押しながら、ダイヤルを回して表示を切り替えます。
- ハイライト表示・ヒストグラム表示・撮影情報表示の間で、表示が切り替わります。
- この設定は記憶され、次回表示する際も、同じ表示がされます。

4 INFOボタンを一度押します。
- 通常の画像情報表示に戻ります。
- **INFO**ボタンを押すたびに、手順1で設定した表示と手順3で設定した表示の間で切り替わります。

1コマ再生の情報表示　　詳細情報表示



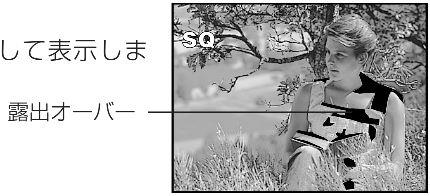
■ 情報表示1
コマ数・プリント予約・プロテクト



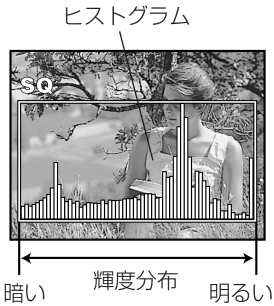
■ 情報表示2
プリント予約・プロテクト・画質モード・画像サイズ・圧縮率・日時・ファイル番号



■ ハイライト表示
撮影した画像の露出オーバーな部分を点滅して表示します。



■ ヒストグラム表示
撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示します。明るさをデータとして確認することで、より厳密な露出を次の撮影に反映できます。



ヒストグラムの活用
ヒストグラムは白トビや黒つぶれのチェックができます。ヒストグラムの右端付近が著しく突出したグラフの場合は、白トビの可能性があり、逆に左端付近が著しく突出したグラフの場合は、黒つぶれの可能性があります。露出を補正するか、構図を変えるなどして、再度撮影してください。

■ 撮影情報表示
露出モード、測光モード、画質モード、ISO感度、カラー設定／彩度、焦点距離などを表示します。☞「液晶モニタ内の表示（再生時のみ）」(P.17)



自動再生（スライドショー）

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約5秒間ずつ表示されます。一度に再生するコマ数は1、4、9、16コマの中から選択することができます。



1 **メニューから ▶ →自動再生→ 1、 4、 9、または 16 を選択します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)

2 **OKボタンを押すと自動再生がスタートします。**

3 **（メニュー）ボタンか ▶ （再生モード）ボタンを押すと停止します。**

注意

- 電池を使用して再生している場合は、1時間で電源が切れます。



4 を選択したとき

回転再生

撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。

1 **メニューから ▶ →回転再生→オンを選択しOKボタンを押します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)

2 **サブダイヤルを図のように回します。**
- サブダイヤルを右に回すたびに画像が時計方向に90度ずつ回転します。左に回すと半時計方向に回転します。
- 回転表示した状態は、カードに記録されます。



テレビ再生

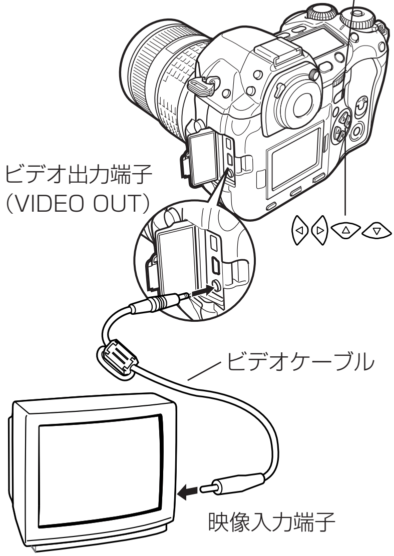
撮影した画像をテレビで再生することができます。

1 **カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。**

2 **テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。**

3 **カメラの電源を入れ、▶（再生モード）ボタンを押します。**

- 一番最後に撮影した画像が表示されます。十字ボタンで再生したい画像を選択します（P.111）。
- クローズアップ再生、インデックス再生、自動再生をすることができます。



注意

- ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください ☞「ビデオ出力」（P.135）。
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。
- テレビ画面上では画像がやや小さめで、画像の外側に黒枠が表示されます。ビデオプリンタで画像を出力した場合、黒枠がプリントされることがあります。

RAW編集

RAWデータ形式で記録した画像に、ホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、TIFFやJPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。

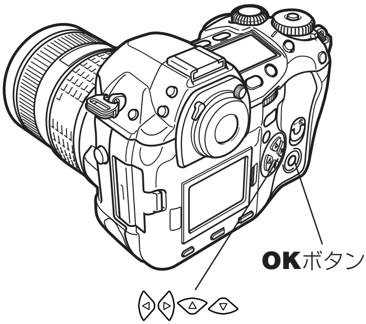
1 **この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。あらかじめ編集可能な項目（下記参照）を設定しておきます。**

2 **メニューから ▶ →RAW編集を選択します。▷を押します。**
- ［RAW編集］画面が表示されます。

☞「メニューの操作方法」(P.42)

3 **◁▷△▽ を押して、画像を選択します。OKボタンを押します。**
- 画面に処理中のバーが表示されます。バーが消えると、画像処理が終了です。
- 新しいファイルとしてカードに記録されます。

4 **他の画像を編集する場合は、十字ボタンで画像を選択します。**
- RAW編集を終了するときは、☰（メニュー）ボタンを押して、メニューに戻ります。





RAW編集で設定可能な項目

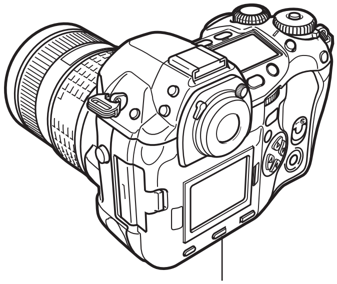
ホワイトバランス（WB）	P.89
彩度	P.98
コントラスト	P.97
シャープネス	P.96
画質モード（ ）	P.83
カラー設定	P.101

画像のプロテクト

誤って画像を消去してしまわないように画像を消去禁止に設定することができます。

1 **プロテクトをかけたい画像を再生します。**

2 **（プロテクト）ボタンを押します。**
- 画面に が表示されます。





プロテクトを解除するには
プロテクトされている画像を再生し ボタンを押します。

注意
- カードをフォーマットした場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。
- プロテクトされた画像は回転再生できません。

画像の消去

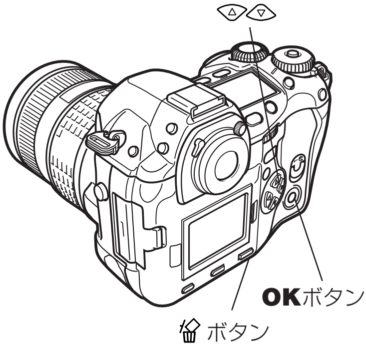
1コマ消去

画像を1コマずつ消去します。

1 消去したい画像を再生します。

2 （消去）ボタンを押します。
- ［1コマ消去］画面が表示されます。

3 を押して[実行]を選択し、**OK**ボタンを押します。





1コマ消去画面

消去メニュー設定

（カスタム）メニューの［消去メニュー設定］で、初期設定のカーソルの位置を、[実行]に設定できます。
☞「消去メニュー設定」（P.131）

注意
- プロテクトされた画像は消去できません。

8 再生

選択コマ消去

インデックス再生の状態で、選択した画像を一度に消去できます。インデックス再生している画面の範囲で、複数画像を選択して消去できます。

1 **インデックス再生をします。**

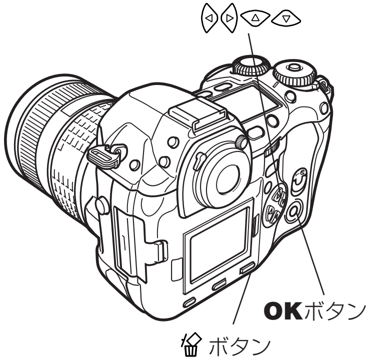
2 **で緑の選択枠を消去したい画像に合わせて、OKボタンを押します。**

- 消去が選択された画像は赤枠で表示されます。
- 選択を取消すには、再度**OK**ボタンを押します。

3 **消去するコマを選択し終えたら、（消去）ボタンを押します。**

- ［選択コマ消去］画面が表示されます。

4 **を押して[実行]を選択し、OKボタンを押します。**





インデックス表示画面



選択コマ消去画面

消去メニュー設定

（カスタム）メニューの［消去メニュー設定］で、初期設定のカーソルの位置を、[実行]に設定できます。

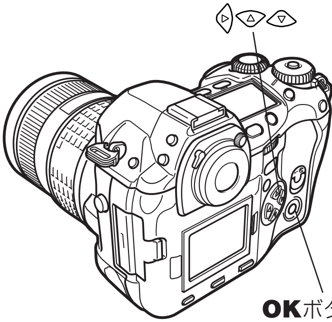
☞「消去メニュー設定」（P.131）

注意

- プロテクトされた画像は消去できません。

全コマ消去

カード内のすべての画像を消去します。



1 **メニューから📷→カードセットアップを選択し、◁を押します。**
- ［カードセットアップ］画面が表示されます。
  ☞「メニューの操作方法」(P. 42)

2 **△▽ を押して、[全コマ消去]を選択します。OKボタンを押します。**
- ［全コマ消去］画面が表示されます。

3 **△▽ を押して、[実行]を選択します。OKボタンを押します。**
- 全コマ消去が実行されます。



カードセットアップ画面



全コマ消去画面

消去メニュー設定

(カスタム) メニューの［消去メニュー設定］で、初期設定のカーソルの位置を、[実行]に設定できます。
☞「消去メニュー設定」(P.131)

注意
- プロテクトされた画像は消去できません。

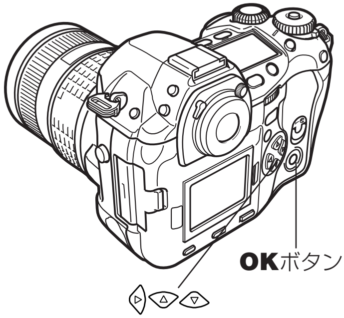
8 再生

9 機能・設定のカスタマイズ

カスタムリセット設定

このカメラでは、設定を変更した機能は、電源を切ってもリセットされません。出荷時の設定に戻したいときは、リセット操作を行ってください。また、[カスタムリセット設定]で、リセット内容を4通りまで登録でき、登録した内容へのリセットも可能です。

リセット内容の登録



1 **メニューから🔧1→カスタムリセット設定を選択します。▷を押します。**

- [カスタムリセット設定] 画面が表示されます。

☞「メニューの操作方法」(P.42)



2 **△▽ を押して、リセット1・リセット2・リセット3・リセット4から、いずれかを選択します。▷を押します。**

- すでに登録している場合、上記の選択肢には[登録]と表示されます。



3 **登録する場合：**
△▽ を押して、[登録]を選択します。OKボタンを押します。

- 現在の設定が登録されます。

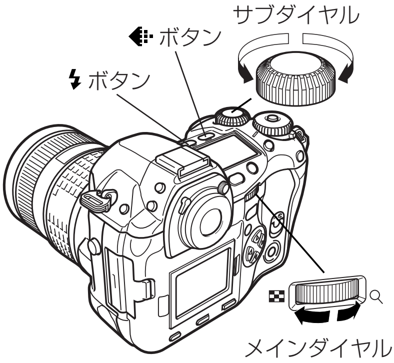
登録を解除する場合：
△▽ を押して、[クリア]を選択します。OKボタンを押します。

- 設定の登録が解除されます。

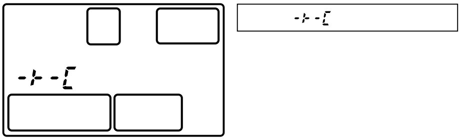
リセット操作

1 **（画質モード）ボタンと（フラッシュモード）ボタンを同時に押します。**

- コントロールパネルに -r-C （リセットキャンセル）が表示されます。
- リセットを実行しない場合は、ボタンをはなしてください。



コントロールパネル　　ファインダ

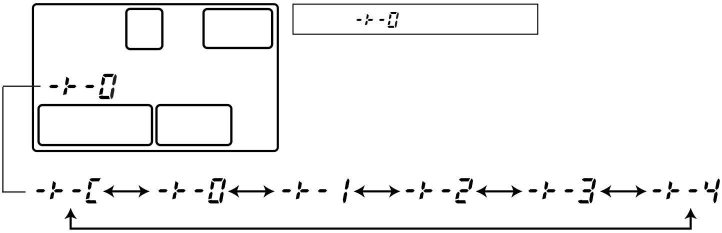


2 **ボタンを押したまま、メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。**

-r-0 ：出荷時の設定内容にリセットされます。
-r-1 ：[リセット1]に登録された内容にリセットされます。
-r-2 ：[リセット2]に登録された内容にリセットされます。
-r-3 ：[リセット3]に登録された内容にリセットされます。
-r-4 ：[リセット4]に登録された内容にリセットされます。

- 未登録のリセット番号は、表示されません。

コントロールパネル　　ファインダ



3 **使用するリセット番号が、表示されたらボタンをはなします。**

- カメラの設定が、選択した内容にリセットされます。

[カスタムリセット設定]で登録可能な機能と初期設定にリセットできる機能

	機能		初期設定(-+-0)	登録可否
メニュー機能		(P.108)	0.0	○
	彩度	(P.98)	CS2	○
	コントラスト	(P.97)	0	○
	シャープネス	(P.96)	0	○
	カラー設定	(P.101)	sRGB	○
	WB BKT	(P.76)	オフ	○
	RAW·JPEG	(P.86)	オフ	○
	ノイズフィルタ	(P.99)	オフ	○
	ノイズリダクション	(P.99)	オフ	○
	シェーディング補正	(P.101)	オフ	○
	AFイルミネータ	(P.59)	オン	○
	低振動モード	(P.82)	オフ	○
	回転再生	(P.115)	オフ	–
	露出ステップ	(P.129)	1/3EV	○
	ISO感度拡張	(P.88)	オフ	○
	WB補正	(P.94)	±0	○
	SQ	(P.85)	1280 x 960、1/8	–
	AEL/AFLモード＊1	(P.126)	mode1/mode6	–
	ダイヤル＊2	(P.130)	Ps/絞り/シャッタ速度	–
	フォーカスリング	(P.131)		–
	S-AF時MF	(P.56)	オフ	–
	レリーズ優先S	(P.58)	オフ	–
	レリーズ優先C	(P.58)	オフ	–
	レンズリセット	(P.131)	オン	–
	PCモード	(P.137)	ストレージ	–
	消去メニュー設定	(P.131)	中止優先	–
	ファイルネーム	(P.132)	オート	–
	レックビュー	(P.133)	オフ	–
	ビープ音	(P.133)	オン	–
	モニタ調整	(P.133)	0	–
	スリープ時間	(P.134)	1分	–
		(P.135)	日本語	–
	ビデオ出力	(P.135)	NTSC	–

○ ： 登録可
– ： 登録不可。リセット1～4の登録内容にリセットしたときは、現在、使用している設定が保持されます。初期設定には戻りません。

＊1　設定しているフォーカスモードによって、初期設定が変わります。
＊2　設定している露出モードによって、初期設定が変わります。

	機能		初期設定(-ト-0)	登録可否
ボタン・ダイヤルによる設定	ISO感度	(P.87)	オート	○
	露出補正	(P.69)	0.0	○
	ホワイトバランス	(P.89)	オート	○
	画質モード	(P.83)	HQ	○
	フラッシュモード＊2	(P.104)	オート／強制発光	○
	オートブラケット撮影	(P.74)	オフ	○
	測光モード	(P.72)	ESP	○
	ドライブモード	(P.77)	単写	○
	AFフレーム選択	(P.54)	[•••]（3点）	○
	シャッター速度＊2	(P.65)	1/60	○
	絞り値＊3	(P.63)	F2.8	○
	再生モード	(P.111、113)	1コマ再生（情報表示なし）	−
	情報表示	(P.113)	ハイライト表示	−

○ ： 登録可
− ： 登録不可。リセット1～4の登録内容にリセットしたときは、現在、使用している設定が保持されます。初期設定には戻りません。

＊2　設定している露出モードによって、初期設定が変わります。
＊3　設定している露出モードと取りけているレンズによって、初期設定が変わります。

AEL／AFLモード

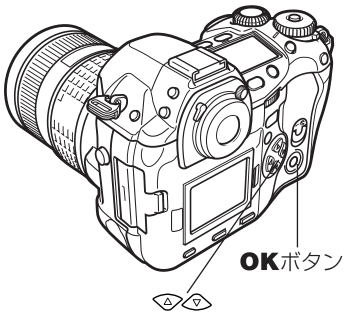
AEL（AEロック）ボタンの機能と、シャッターボタンの半押しでの機能（フォーカスロックや、露出の固定）との関係を使い方に応じて選択できます。
たとえば、

- フォーカスをロックしておいて、最後にAEを決めて撮影。
- AEをロックしておいて、最後にフォーカスを決めて撮影。
- AEとAFを決めておいて、シャッターチャンスを待って撮影。

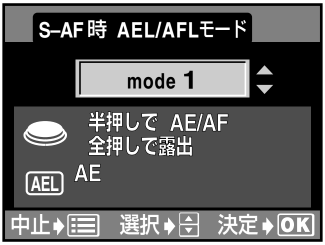
S-AFモード、C-AFモード、MFモードのそれぞれで、選択できるモードは異なります。

1 メニューから 1 →AEL/AFLモード→S-AF、C-AFまたはMFを選択します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)

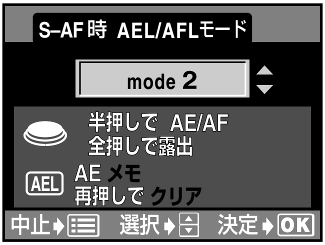
2 △▽ を押して、モードを選択します。**OK**ボタンを押します。
S-AF ：mode1からmode5のうち、いずれかを選択します。
C-AF ：mode6かmode7を選択します。
MF ：mode1からmode5のうち、いずれかを選択します。



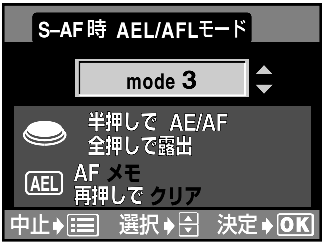
■S-AFモードで選択できるモード



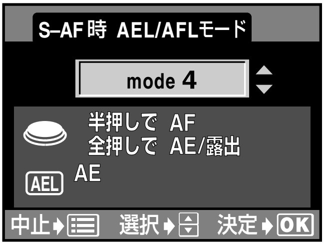
mode 1
シャッターボタンの役割：半押しでピントと露出値を固定。全押しで撮影。
AELボタンの役割：**AEL**ボタンを押している間、露出値を固定。
• **AEL**ボタンを押して固定した露出値は、シャッターボタンの半押しで固定した露出値より優先されます。



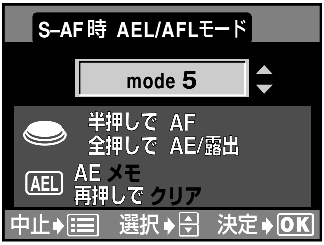
mode 2
シャッターボタンの役割：半押しでピントと露出値を固定。全押しで撮影。
AELボタンの役割：**AEL**ボタンを一度押すと露出値を固定（AEメモ）。再度**AEL**ボタンを押すとAEメモは解除。
• AEメモで記憶した露出値は、シャッターボタンの半押しで固定した露出値より優先されます。



mode 3
シャッターボタンの役割：半押しでピントと露出値を固定。全押しで撮影。
AELボタンの役割：AELボタンを一度押すとピントを固定（AFメモ）。再度**AEL**ボタンを押すとAFメモは解除。
• AFメモで記憶したピントは、シャッターボタンの半押しで固定したピントより優先されます。



mode 4
シャッターボタンの役割：半押しでピントを固定。全押しで、そのときの露出値で撮影。
AELボタンの役割：AELボタンを押している間、露出値を固定。
• **AEL**ボタンを押して固定した露出値は、シャッターボタンの全押しのときの露出値より優先されます。



mode 5
シャッターボタンの役割：半押しでピントを固定。全押しでそのときの露出値で撮影。
AELボタンの役割：AELボタンを一度押すと露出値を固定（AEメモ）。再度**AEL**ボタンを押すとAEメモは解除。
• AEメモで記憶した露出値は、シャッターボタンの全押しのときの露出値より優先されます。

■C-AFモードで選択できるモード

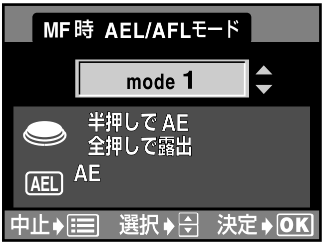


mode 6
シャッターボタンの役割：半押しで露出値を固定。全押しでピントを固定して撮影。
AELボタンの役割：AELボタンを一度押すと露出値を固定（AEメモ）。再度**AEL**ボタンを押すとAEメモは解除。
• AEメモで記憶した露出値は、シャッターボタンの半押しで固定した露出値より優先されます。

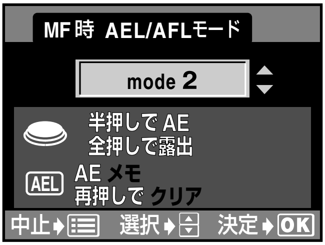


mode 7
シャッターボタンの役割：全押しでピントと露出を固定して撮影。
AELボタンの役割：AELボタンを押している間、露出値を固定。
• **AEL**ボタンを押して固定した露出値は、シャッターボタンの全押しのときの露出値より優先されます。

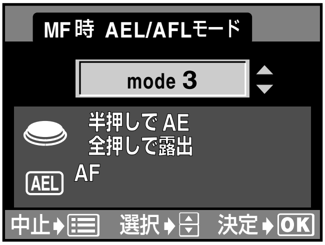
■MFモードで選択できるモード



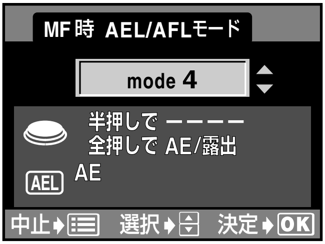
mode 1
シャッターボタンの役割：半押しで露出値を固定。全押しで撮影。
AELボタンの役割：**AEL**ボタンを押している間、露出値を固定。
- **AEL**ボタンを押して固定した露出値は、シャッターボタンの半押しで固定した露出値より優先されます。



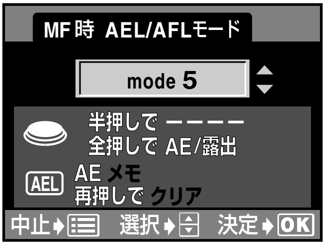
mode 2
シャッターボタンの役割：半押しで露出値を固定。全押しで撮影。
AELボタンの役割：**AEL**ボタンを一度押すと露出値を固定（AEメモ）。再度AELボタンを押すとAEメモは解除。
- AEメモで記憶した露出値は、シャッターボタンの半押しで固定した露出値より優先されます。



mode 3
シャッターボタンの役割：半押しで露出値を固定。全押しで撮影。
AELボタンの役割：**AEL**ボタンを押している間、AFします。
- **AEL**ボタンを離した後、フォーカスリングを使って、ピントを移動できます。



mode 4
シャッターボタンの役割：全押しでそのときの露出値で撮影。
AELボタンの役割：**AEL**ボタンを押している間、露出値を固定。
- **AEL**ボタンを押して固定した露出値は、シャッターボタンの全押しのときの露出値より優先されます。

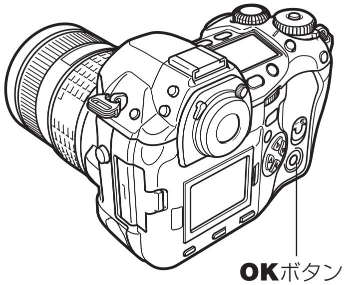


mode 5
シャッターボタンの役割：全押しでそのときの露出値で撮影。
AELボタンの役割：**AEL**ボタンを一度押すと露出値を固定（AEメモ）。再度**AEL**ボタンを押すとAEメモは解除。
- AEメモで記憶した露出値は、シャッターボタンの全押しのときの露出値より優先されます。

露出ステップ

シャッター速度・絞り値・露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを切り替えます。

1 メニューから 1 → 露出ステップ → 1/3EV、1/2EVまたは1EVを選択し、**OK**ボタンを押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



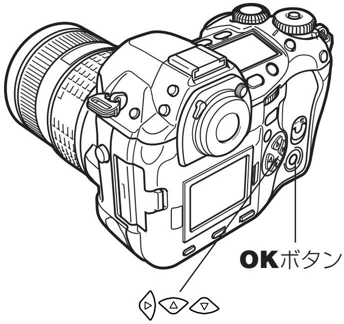


ダイヤル

P・A・Sのモード別に、メインダイヤルとサブダイヤルにプログラムシフト（Ps）・露出補正・絞り・シャッター速度変更の機能の組み合わせを選択できます。

1 **メニューから🔧1→ダイヤル→P、A、Sからモードを選択します。▷を押します。**

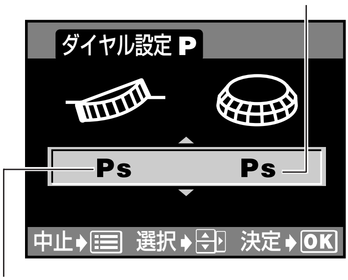
- ［ダイヤル設定］画面が表示されます。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



2 **モードにより割り当てられる機能は以下のように異なります。**

P	Ps、露出補正
A	絞り、露出補正
S	シャッター速度、露出補正

△▽を押してメインダイヤルとサブダイヤルの機能の組み合わせを選択します。



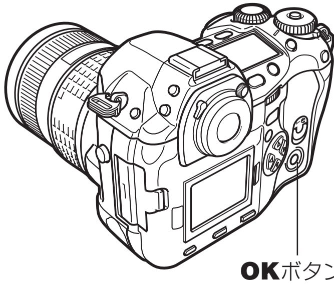
3 **OKボタンを押します。**

- 割り当てが変更されます。

レンズリセット

電源を切ったときの、フォーカスレンズ位置をリセットします。

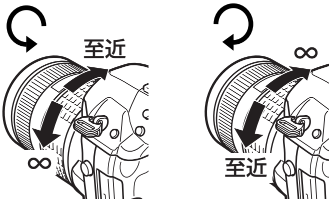
1 メニューから🔧1→レンズリセット→オフまたはオンを選択し、**OK**ボタンを押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



フォーカスリング

フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り替えることができます。

1 メニューから🔧1→フォーカスリング→↻または↺を選択し、**OK**ボタンを押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



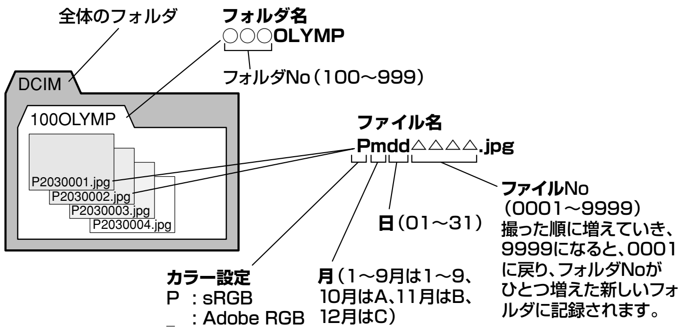
消去メニュー設定

［1コマ消去］・［全コマ消去］・［選択コマ消去］・［カード書き込み中止］・［フォーマット］画面における選択枠の初期位置を、［実行］に置くか、［中止］に置くかを選択することができます。

1 メニューから🔧1→消去メニュー設定→[実行優先]または[中止優先]を選択し、**OK**ボタンを押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときに、ファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。



■ ファイルネームの設定

オート

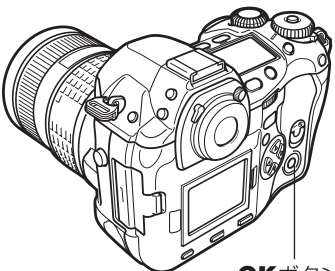
カードを入れ換えても、ファイルNoは通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNoと重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNoに続いた番号が付けられます。

リセット

新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNoに続けて番号が付けられます。

1 メニューから 2 →ファイルネーム→リセットまたはオートを選択し、OKボタンを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.42)



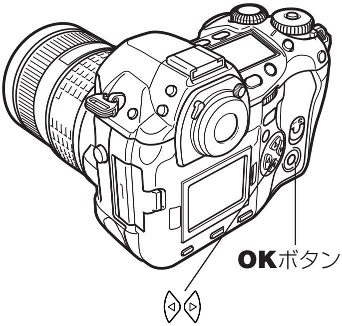
注意

- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

レックビュー

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も選択できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

オフ　：記録中の画像は表示されません。
オート：撮影した画像をカードに記録するとき、記録時間に応じて表示します。
5秒　：5秒間画像を表示します。
20秒　：20秒間画像を表示します。



1 **メニューから 2 →レックビュー→オフ、オート、5秒または20秒を選択し、OKボタンを押します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)

ビープ音

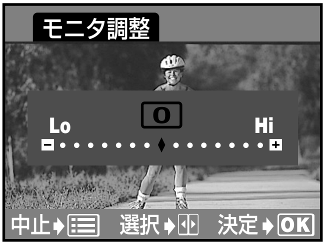
カメラが発するボタンを押したときの音や警告音をオン／オフすることができます。

1 **メニューから 2 →ビープ音→オフまたはオンを選択し、OKボタンを押します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)

モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

1 **メニューから 2 →モニタ調整を選択し、▷を押します。**
● ［モニタ調整］画面が表示されます。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



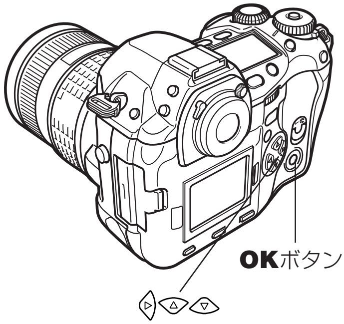
2 **◁▷を押して、明るさを調整します。OKボタンを押します。**

9
機能・設定のカスタマイズ

スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消耗を抑えます。［スリープ時間］では、スリープモードに入るまでの時間を設定することができます。［オフ］に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

1 メニューから 2 →スリープ時間→オフ、1分、3分、5分または10分を選択し、OKボタンを押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



フォーマット（カードセットアップ）

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。このカメラではじめて使うカードや、パソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

注意

- フォーマットすると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは、大切なデータを消さないようご注意ください。

1 メニューから →カードセットアップを選択し、 を押します。
- ［カードセットアップ］画面が表示されます。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



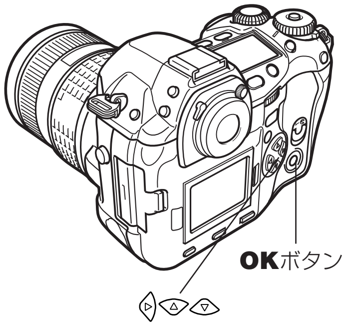
2 を押して、［フォーマット］を選択します。OKボタンを押します。
- ［フォーマット］画面が表示されます。

3 を押して、［実行］を選択します。OKボタンを押します。
- フォーマットが実行されます。

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。
海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

1 メニューから 2 →ビデオ出力→NTSCまたはPALを選択し、**OK**ボタンを押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)



主な国と地域の映像信号

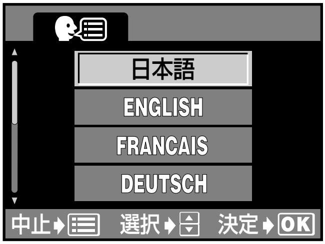
NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

表示言語の切り替え

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語でなく、他の言語にすることもできます。日本語に戻すこともできます。

1 メニューから 2 → を選択します。を押します。
☞「メニューの操作方法」(P.42)

2 を押して、表示したい言語を選択します。**OK**ボタンを押します。



9 機能・設定のカスタマイズ

日付・時刻の設定

日時の情報は画像とともに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。

1 メニューから 2 →日時設定を選択し を押します。

- 日時設定画面が表示されます。
  ☞「メニューの操作方法」(P.42)

2 を押して日付の順序を、“年-月-日”、“月-日-年”、“日-月-年”から選択し、 を押します。

- 以下の手順は“年-月-日”に設定した場合の説明です。

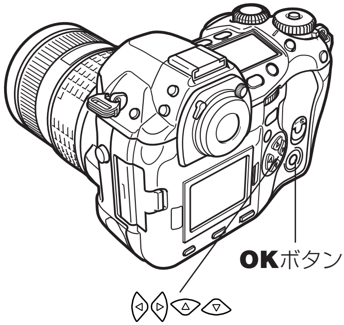
3 を押して年の項目を入力し、 で月の項にすすみます。

- を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- “年”の上 2桁は固定されています。

4 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

5 OKボタンを押します。

- 0秒の時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、正確に時刻を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。







注意

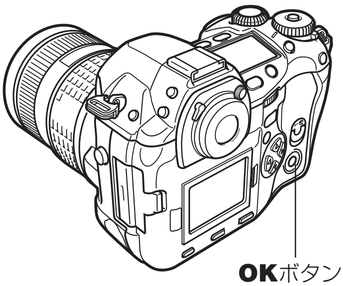
- 日時の設定は、内蔵電池によって約5ヶ月間保持されます。ただし、カメラの動作状態によっては、これより短い場合があります。カメラの電池をしばらく外したときは、日時の設定を確かめてください。内蔵電池はカメラの電池により約1日で充電されます。

PCモード

ストレージモードに設定すると、カメラとパソコンをケーブル接続したときに、カメラはハードディスクやCD-Rなどと同じ外部記憶装置として、自動的に認識されます。[カメラコントロール]モードに設定すると、付属のソフトウェアOLYMPUS Studio（体験版）を使うことで、カメラをパソコンからコントロールしたり、撮影画像を直接パソコンに記録したりできます。付属のソフトウェアOLYMPUS Viewerでは、画像の管理・閲覧やRAWデータの復元ができます。

ストレージ　　　　　：カメラとパソコンの間でデータ転送のみを行います。
カメラコントロール：OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。

1 **メニューから** 1 **→PCモード→ストレージまたはカメラコントロールを選択し、OKボタンを押します。**
☞「メニューの操作方法」(P.42)



注意

- カメラに付属されているソフトウェアOLYMPUS Studioは、体験版です。

10 プリント予約

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や日付を、印刷する指定を記憶させせることです。プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応プリントショップで簡単にプリントすることができます。
DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を、記録するための規格で、プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定を、カードに記録します。
プリント予約した画像は、以下の方法でプリントできます。

■ **DPOF対応のプリントショップでプリントする**
予約されている内容に従ってプリントできます。

■ **DPOF対応のプリンタでプリントする**
パソコンを使わずに、カードから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

オリンパス製プリンタDPOF対応表

機種名	選択コマ（1枚）	選択コマ(枚数指定)	トリミング	回転	日付	インデックス
P-400*1	○	○	○*2	×*2	×*3	×*3
P-200	○	○	○*1	×*1	○*2	×

*1　PCカードアダプタ（別売）が必要です。
*2　プリンタの機能で、画像の回転やトリミングができるものもありますが、このカメラでは、それらの予約はできません。
*3　日付・インデックスはプリンタで指定して出力できます。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ
写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は再生画像で確認してください。（P.113）

（例）　FILE: 100-0016

フォルダの通し番号　画像の通し番号

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画像サイズをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。

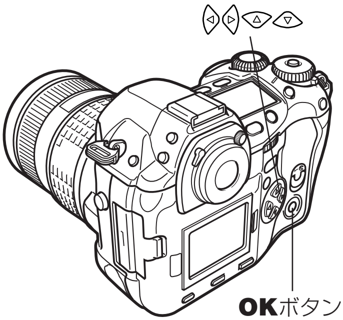
☞「画質モード」（P.83）

プリント予約をする前にお読みください

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- TIFFで記録された画像は、プリントできない場合があります。
- RAWデータで記録された画像は、プリント予約できません。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。
- DPOF規格の制限上、日付（年月日）か時刻（時分）のどちらかのみプリント予約できます。両方をプリントすることはできません。
- カードの中の画像数が多いと、予約処理に時間がかかることがあります。
  予約中に電源が切れたり、カードカバーを開けたりすると途中で終了してしまいます。予約する前に電池残量が十分な電池と交換するか、ACアダプタをご使用ください。途中で終了した場合は、やりなおしてください。
- インデックス予約には、撮影日時はプリントされません。
- 1枚のカードにつき予約できる画像の数は、998コマまでです。

1コマ予約

選択した画像のみをプリント予約します。プリント枚数、撮影日時のプリントを指定することができます。



1 メニューから ▶ →プリント予約を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P. 42）

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。
  ☞「プリント予約の解除」（P.143）



2 △▽で[1コマ予約]を選択し、**OK**ボタンを押します。



3 プリント予約したいコマを◁▷で、プリント枚数を△▽で選択します。
- プリント枚数は10枚まで設定できます。
- プリント枚数が0のときはプリント予約がされていません。



4 他に予約したいコマがあるときは、手順3を繰り返します。
他に予約したいコマがなければ、**OK**ボタンを押します。
- ［日時プリント］画面が表示されます。

5 △▽で日時プリントの設定をし、**OK**ボタンを押します。
- **なし**：画像のみがプリントされます。
  日付：すべての画像に撮影年月日がプリントされます。
  時刻：すべての画像に撮影時刻がプリントされます。



6 △▽で[予約する]を選択し、**OK**ボタンを押します。
- ▶ メニューに戻ります。



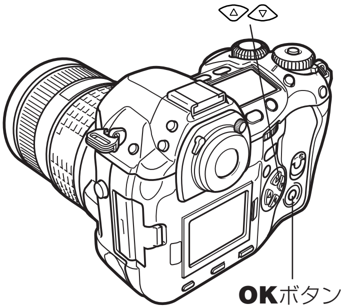
全コマ予約

カード内のすべての画像をプリント予約します。撮影日時のプリントを指定することができます。

1 **メニューから ▶ →プリント予約を選択し、▷を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.42)

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。
  ☞「プリント予約の解除」(P.143)



2 **△▽ で[全コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。**

- [日時プリント] 画面が表示されます。



3 **△▽ で日時プリントの設定をし、OKボタンを押します (P.140)。**



4 ⊘⊘ で[予約する]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- ▶ メニューに戻ります。



こんなときは

全コマ予約の前に行なった1コマ予約はどうなるか？

→ 1コマ予約されている画像はすべて1枚ずつの設定になります。

全コマ予約を設定した後に撮影された画像はどうなるか？

→ 後から撮影した画像には予約がされていません。全コマ予約を行なってください。

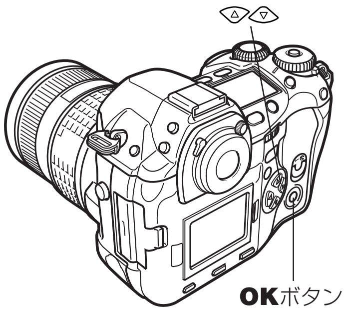
インデックス予約

カード内のすべての画像を複数並べてプリントします。1枚のプリントに出す画像の数はお使いのプリンタによって異なります。

1 メニューから ▶ →プリント予約を選択し、⊘を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.42）

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。
  ☞「プリント予約の解除」（P.143）



2 ⊘⊘ で[インデックス予約]を選択し、**OK**ボタンを押します。



3 ◇◇で[予約する]を選択し、**OK**ボタンを押します。

- ▶ メニューに戻ります。





インデックスプリント

こんなときは

インデックス予約を設定した後に、追加で撮影した

→ インデックス予約した後に追加された画像は、予約がされていません。再度、インデックス予約を行ってください。

プリント予約の解除

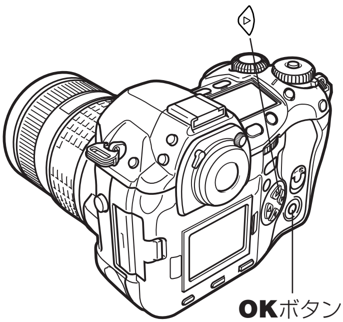
カード内の画像のプリント予約を解除します。インデックス予約を含む全ての予約を解除する方法と不要なコマの予約だけを解除する方法、インデックス予約のみを解除する方法があります。

全ての予約の解除

1 メニューから ▶ →プリント予約を選択し、◇を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.42)

- プリント予約を解除するかどうかの画面が出ます。



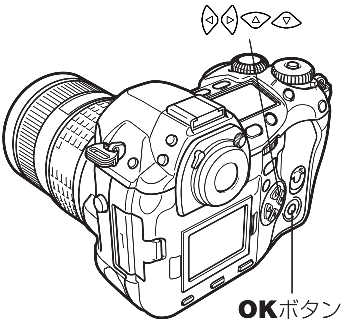
2 ［解除する］を選択し、**OK**ボタンを押します。

3 （メニュー）ボタンを押します。
- メニューに戻ります。



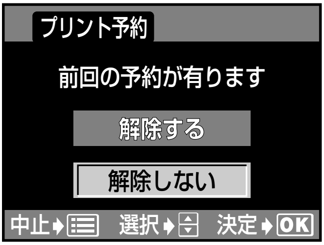
1コマ予約の解除

1 メニューから →プリント予約を選択し、 を押します。
「メニューの操作方法」（P.42）
- プリント予約を解除するかどうかの画面が出ます。



2 で［解除しない］を選択し、**OK**ボタンを押します。

3 で［1コマ予約］を選択し、**OK**ボタンを押します。



4 でプリント予約を解除したいコマを表示させ、 でプリント枚数を0にします。
- 他にも解除するコマがあるときは、これを繰り返します。



5 **終わったら、OKボタンを押します。**

- ［日時プリント］画面が表示されます。

6 **△▽で「なし」「日付」「時刻」から選択し、OKボタンを押します。**

- 残ったプリント予約されているコマに、選択した設定が適用されます。



7 **△▽で[予約する]を選択し、OKボタンを押します。**

- 設定が記録されます。
- ▶ メニューに戻ります。

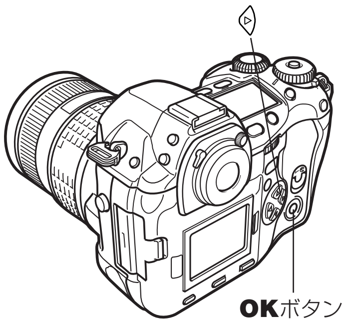


インデックス予約の解除

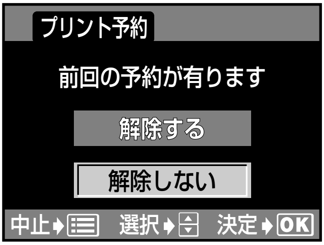
1 メニューから ▶ →プリント予約を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.42)

- プリント予約を解除するかどうかの画面が出ます。



2 △▽で［解除しない］を選択し、**OK**ボタンを押します。



3 ［インデックス予約］を選択し、**OK**ボタンを押します。



4 ［解除する］を選択し、**OK**ボタンを押します。

- インデックス予約のみが解除され、メニューに戻ります。



11 パソコンに読み込む

パソコンに読み込む方法

専用USBケーブルまたはIEEE1394ケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラのカードに保存されている画像をパソコンに取り込むことができます。
パソコン上でJPEGの画像を扱えるソフトウェア（付属のソフトウェアやその他のフォトレタッチソフト）があれば、パソコン上で、画像を加工したりプリントすることができます。プリントする場合は、お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

お使いのパソコンのOSによっては、はじめて接続する前にはドライバーのインストールが必要になります。
「フローチャートー操作の流れ」（P.148）の手順に従ってすすめてください。
この章に記載されているパソコンの画面表示は、パソコンの種類によって多少異なる場合があります。

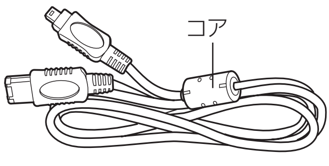
パソコンに取り込んだ画像

- パソコンに読み込んだ画像は、付属のソフトウェアやPaint Shop Pro、Photoshopなどのグラフィックソフトやインターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator/Microsoft Internet Explorerなど）のJPEGを扱えるアプリケーションソフトウェアで見ることができます。画像処理ソフトの使用方法については、対応ソフトの取扱説明書を参照してください。
- 画像処理は、必ずパソコンにコピーしてから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

付属の接続ケーブルについて

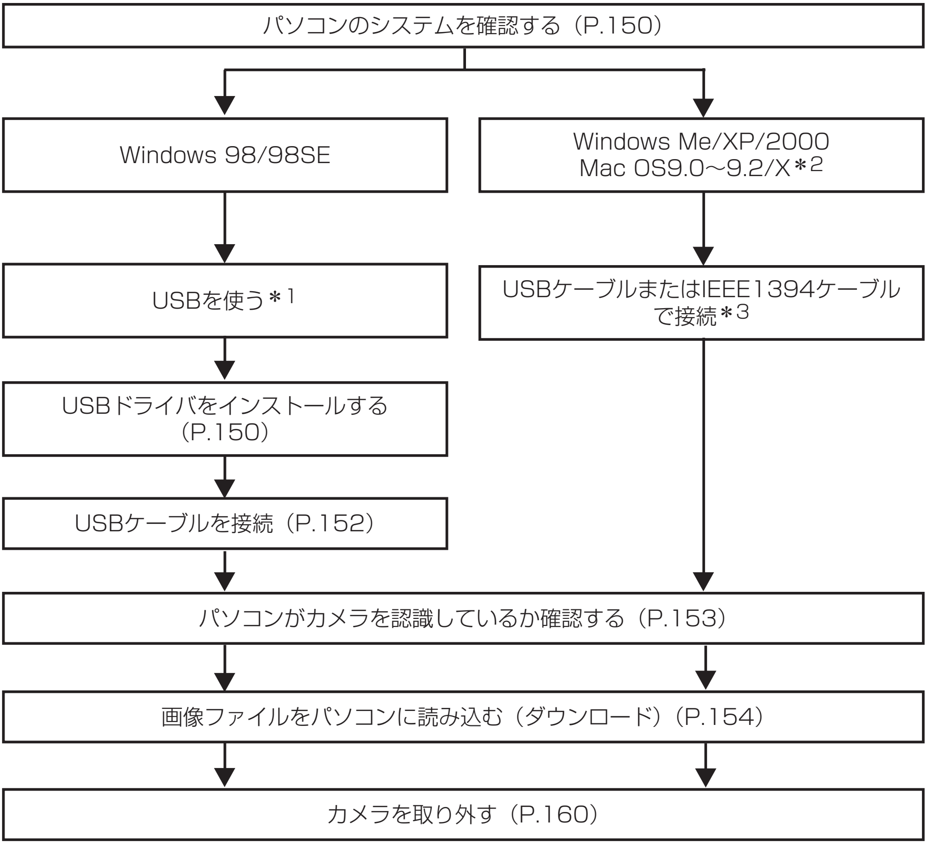
パソコンを接続するときは、必ず付属のケーブルをお使いください。ケーブルに取り付けられているコアは、取り外さないでください。

- USBケーブル
- IEEE1394ケーブル（コア：ZCAT2035-0930 TDK）



IEEE1394ケーブル

フローチャートー操作の流れ



＊1 以下のOS、仕様についてはUSB端子またはIEEE1394端子を装備していても正常な動作の保証はできません。

- Windows 95/NT 4.0
- Windows 95からアップグレードしたWindows 98/98SE
- Mac OS 8.6以下のバージョン
- 拡張カードなどでUSB端子または、IEEE1394端子を増設したパソコン
- 出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

＊2 IEEE1394のMac OSでの動作保証はMac OS 9.1～9.2/Xです。

＊3 付属のIEEE1394ケーブルはカメラ側が4ピン、パソコン側が6ピンです。

注意

- カメラをパソコンに接続して使用するときは電池の残量が十分にあることをご確認ください。パソコンとの接続中（通信中）は、スリープ状態（電池節約状態）にならないので、電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。パソコンとの通信時には、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切らないでください。
- IEEE1394やUSBのハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。

OSの確認

カメラをパソコンへ接続する前にお使いのパソコンのシステムを確かめます。ご使用のパソコンによってはじめて接続したときの操作が異なります。



Windows（DOS/V・PC/AT互換機）の場合
コントロールパネルのシステムプロパティの画面で確認



Mac OS（Macintosh）の場合
メニューバー上のアップルメニューから［このコンピュータについて］または[このMacについて]で確認

Windows 98/98SEをお使いの場合、Windows 98用USBドライバをインストールします。☞「Windows 98用USBドライバのインストール」（下記参照）
Windows Me/2000/XPお使いの方とMac OS 9/Xをお使いの方 ☞「カメラとパソコンのケーブル接続」(P.152)
上記以外のOSをお使いの方は、PCカードアダプタをお使いください（別売）。

Windows 98用USBドライバのインストール（Windows 98/98SEをご使用の場合）

Windows 98/98SEをお使いの方で、USBケーブルでパソコンと接続する場合は、ケーブルを接続する前に、USBドライバをパソコンにインストールしてください。1度インストールすれば、2回目の接続からは必要ありません。

1 **付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れます。**

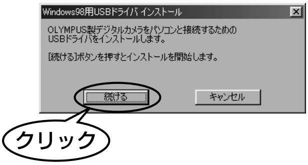
2 **自動的にメニュー画面が表示されます。メニュー画面左側の[Windows98用USBドライバのインストール]をクリックします。次に右側下の[Windows98用USBドライバのインストール]をクリックします。**



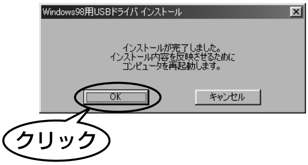
- 自動的に画面表示されない場合は、スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[CD-ROMドライブ名：￥information.exe]を指定して実行してください。
- CD-ROMのドライブ名はパソコンによって異なります。わからないときはデスクトップの[マイコンピュータ]をダブルクリックして確認します。

3 [続ける]をクリックします。

- ドライバのインストールが始まります。



4 インストールが終了すると、パソコンを再起動させる画面が表示されます。[OK]をクリックします。

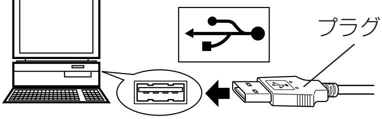


5 パソコンが再起動したら、USBドライバのインストールは終了しています。インフォメーションディスクのメニュー画面が表示されていたら、[終了する]をクリックしてCD-ROMドライブからCDを取り出してください。

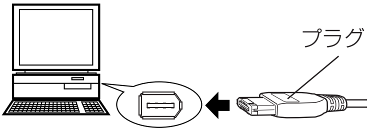
カメラとパソコンのケーブル接続

カメラとパソコンを接続するには、USBケーブルかIEEE1394ケーブルを使う2つの方法があります。カメラの[PCモード]をあらかじめ[ストレージ]に設定しておいてください。☞「PCモード」(P.137)

1 パソコンの端子にケーブルを差し込みます。



USBの場合

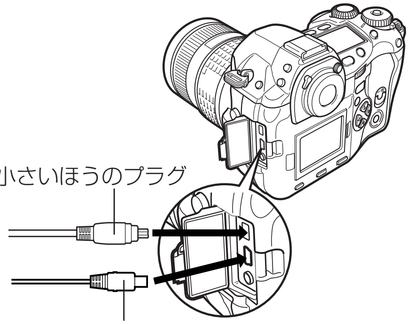


IEEE1394の場合

注意

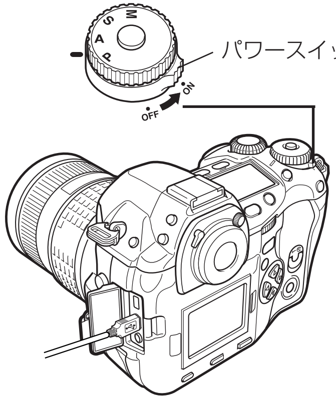
- USBケーブルとIEEE1394ケーブルを、2本同時にカメラに接続しないでください。

2 パワースイッチがOFFになっていることを確認し、カメラの端子にケーブルを差し込みます。

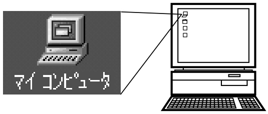


3 パワースイッチをONにします。

- カメラとパソコンを接続している間、コントロールパネルには何も表示されません。

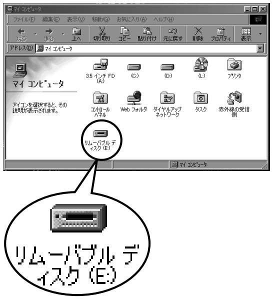


4 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。



- **Windows 98/98SE/Me/2000の場合**

  はじめてカメラとパソコンを接続したときは、自動的にパソコンがカメラを認識する動作を行い終了のメッセージが表示されます。
  [OK]をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは[リムーバブルディスク]として認識されます。

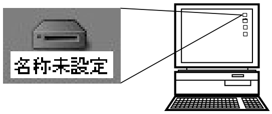


- **Windows XPの場合**

  パソコンに接続すると、画像ファイルの操作を選択する画面が表示されます。[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする]を選択して画面の指示に従って操作してください。
  この画面をキャンセルしてWindows 98などと同様の方法で画像のダウンロードをしたり、付属の画像管理ソフトウェアを使用することもできます。詳細はソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

- **Mac OS 9の場合**

  デスクトップに[名称未設定]アイコンが表示されます。表示されない場合は、カメラの電源を切って、パソコンとカメラの接続をやり直してください。



- **OS Xの場合**

  Apple Image Captureアプリケーションが自動的に起動します。デスクトップに[NO_NAME]アイコンが表示されます。



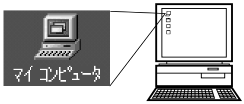
画像のダウンロード

パソコンのOSに付属のソフトを使って画像をパソコンにダウンロードします。

Windows 98/98SE/Me/2000/XPの場合

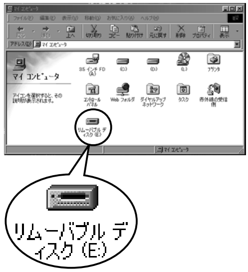
1 **パソコンのデスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。**

- Windows XPをお使いの場合は[スタートメニュー]の中にあります。

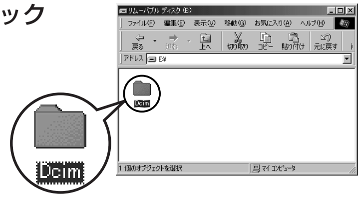


2 **[リムーバブルディスク]アイコンをダブルクリックします。**

- カメラが正しく認識されていればカメラは[リムーバブルディスク]としてアイコンが表示されています。

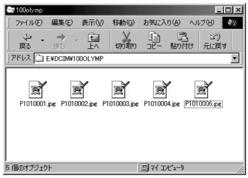


3 **[Dcim]フォルダのアイコンをダブルクリックします。**

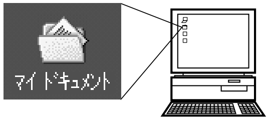


4 **[100olymp]フォルダのアイコンをダブルクリックします。**

- 画像ファイル（JPEGファイル）が表示され、[P1010001.jpg]などのアイコンが確認できます。



5 デスクトップの[マイドキュメント]アイコンをダブルクリックします。



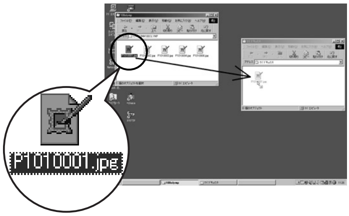
- デスクトップにない場合は、[スタート]メニューから[エクスプローラ]を選択して、エクスプローラのウィンドウを表示し、[マイドキュメント]アイコンをダブルクリックします。

- [マイドキュメント]フォルダのウィンドウが開きます。



6 パソコンに保存したい画像ファイル（ここではP1010001.jpg）のアイコンを[マイドキュメントフォルダ]にドラッグ&ドロップします。

- カメラの画像がパソコン（マイドキュメント）に保存されます。



画像ファイルの確認

画像ファイルをパソコンにダウンロードしたら、有効なドライブやフォルダに画像をファイルをコピーできます。また、パソコンに画像ファイルの関連付けが設定されていると、パソコンに転送した画像ファイルをダブルクリックして画像を確認することができます。画像を適当なサイズで見たり、画像の加工などを行なう場合は、別途、JPEG対応の画像加工ソフトか、付属のソフトウェアを使用します。

こんなときは

[リムーバブルディスク]アイコンをダブルクリックした後、[準備ができていません]などのメッセージが表示された場合

→ カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
ACアダプタの接続状態、電池の残量をご確認ください。

→ カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
カードの画像が、カメラの液晶モニタで表示できることをご確認ください。

エクスプローラーでカメラは認識できるが、開けない

→ カメラの[PCモード]が[カメラコントロール]に設定されている。
1度カメラとパソコンの接続をやめて、PCモードを確認してください。

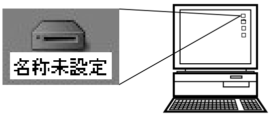
注意

- ダウンロード中はカメラのカードアクセスランプが点滅します。点滅している間は絶対にカメラのカードカバーを開けたり、電池を取り外したり、ACアダプタを抜き差ししたりしないでください。データが壊れる可能性があります。

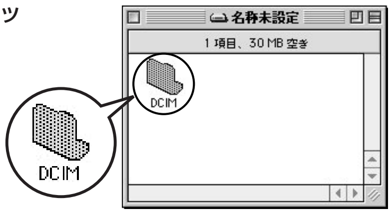
Macintoshの場合

画像をパソコン（ここでは、ハードディスク）へ保存します。

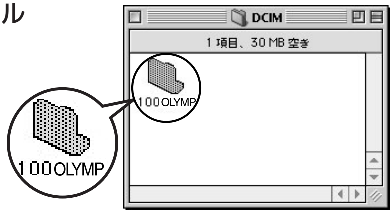
1 **カメラと接続することによってデスクトップに表示された[名称未設定]（または[NO_NAME]）アイコンをダブルクリックします。**



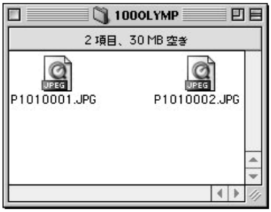
2 **「DCIM」フォルダのアイコンをダブルクリックします。**



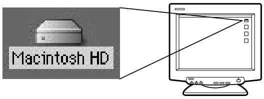
3 **[100OLYMP]フォルダのアイコンをダブルクリックします。**



● 画像ファイル（JPEG ファイル）が表示され、[P1010001.JPG]などのアイコンが確認できます。



4 **デスクトップの[ハードディスク]アイコンをダブルクリックします。**

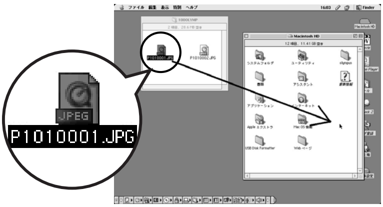


● [ハードディスク]フォルダのウィンドウが開きます。



5 **パソコンに保存したい画像ファイル（ここではP1010001.JPG）のアイコンをドラッグ&ドロップします。**

● カメラの画像がパソコン（ハードディスク）に保存されます。



11
パソコンに読み込む

画像ファイルの確認

パソコンでファイルタイプの設定がされていると、[ハードディスク]の画像ファイルをダブルクリックして画像を確認することができます。画像を適当なサイズで見たり、画像の加工などを行なう場合は、別途、JPEG対応の画像加工ソフトが必要です。

こんなときは

新たな[名称未設定]（または[NO_NAME]）アイコンが表示されない、または[名称未設定]（または[NO_NAME]）アイコンをダブルクリックした後、[準備ができていません]などのメッセージが表示された。

→ カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
→ カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
　撮った画像が、液晶モニタで確認できることをご確認ください。
→ パソコンとデジタルカメラのUSBケーブルでの接続状態に問題がある。

注意

- ダウンロード中はカメラのカードアクセスランプが点滅します。点滅している間は絶対にカメラのカードカバーを開けたり、電池を取り外したり、ACアダプタを抜き差ししたりしないでください。ファイルが壊れる可能性があります。

■ Mac OS Xの場合

パソコンがカメラを認識すると、Apple Image Captureアプリケーションが起動します。

1 **[ダウンロード先:]から、画像をダウンロードするフォルダを選択します。**



2 **画像をすべてダウンロードする場合は、[すべてをダウンロード]をクリックします。**
選択した画像のみダウンロードする場合は、[一部をダウンロード]をクリックしてダウンロードする画像を選択します。

- カメラから画像がダウンロードされます。

こんなときは

OS9等と同様の操作で画像のダウンロードを行いたい。

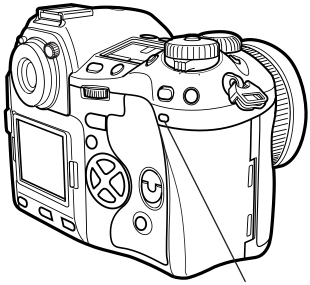
→ [ファイル―閉じる]を選択してApple Image Captureを閉じてください。このときカメラは[NO_NAME]と表示されています。

注意

- Apple Image Captureを使用した場合、画像をパソコンにダウンロード後、再びカードに転送するとカメラで再生できないなどの問題が発生する場合があります。

カメラの取り外し方

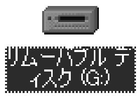
1 カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。

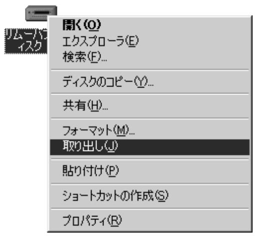


2 Windows 98の場合：

❶ [マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックして、[リムーバブルディスク]を右クリックし、メニューを表示させせます。

❷ メニューの[取り出し]をクリックします。





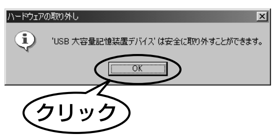
Windows Me/2000/XPの場合：

❶ システムトレイに表示されている [ハードウェアの取り外し]アイコンをクリックします。

❷ [ドライブ(E)を停止します]をクリックします。

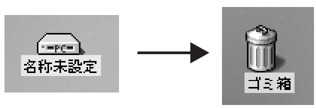
❸ [デバイスは安全に取り外すことができます]が表示されたら、[OK]をクリックします。



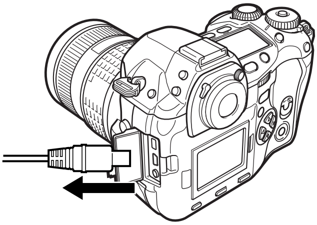


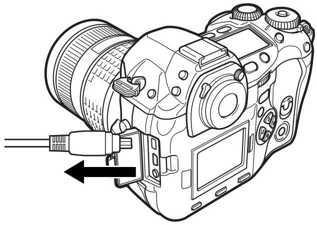
Macintoshの場合：

デスクトップの[名称未設定]（または[NO_NAME]）アイコンを[ごみ箱]にドラッグします。

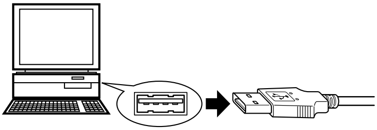


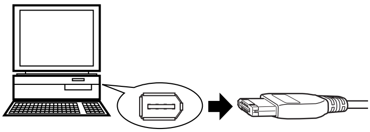
3 カメラからUSBケーブルまたはIEEE1394ケーブルを抜きます。





4 パソコンからUSBケーブルまたはIEEE1394ケーブルを抜きます。





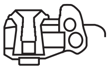
注意

- Windows Me/2000/XPの場合：[ハードウェアの取り外し]をクリックした際、[カメラを停止できません]という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。起動していたアプリケーションは終了し、[ハードウェアの取り外し]の操作を再度、行ってください。それから、ケーブルを外してください。

12 その他

エラーコード表示

ファインダの表示	コントロールパネルの表示（点滅）	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
通常表示	- - -	カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
Card E	-E-	このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
Card P	-P-	書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
表示なし	0	撮影可能枚数が 0 です	カードの撮影可能枚数が 0 のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	表示なし	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。

ファインダの表示	コントロールパネルの表示（点滅）	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	表示なし	この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
CArd oP	-O-	 カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
CArd F	-F-	このカードは使用できません	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
表示なし	-H-	表示なし	カメラの内部が過熱しています。	時間をおいてから電源を入れなおしてください。

故障かな？と思ったら

●準備操作

カメラが動かない/ボタンを押しても動作しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	パワースイッチを**ON**にしてください。	P.30
スリープモードになっている	シャッターボタンを半押ししてください。	P.134
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	P.21
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	―
パソコンに接続している	[ストレージ]モードでパソコンと接続中はカメラは動作しません。[カメラコントロール]モードでは、別売のソフトウェアOLYMPUS Studioが必要です。	P.137

●撮影

シャッターボタンを押しても撮影ができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	P.21
苦手被写体でAFができない	MFにして、手動でピント合わせをするか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてから撮影してください。	P.53、58
カードに記録中	連続撮影でカメラの一時メモリーが一杯になると撮影できません。連続撮影枚数表示が1以上になるのを待ってから撮影してください。	P.77
フラッシュ充電中（フラッシュ使用時）	[レリーズ優先]が[オフ]に設定されているときは、強制発光モードで、フラッシュ充電中は撮影できません。充電が終了してから撮影してください。	P.103
カード容量がいっぱいになった	新しいカードに交換するか、不要な画像を消去してください。	P.27、119
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（コントロールパネルの電池残量マークのみが点滅している）	電池を充電してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.21
カードに問題がある	エラーコード表示でご確認ください。	P.162

ファインダが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
視度調整をしていない	AFフレームがはっきりと見えるように調整してください。	P.31
レンズから迷光が入っている	レンズフードをお使いください。	—
ファインダから迷光が入っている	アイカップ（別売）をお使いください。	P.31
レンズやファインダが結露＊している	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度に馴染んで乾燥するのを待ってからお使いください。	—

画像ファイルに記録される日付が正しくない		
原因	こうしましょう	参照ページ
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.136
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で長く放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.136

電源を切っても設定が解除されない		
原因	こうしましょう	参照ページ
このカメラの仕様です	電源を切っても設定はクリアされません。リセット操作を行って設定をクリアしてください。	P.122

ピントが合わない		
原因	こうしましょう	参照ページ
被写体が近すぎる	お使いのレンズの最短撮影距離まで下がってから撮影してください。	—
オートフォーカス（AF）の苦手な被写体である	MFに設定して手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使って撮影してください。	P.53、58
被写体が暗い	メニューで[AFイルミネータ]を[オン]にしてください。	P.59
レンズやファインダが結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	—

*結露： 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

●再生画像

撮影した画像のピントが合っていない

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときに、カメラがブレてしまった	ブレた画像はピンぼけのように見えます。カメラを正しく構え、静かにシャッターボタンを押してください。望遠レンズを使う場合には特にご注意ください。	P.32
暗いところで、ISOをオートにしていた	シャッター速度が遅くなると手ブレが起きやすくなります。フラッシュを使うか、ISO感度を高くしてください。三脚の使用も効果的です。	P.87、102
［レリーズ優先］に設定されていた	このカメラでは、シャッターチャンスを逃さないために［レリーズ優先］設定が可能です。［レリーズ優先］設定がされていると、ピント合わせの途中でもシャッターを切ることができます。［レリーズ優先］を［オフ］にするか、ファインダーの合焦マークの点灯を確認してからシャッターボタンを押し込んでください。	P.58
MFに設定されていた	フォーカスリングを回して、合焦マークが点灯するところで撮影するか、フォーカスモードレバーをSまたはCにしてAFモードに設定してください。	P.55

撮影した画像が明るすぎる

原因	こうしましょう	参照ページ
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると、測光方式によらず周辺部が明るくなります。露出補正をアンダー（－）側に設定してください。	P.69
ISOが高感度設定になっている	ISOをオートまたは100に設定してください。それでも改善されない場合には、NDフィルターをお使いください。	P.87
A(M)モードで明るい絞り値が設定されている	絞り込んでください。または、Pモードに設定してください。	P.61、63
S(M)モードで遅いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を速くしてください。または、Pモードに設定してください。	P.61、65

撮影した画像が暗い

原因	こうしましょう	参照ページ
逆光で小さな被写体を撮影した	測光方式をスポットに設定して撮影してください。または、フラッシュをお使いください。	P.72、103
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると、測光方式によらず全体が暗くなります。露出補正をオーバー（＋）側に設定してください。	P.69
A(M)モードで暗い絞り値が設定されている	絞り値を開放にしてください。または、Pモードに設定してください。	P.61、63
S(M)モードで速いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を遅くしてください。または、Pモードに設定してください。	P.61、65

室内で撮影した画像の色がおかしい

原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。ワンタッチホワイトバランスを使うと、なお効果的です。	P.89
ホワイトバランスの設定をまちがえた	照明に合わせて再度ホワイトバランスを設定してください。	P.89

画像の一部が暗い

原因	こうしましょう	参照ページ
撮像系が汚れている	ダストリダクションを行い、撮像系のゴミを除去してください。	P.174

画像のハレーション部に不自然な色がつく

原因	こうしましょう	参照ページ
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	● UVフィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでのご使用をお薦めします。 ● 画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、PaintShopProなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行い、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	―

画像の左上が明るく写る		
原因	こうしましょう	参照ページ
長秒時の撮影では、CCD内部の駆動回路の発熱で発生することがあります。	[ノイズリダクション]を[オン]にして、撮影してください。	P.99

●再生

液晶モニタ上で再生できない		
原因	こうしましょう	参照ページ
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに[画像が記録されていません]と表示されます。撮影してから再生してください。	P.51
カードに異常がある	エラーコード表示でご確認ください。	P.162

カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
原因	こうしましょう	参照ページ
ビデオケーブルが正しく接続されていない	説明書にしたがって、正しくケーブルを接続し直してください。	P.116
カメラのビデオ出力設定があっていない	カメラのビデオ出力を使用する地域のテレビ映像方式に合わせてください。	P.135
テレビの入力設定が間違っている	テレビをビデオ映像入力モードに設定してください。	—

液晶モニタが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
モニタ輝度調整が適切でない	メニューでモニタの明るさを調整してください。。	P.133
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—
モニタカバーを取り付けている	このカメラには、液晶モニタを保護するために、モニタカバーが取り付けられています。画像が見づらいとき、詳細を確認したいときにはモニタカバーを外してください。	P.31

●PC接続

カメラがパソコンに認識されない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	パワースイッチを**ON**にしてください。	P.30
USBドライバーが正しくインストールされていない	Windows 98/98SEをお使いの方は、USBドライバをインストールしなおしてください。	P.150
カメラコントロールモードになっている	カメラで[PCモード]が[カメラコントロール]モードに設定されているとエクスプローラー等の一般のソフトウエアでは画像のダウンロードはできません。[ストレージ]モードに設定してください。	P.137

メニューディレクトリ

●撮影メニュー

メニュー	項目	選択肢	参照ページ
	カードセットアップ	全コマ消去 ― 消去、中止 フォーマット	P.134
	彩度	**CS** ― CS0 、CS1、**CS2**、CS3、CS4 CM1、CM2、CM3、CM4	P.98
	コントラスト	−2～ **0** ～+2	P.97
	シャープネス	−3～ **0** ～+3	P.96
	カラー設定	**sRGB** 、Adobe RGB	P.101
	WB BKT	**オフ** 、3F 2STEP、3F 4STEP、3F 6STEP	P.76
	RAW・JPEG	**オフ** 、オン	P.86
	ノイズフィルタ	**オフ** 、オン	P.99
	ノイズリダクション	**オフ** 、オン	P.99
	シェーディング補正	**オフ** 、オン	P.101
	AFイルミネータ	オフ 、**オン**	P.59
	低振動モード	**オフ** 、1秒～30秒	P.82
	ピクセルマッピング		P.174
		−2～ **0** ～+2	P.108

●再生メニュー

メニュー	項目	選択肢	参照ページ
	自動再生	**1** 、**4** 、**9** 、**16**	P.115
	回転再生	**オフ** 、オン	P.115
	RAW編集		P.117
	プリント予約	1コマ予約 、全コマ予約、 インデックス予約	P.139

**　　** : 初期設定

●カスタムメニュー

メニュー	項目	選択肢			参照ページ
1	露出ステップ	1/3EV、1/2EV、1EV			P.129
	ISO感度拡張	オフ、オン			P.88
	WB補正	オート	BLUE7～ ±0 ～RED7		P.94
		3000K			
		3300K			
		3600K			
		3900K			
		4000K			
		4300K			
		4500K			
		4800K			
		5300K			
		6000K			
		6600K			
		7500K			
	SQ設定	1600 x 1200	1/2.7、1/8		P.85
		1280 x 960			
		1024 x 768			
		640 x 480			
	AEL/AFLモード	S-AF	mode1 ～mode5		P.126
		C-AF	mode6、mode7		
		MF	mode1 ～mode5		
	ダイヤル	P	Ps	Ps	P.130
			Ps	露出補正	
			露出補正	Ps	
		A	絞り	絞り	
			絞り	露出補正	
			露出補正	絞り	
		S	シャッタ速度	シャッタ速度	
			シャッタ速度	露出補正	
			露出補正	シャッタ速度	

（網かけ）：初期設定

●カスタムメニュー

メニュー	項目	選択肢	参照ページ
1	フォーカスリング	**↺**、↻	P.131
	S-AF時MF	**オフ**、オン	P.56
	レリーズ優先S	**オフ**、オン	P.58
	レリーズ優先C	**オフ**、オン	P.58
	レンズリセット	オフ、**オン**	P.131
	PCモード	**ストレージ**、カメラコントロール	P.137
	消去メニュー設定	実行優先、**中止優先**	P.131
	クリーニングモード		P.175
	カスタムリセット設定	リセット1、リセット2、リセット3、リセット4 ― 登録、クリア	P.122

●セットアップメニュー

メニュー	項目	選択肢	参照ページ
2	日時設定		P.136
	ファイルネーム	リセット、**オート**	P.132
	レックビュー	**オフ**、オート、5秒、20秒	P.133
	ビープ音	オフ、**オン**	P.133
	モニタ調整	−7〜**0**〜+7	P.133
	スリープ時間	オフ、**1分**、3分、5分、10分	P.134
	(言語)	**日本語**、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH、ESPAÑOL、한국어	P.135
	ビデオ出力	**NTSC**、PAL	P.135

(網掛け)：初期設定

お手入れと保管

■ カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側

→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシングスクリーン

→ 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

■ カメラの保管

カメラを長期間使用しないときは、電池を外し風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。

CCDのクリーニングとチェック

このカメラはCCDにゴミが付着しない構造にするとともに、CCD前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときに働きます。またCCDと画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。
カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

ピクセルマッピングとダストリダクション

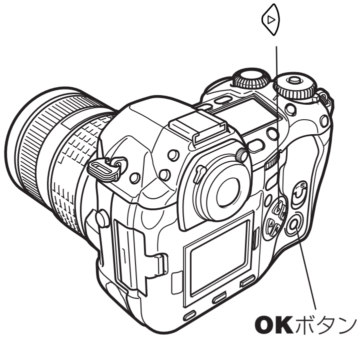
CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。同時に、CCDに付着したゴミを取り除くダストリダクションも働きます。

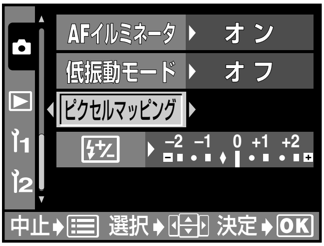
1 メニューから →ピクセルマッピングを選択し、 を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.42）

2 OKボタンを押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。







注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。
- 以下のようなゴミは、払い落とすことができません。
  －溶剤など粘着性の付着物
  －わたゴミのような軽いゴミ
  －画像に写り込まないほど非常に小さなゴミ

クリーニングモード

CCDのゴミやホコリは、ダストリダクション機能によりほとんど払い落とされますが、落としきれない場合、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。このような場合は、オリンパスのサービスステーションへ、クリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。
クリーニングするときは、専用のACアダプタをご使用ください（P.25）。電池をお使いの場合、クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。

1 **レンズを取り外します。**

2 **パワースイッチをONにします。**

3 **メニューから ĭ1 →クリーニングモードを選択し、◈ を押します。**

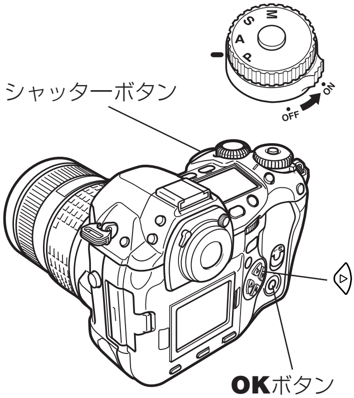
☞「メニューの操作方法」(P.42)

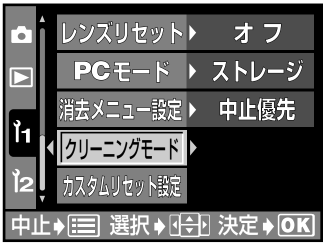
4 **OKボタンを押します。**
- クリーニングモードになります。

5 **シャッターボタンを全押しします。**
- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

6 **撮像素子をクリーニングします。**
- ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

7 **電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。**
- カメラの電源が切れると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。





注意

- ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。もし、ブロアーが撮像素子に触れたら、傷がつきます。
- ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
- ブロアー以外のものは使用しないでください。高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

仕様

■ 型式

型式	：レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
使用レンズ	：ズイコーデジタル・フォーサーズシステムレンズ
レンズマウント	：フォーサーズマウント
35mmフィルム カメラ換算焦点距離	：レンズ焦点距離の約２倍

■ 撮像素子

型式	：4/3型フルフレームトランスファータイプ原色CCD
カメラ部有効画素数	：約500万画素
画面サイズ	：17.3mm(H)x13.0mm(V)
アスペクト比	：1.33（4：3）

■ ファインダ

形式	：アイレベル一眼レフ方式
視野率	：上下左右とも約100%（対記録画像視野率）
ファインダー倍率	：0.96倍（$-1m^{-1}$、50mmレンズ・無限遠）
アイポイント	：20mm（$-1m^{-1}$時）
視度調整範囲	：-3.0～$+1.0m^{-1}$
光路分割	：クイックリターン式ハーフミラー
被写界深度確認	： プレビューボタンによる
フォーカシング スクリーン	：交換式
アイカップ	：交換式

■ 液晶モニタ

型式	：1.8型TFTカラー液晶
総画素数	：約13.4万画素

■ シャッター

型式	：電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	：1/4000～60秒（1/3,1/2,1段ステップ）バルブ（8分リミッター付き）

■ オートフォーカス

型式	：TTL位相差検出方式
測距点	：3点（左・中央・右）
AF輝度範囲	：EV0～EV19（ISO100換算・20℃）
測距点選択	：自動選択・任意選択
AFイルミネータ	：内蔵 有効距離：約0.7～約6m（ED50mmF2.0Macro使用）

■ 露出制御

測光方式	：TTL開放測光方式 （1）デジタルESP測光 （2）中央重点平均測光 （3）スポット測光（ファインダー画面の約2%）
測光範囲	：（1）EV1～20（デジタルESP測光/中央重点平均測光） （2）EV3～17（スポット測光） （常温・50mm　F2使用・ISO100相当）
露出モード	：（1）P：プログラムAE(プログラムシフト可能） （2）A：絞り優先AE （3）S：シャッター優先AE （4）M：マニュアル
ISO感度	：100～800（1600,3200の感度拡張可能）
露出補正	：±5段階の範囲で1/3,1/2,1段ステップで可能

■ ホワイトバランス

型式	：撮像素子と光源検出センサーを併用
設定方式	：オート/プリセット（12種）/ワンタッチ（4種登録可能）

■ 記録

記録媒体	：CFカード（タイプI,II準拠） マイクロドライブ対応（FAT32対応）
記録フォーマット	：DCF,DPOF準拠/Exif2.2対応、PRINT Image Matching II対応
記録画像種類	：RAW(12bit),TIFF(RGB),JPEG

■ 再生

表示形式	：1コマ表示/拡大表示/インデックス表示/回転表示
情報表示	：情報表示/ヒストグラム表示/ハイライト表示

■ ドライブ関係

ドライブモード	：1コマ撮影/連写/セルフタイマ/リモコン
連写性能	：3コマ/秒（最大連続撮影コマ数12コマ）*全ての画質モードにて
セルフタイマー	：12秒後撮影/2秒後撮影
光リモコン	：2秒後撮影/即時撮影

■ フラッシュ

シンクロ同調	：1/180秒以下で同調
調光方式	：TTL-AUTO（TTLプリ発光式）/AUTO/MANUAL
フラッシュ接点	：ホットシュー/外部フラッシュ端子（x接点）

■ 外部コネクタ

USB端子/IEEE1394端子/DC入力端子/ビデオ出力端子/リモートケーブル端子

■ 防塵・防滴

防塵・防滴シーリング使用/スーパーソニックウェーブフィルタ方式
（ダストリダクション機能標準装備）

■ 電源

電池	：リチウムイオン電池（BLM-1)1個
AC電源	：ACアダプタ（AC-1)（別売）
その他	：パワーバッテリーホルダーセット用電池（BLL-1)1個（別売）

■ 大きさ・質量

寸法	：141mm(W)X104mm(H)X81mm(D)(突起部を除く）
重さ	：約660g

■ 動作環境

温度	：0～40℃（動作時）/－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90%（動作時）/10～90%（保存時）

用語解説

圧縮率
画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

一眼レフ方式（single lens reflex camera）
撮影用レンズとファインダ用レンズをひとつのレンズで行うカメラ。カメラのなかに反射ミラーを置き、レンズを通った被写体の画像をそこに反射させて、ピントグラスに到達させます。そこでピントが合うようにしています。ファインダを通して見た構図やピントで撮影されます。

色温度
光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K（ケルビン）で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640x480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640x480のときではモニタ全体に表示されますが、1024x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

カラー空間
3つ以上の座標値で色を表すモデルのこと。色空間は、色のコード化と可視化に複数の手法を用いる場合があります。s RGB、Adobe RGBがそれにあたります。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子
外部フラッシュとカメラとの接続のための端子。

スポット測光
ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。被写体の特定の部分に露出を合わせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

中央重点測光
画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

スーパーESP測光（electro selective pattern）
周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

被写界深度
ある距離に焦点を合わせたとき、その距離にある被写体がはっきりと写るのと同時に被写体の前後でも、焦点が合っている範囲があります。このはっきりと写っている被写体の前後の奥行のことをいいます。

フラッシュブラケット
フラッシュを撮影レンズからはなして使うときに用いる器具。被写体の影のでき方を変えることができます。フラッシュケーブルと併せて使います。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

A モード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE （automatic exposure）
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

RAWデータ
未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社独自のファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッタースピード優先AE モード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF（tagged image file format）
モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。このカメラでは圧縮しない画像のフォーマットに採用しています。

TFT（thin-film transistor）
カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-taking-lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL-AUTO
外部フラッシュの機能。フラッシュから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、発光量をコントロールする方式。

TTL位相差検出方式
位相差をもとに被写体までの距離を測り、焦点を合わせる方式。

索引

♦ か行 ♦

♦ さ行 ♦

♦ た行 ♦

♦ な行 ♦

♦ は行 ♦

メモ

アフターサービスについて

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に当社で有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外での修理受け付けはできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指示した書面を同封し、十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう、宅配便か書留小包のご利用をお願いいたします。

お問い合わせいただく前に（お願い）

● より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
● FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
● 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

●お名前（フリガナ）
●連絡先： 郵便番号
ご住所（自宅か会社のいづれかを明記願います）
電話番号／FAX
E-mail
●製品名（型番）：
●シリアル番号（製品底面に記載されています）：
●お買い上げ日：

※以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。
●ご使用のパソコンの種類：
パソコンメーカー・型番等
●メモリの容量　ハードディスクの空き容量：
●OS名とバージョン：
（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
（Windows）コントロールパネルーシステム―デバイスマネージャーの内容
●その他接続されている周辺機器名：
●問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：
●問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：

OLYMPUS

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1　新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページで提供しております。

オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/

より「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● 電話等でのご相談窓口

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHSからは　0426-42-7499

FAX　**0426-42-7486**

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　9:30～21:00

土、日、祝日　10:00～18:00

（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● 修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL: 0266-26-0330　FAX: 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮　3-15-1　オリンパス岡谷修理センター

営業時間9:00～17:00（土・日曜、祝日および弊社休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)3403
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央１の13の4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6995
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

※ 土・日曜、祝日および夏期休業、年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

VT428302